

特57

211

025179-000-2

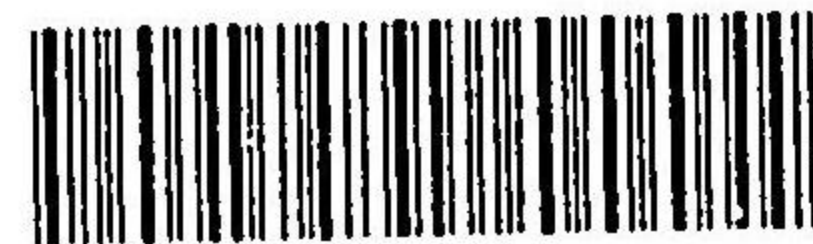
特57-211

伊勢参宮道中独案内

大矢 劔居 / 編

M22

ADC-2573



書 中 目 録	
○大坂より伊勢大廟及馬羽港への順路	第一丁
○西京二丁・大津四丁・草津六丁・石部七丁・水口八丁	
○土山九丁・坂下九丁・關十二丁・桶原十二丁・椋木十二丁	
○菟田十二丁・身田十二丁・大飯田十二丁・津十二丁・六軒十二丁	
○松坂十二丁・明星十二丁・山田十二丁・外宮十二丁・古市十二丁	
○内宮十二丁・浅間越十二丁・見手十二丁・山田より二見の順路	
○東海道本名より伊勢大廟の順路	第六十二丁
○未名十二丁・西宮十二丁・追分十二丁・神戶十二丁・白子十二丁	
○上野十二丁・津十二丁	
○全上り開き出づ順路	第六十三丁
○四市十二丁・石部十二丁・龜山十二丁・關十二丁	
○大和街道加太越順路	第六十四丁
○伊賀街道長野越順路	第六十五丁
○春日宮場阿保越奈良を經て大坂(順路)	第六十六丁
○六軒十二丁・浅間十二丁・名張十二丁・初瀬十二丁	
○丹波市十二丁・赤良十二丁・暗峠十二丁・三軒茶屋十二丁	
○熊野街道山田越分より阿田和まで順路	第六十七丁
○神社より三州豊橋までの湊船の事	全
○全尾州熱田に至る海路の事	全
○西太神宮の事	第七十八丁
○旅中の心得	八十二丁
○流車乗客心得	九十二丁
○沿道鉄道の圖	九十三丁
○流車時刻賃金表	九十三丁

伊勢道中獨案内
 附名所名産里程旅宿
 鈴木忠路 撰
 大矢劔居 輯
 完

皇太神宮主典 有馬百鞭君序
志摩 鈴木忠路先生校閱
全 大矢劍居先生編纂

伊勢參宮
道中獨案內

名所名産里程宿鉄道表

大岡吉
阪氏發兌

明治二十二年十二月新刊

57

序 懷梯

伊勢案内者伊勢人宜任志摩人
不宜作者矣。而今此書志摩賴方
村大矢兄任焉。且乞序於余。余亦
志摩旧藩士也。大疑其謬誤焉。徐
考之。志摩人作焉可矣。况序之乎。
夫志摩之為言。即益也。益人撰伊
勢多易之。或謂以為志摩。故志方
猶伊勢志摩人亦伊勢也。其兄之
以此書余出序此書亦何不可。余
從有此人出與余同其疑者。故一

特印 166/173

序

懷梯

伊勢系內者伊勢人宜作志摩

不直作者吳而今此書志摩縣方

村大矢元佐焉且乞序於余余亦

志摩曰藩士也夫疑其謬誤焉徐

考心志摩人作焉可笑况序之乎

夫志摩心為言即為也吾人撰伊

勢多易心處詔以為志摩故志于

猶伊勢志摩人亦伊勢又吳元心

以此書余出序此書亦何不可余

恐有世人出與余同其疑者故一

序

言以代其序。如其里程。故其確
實。與名勝名產之詳悉。則旅人之
購此書者。皆必徵之。其審幾而知
矣。固不待余嗷嗷也。

明治二十二年十月 兩太神

宮奉遷後十日。識於宇治林崎

文庫

羽港 有馬百鞭



伊勢 道中獨案内

凡例

一 余は本年春夏の頃。小西國地方を漫遊した
りしに。至る處の人々。小伊勢地の名ある所々を
問まじ。孰も太廟。ふ請てんと志す。或王す
る人の多かりを。知りしよ。を思ひ起し。遠津國
より。詣る人々の案内。ふもと。此小冊子を編集
せる事。と。な。し。ぬ

一 此書は大阪より伊勢。參宮の道標を本と。並
ふ其街道の左右。よ。於。ま。を。便宜地の神社佛閣
名勝古跡を添て記せり

一 名所舊蹟の外。古事古詠。未由縁起の類。よ
る名區山川の風景。固より。あ。し。物。や。し。神の
社。ふ。し。へ。人の趾歌枕の。と。も。ぐ。所々。面白き。而
小著し。且其由縁を。悉く。述。し。こと。は。旅の憂。を
さら。し。とも。な。さ。ぶ。し

一名高き石の名或は樹の名など真不見戯と雖も是亦習俗ふまゝくいて出せり又本書中宿驛ハ其左ニ付し旅宿名亦名産等ハ其の中各其標目を記し見出しの便とす

一本書ハ大人ハ固より婦女子ハ了解し易きやう極めて平易ニ編めり
巻尾ハ旅中心得を挿入しければ如何なる旅ハも裨益と爲る事多かりん別て伊勢参宮者ハ此書を袖小して尋ね行ハ道志るべ用をなすの事ハ又能き道づきともなり
なんぐし

明治廿二年初冬

編輯者識

以呂波音度

神道黒住派教導職 加藤右門謹誌

善さ 伊勢の五十鈴の善く

川水見れば善世く

こころ冷じくられと さく清み返へる

彌常世の善日也

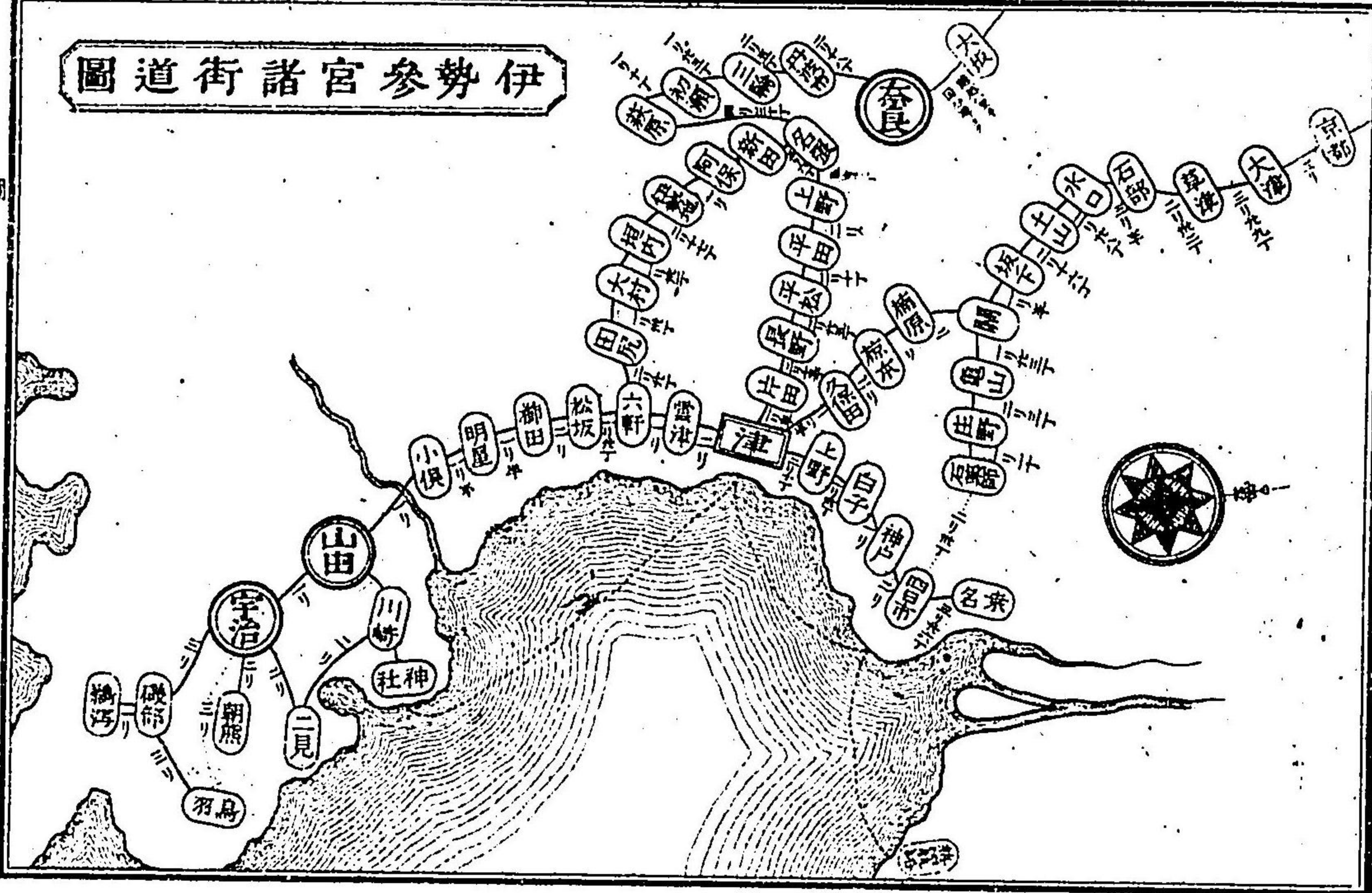
あれも伊勢これも伊勢此吉日や

いろと情けと欲とを捨て生きて生かすが神の道
老と病死の三ツを離れ誠どの一ツに成れば神
は早く世の中 天照神の道を残らば知らせたい
に西といふかや東といぬん活た誠とがみちの徳
は佛出そふと鬼出しましよふと巳が心の儘に成
へ偏な心に片寄りや魔よる偏の無のが道こころ
と年と形ちに限を付けな限りなき身ぞ生さ通し
ち智慧や利口や又た分別を捨てた世界が極樂じや
り利口發明の義理穿鑿の廻道じやと知らさんせ
ぬ鈍ひようでも誠の速ひ我を離れてひと飛じや
る類のないのが世界に一ツ國ハ日の本不死の山
を思ひ出さんせ腹立時にありがたいこと神の恩
わ悪ひ事なら思ないふも悪は我じやと悟らんせ

か神に任りや幾万年もその日暮してあら面白い
よ善事禍事世の行さ代る神の功績でものはなる
た体と用とは分れて二ツ日月やひとつの夫婦中
れ禮義仁智も信との一ツ今日のままことが十二辰
そ其處で誠とはまん丸事じや其處で誠とが丸事
じや春が過たら夏が来る夏が過たら秋になる
秋の次に冬が来て冬至の日より太陽の元に
復する御恵みを木草も受て芽を出す目出度春
の花咲くも月日の巡り来るく世と丸事の
其中に人と生れて有難や生れぬ先の父母と産
の親様大切に仕へ奉れよ君の恩國家の恵み天
地の大御誠がそれは有り難ひ
つ常にわすれぬ祖神拜め親のこゝろを傷めなよ
ね寝ても覺ても道知る人の見聞すること有難ひ
な難の有のが御蔭の本よ何の苦もない道に入れ
ら埒もないと取越苦勞返らぬことをば悔まぞに
む昔し所か神世は今じや胸の岩戸を開けて見よ
う嬉し有りがたや此日の本に人と生れて神遊び
ぬ幾ら敵いても開けての呉ぬ誠知らぬの盲ら耳
の蚕や虱みも喰付やいたひ穢から出て身を責る

れ鬼の外道でまことの外よ穢れ下界で闇に付く
く闇ひ處が迷の道じや迷よや魔寄るぞ油断すな
や暗は疾むなり病ひの闇みじや胸の曇を吹晴せ
ま負て喜ぶ三ツ子と相撲勝たして克のが御道人
け蹴ても蹴られる丸いが誠蹴鞠に柳の枝折なし
ふ不斷慎しめ我が慢心を富士の高根も雪のした
こ此處ら邊りで一寸氣を付やれ
鼻の高ひは天狗さん吉野の峰の山櫻花見の御
客が瓢箪で聲の高ひが瘡馬じや調子の高ひが
二上りで上り過ぎたら反吐を突く常に慎めそ
れのおんしんを
え惠來く何が又惠來あらひ同士がえら喧嘩
て手にも取れを見にも見へぬ見ぬ處を恐れ見よ
あ淺ひこゝろで神事謀りや深き恵みを取り外す
さ先きも分明ぬ安樂願ひ今の勤めに有りぞ知れ
さ昨日返らぬ今日只今が神の恵みじや有り難ひ
ゆ夢とさとりて生れたとさの元にかへれば丸裸
め目出たくハ生れた時よ
最一ツ元に歸るなら何も無さ身ぞ神量り萬の
神の千木の棒善と惡とを掛け定め契り違ぬ縁

伊勢參宮諸街道圖



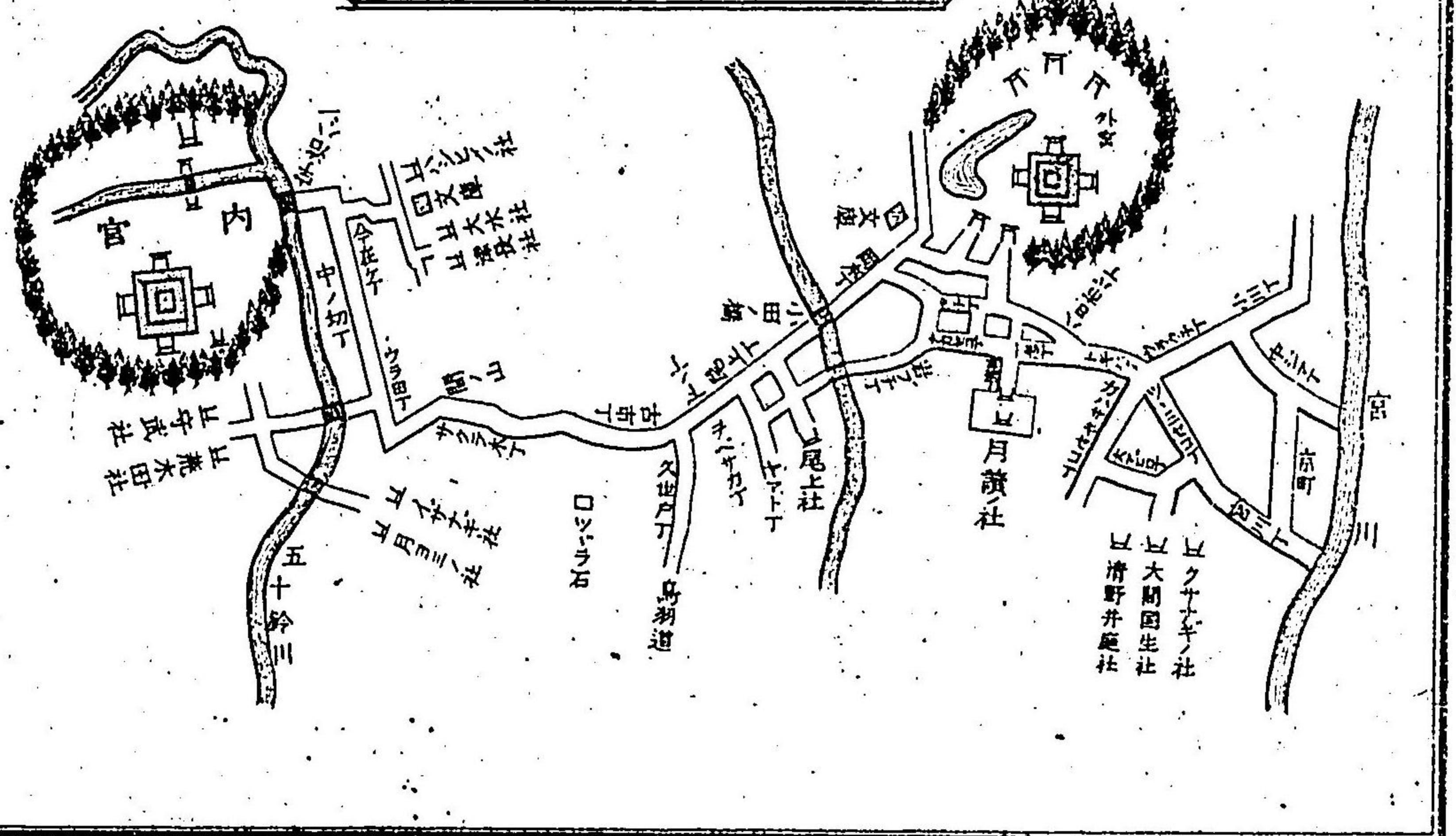
結び日之大神の生御靈分ち玉ひて母親の胎内に留め玉ふ月の御神の受持玉まひ止まる形が月の水一二三四や五ツの間に日月を重ね人となる十月に満ちて天地の姿を備へ日月の御息と共に生き出て産の親様御喜び何が不足で那啼やるぞ啼き此子よ神の子じや

み身をば清めて氣の勇敷仮にも御靈を穢やんなし死ぬ穢ぞ穢の氣枯れ身から穢れて氣を枯す榮耀榮華の一時の花よ嵐に散るあわだざくらひ貧富貴賤のさべつゝの無ぞ神と云實を結べひと元の無身と成りや生通し無さを養ふ身の安しせ世界見渡しや皆我がものよ安樂自在の神の徳す直ぐに其ま、天照神じや天地残らせ九生かし京今日の只今勤むる家業向ものこと有り難たや

伊勢の伊吹の善く
 日の神風は善世く
 罪も穢れもやんれ
 吹掃ふ
 あれも伊勢これも伊勢此吉日也那

終

宇治山田街市畧圖



伊勢道中獨案内 名所名産 里程旅宿

鈴木忠路 閱
大矢劔居編輯

大坂

戸數九万二千六百余人、口三十万六百余、あて市街と東西南北の四區に分ち大坂市、西區江の子島よあて豊臣秀吉大坂の城と築きてよりいよく繁昌の地となり、現今一層盛大と極め全國第三の都會なり

名産

天王寺蕪 煙草入 煙管 傘
燧木 寒天 紡績絲

名物

漬物 細工 昆布 粟ねこし

名所

○天王寺 聖徳太子の建立
○生國魂神社 官幣大社
○道頓堀芝居
○高津宮 天照大神

○住吉神社 官幣大社
○商業俱樂部
○飯井半助

○三大橋 天満橋 夫木橋 橋浪花橋
○自由亭 中ノ島公園地内

旅宿業

中之島三丁目 日本橋北詰東久 東區渡屋橋南詰西久
壺井秀吉 北濱二丁目 飯井半助
竹式樓 花外樓 専寄
萩原弁治郎 洗心館 自由亭

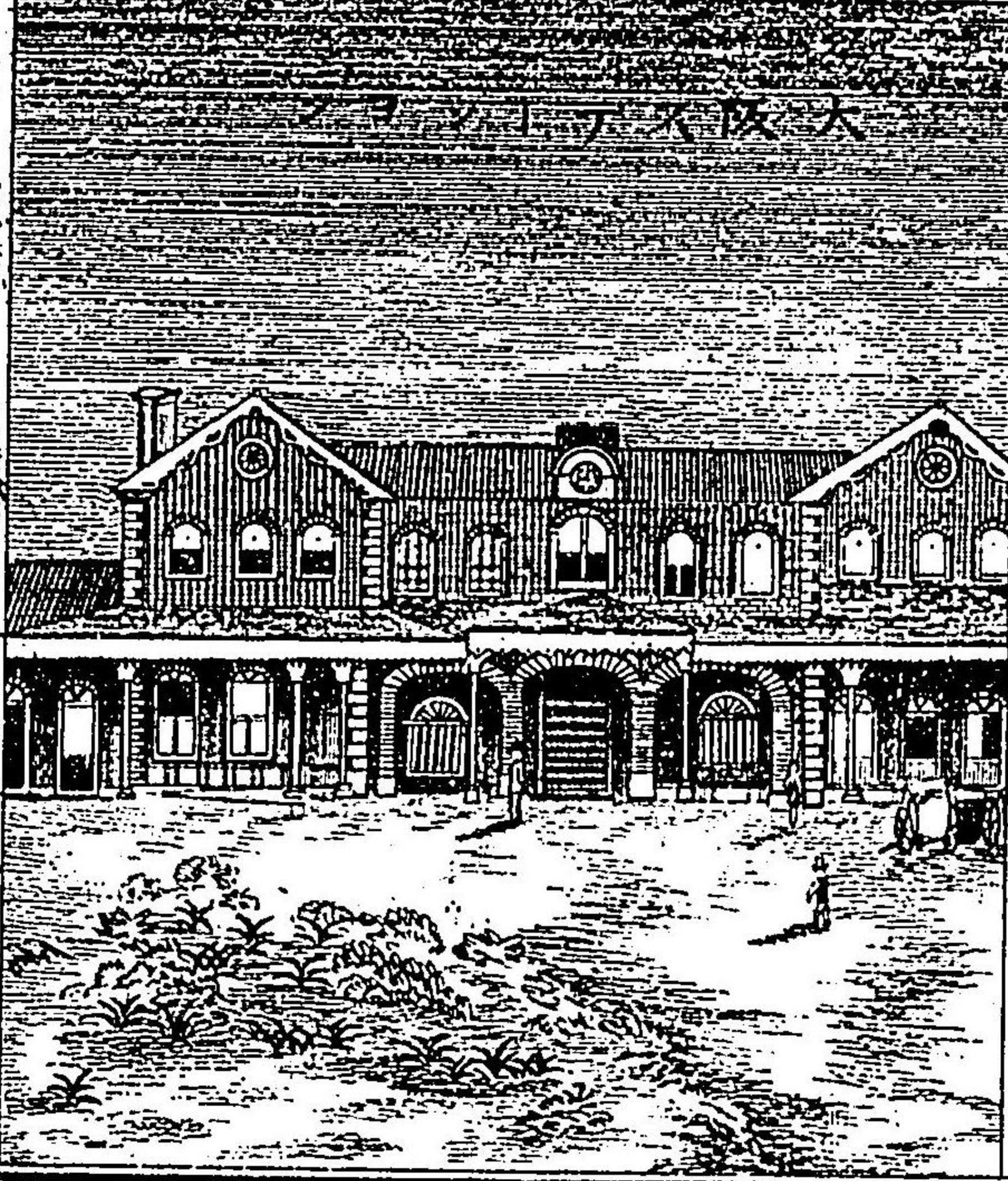
料理業

中之島公園地内 西洋料理前出
洗心館 自由亭

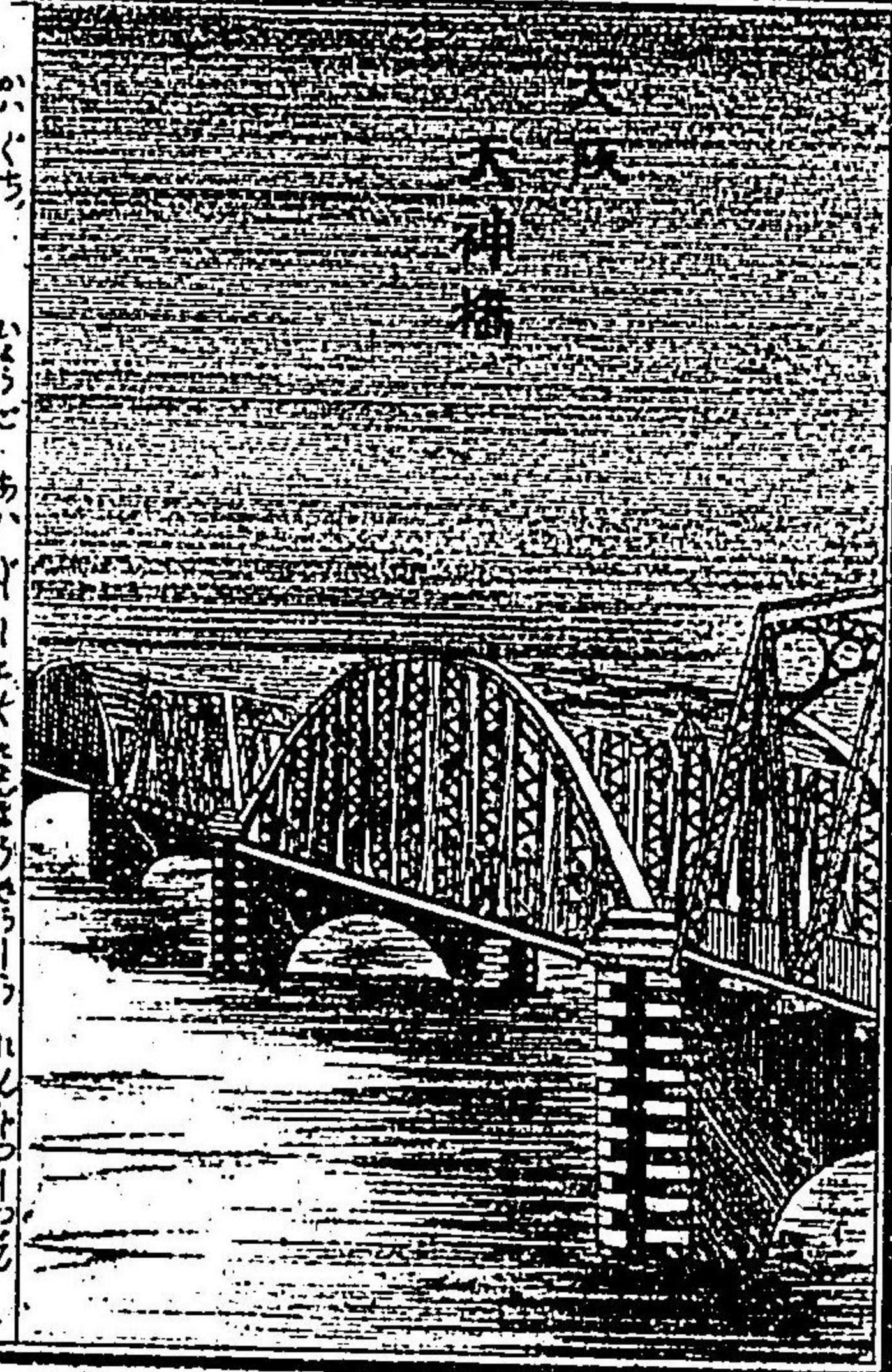
堺印樓 料理店
東 只

静觀樓
◎万 本家

八百松樓



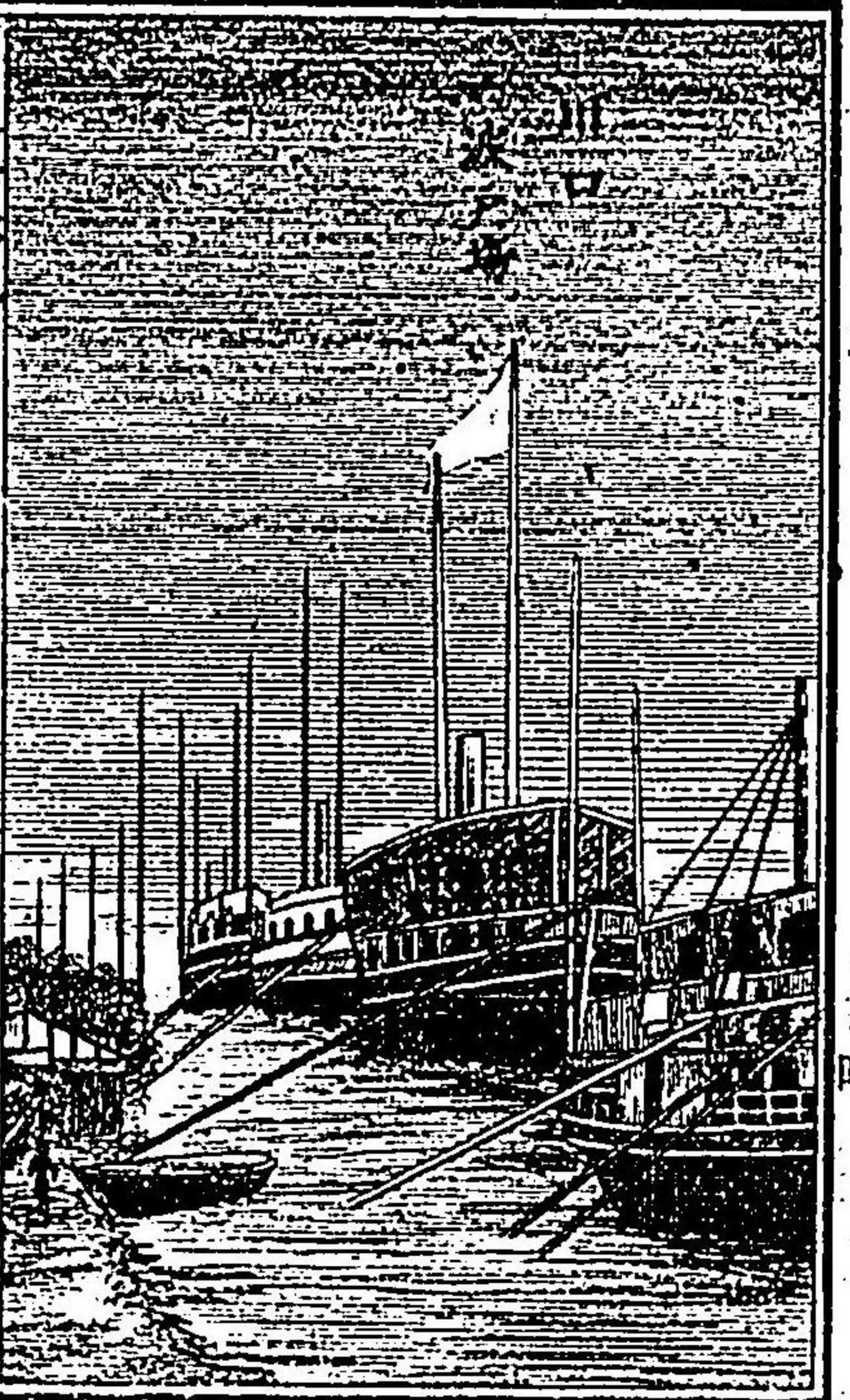
大阪より諸方への汽車汽船案内
 ○梅田停車場より神戸西京への汽車九
 二時間小發着まで
 ○難波停車場より南方泉州への汽車まで
 ○湊町小和州奈良地方への汽車停車場至
 ○淀川汽船西京行毎夜大川筋より出船に



川口より兵庫淡路四国山陽九州へ連日出船に

大阪繁華の地及各所案内

- 心齋橋通 全市第一繁華の地
 - 住吉神社 大阪より三里南高野寺
 - 松屋町通 天神橋筋とを結ぶ
 - 道頓堀 有名の遊藝場日本橋を渡りて前
 - 天満市場 朝市
 - 雑候場 魚市
 - 大坂城 市中の
 - 造幣局 川崎村にあり
 - 中島公園 橋の中央より西をい、公園
 - 遊所 松島新町北ノ新地
 - 博物館 木町橋
 - 堺濱公園 泉州のあり大阪より三里
- 大阪高麗橋より諸方へ里程



天下茶屋 一里三丁
 神戶 十里
 須磨 十里三丁
 大津 十六里
 池田 五里三丁
 能勢妙見 九里余
 布引瀑布 九里七丁
 高野山 十六里
 信貴山 五里余
 有馬温泉 九里
 道明寺 五里
 天保山 丸二里
 兵庫 十里半
 西京 丸十三里
 郡山 七里余
 伊丹 三里四丁
 箕面瀑布 五里余
 和歌山 丸十六里
 奈良 八里余
 生駒山 丸五里

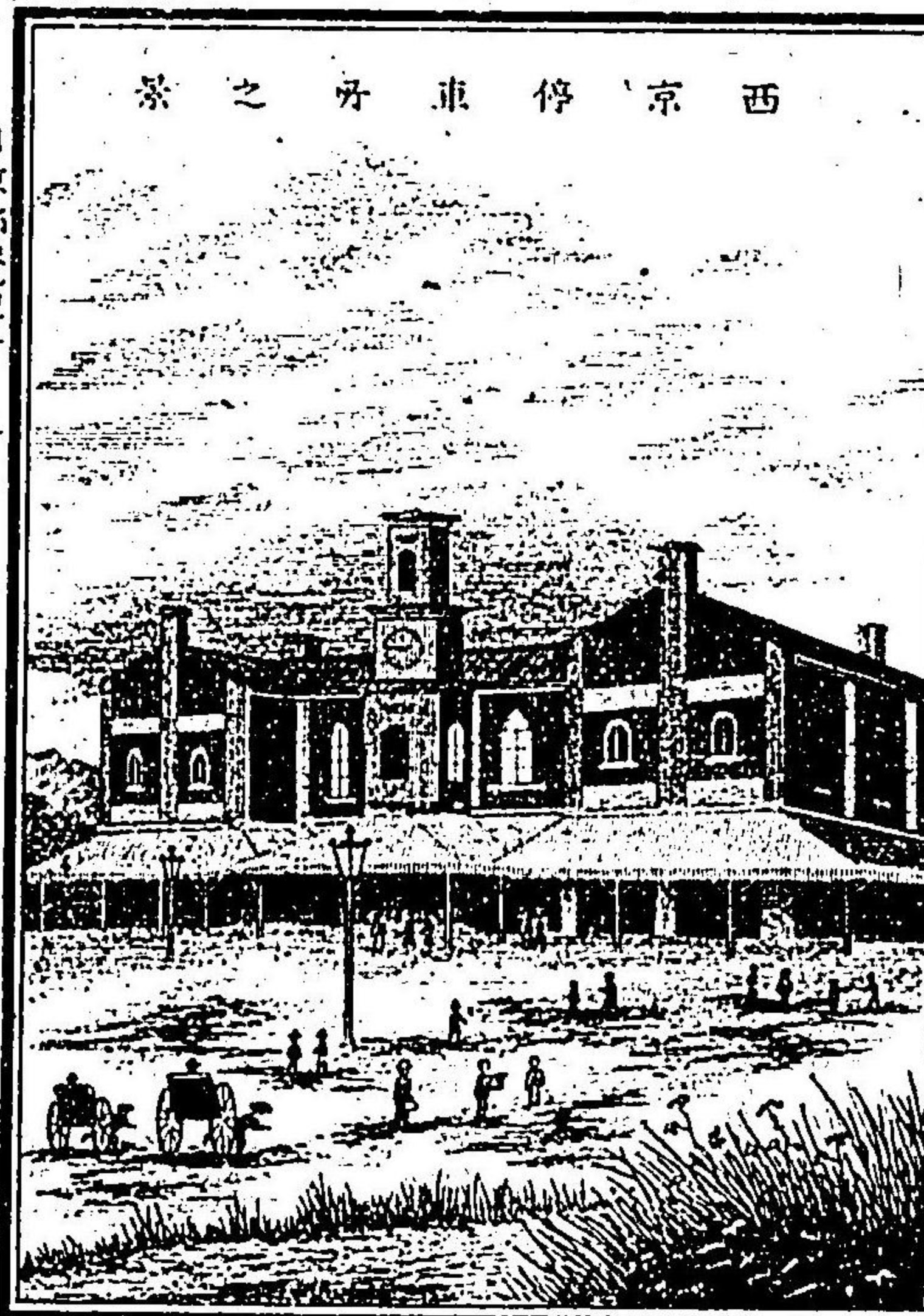
高槻 五里余
 山崎 八里十九丁

寶塚温泉 七里余

京都 大津へ二里 戸數六萬六千四百八十戸あり延暦年中桓武帝都を此の地に移して平安城と稱し給へり今八咫宮府の一なり其市街端正ユ一て商家軒と並へ山水の景色は富り

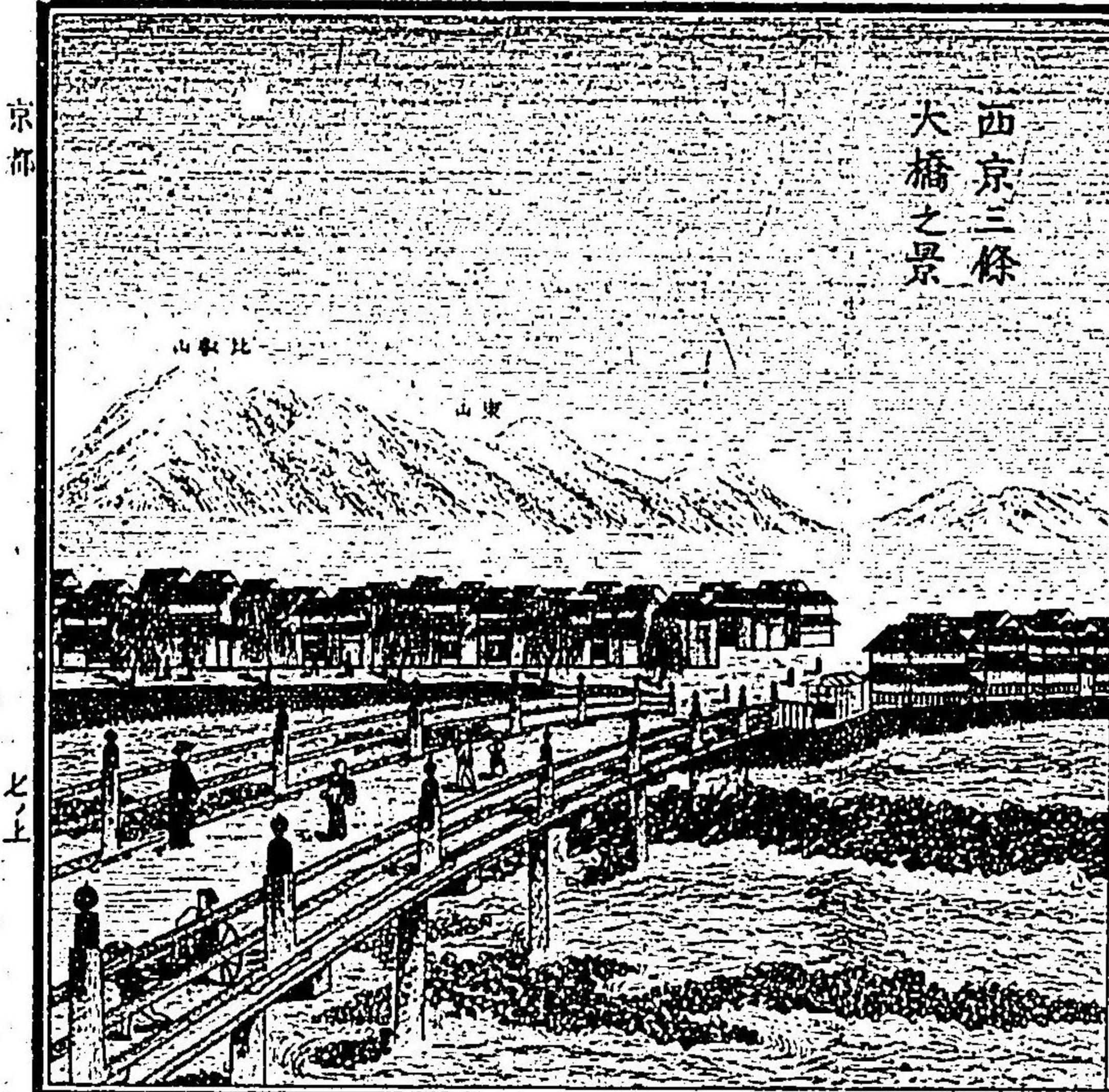
旅宿業

三條大橋東 同
 茶屋久兵衛 越後屋五郎兵衛 同
 豊後屋友七 同
 谷口徳右衛門 同
 伊勢屋半兵衛 同
 萬屋伊兵衛



西京停車之茶

自京都参宮道



西京三條
犬橋之景

京都

七ノ上

名所

三條橋

東海道五十三驛此より
初七帖の前後旅籠多し

智恩院

○嵐山

○祇園

○清水

○金閣寺

○八坂

○大佛

○北野

○金閣寺

蹴上

旅宿業

弓屋八郎右衛門

追分

旅宿業

長谷川まさき

餅屋市右衛門

餅

同 大橋西
萬屋甚兵衛

同 俵屋喜兵衛

同 小野寺藤右衛門

同 長谷川利之助

同 吉川吉次郎

同 吉岡屋彌吉

同 安田文次郎

御幸町三條上ル
松屋吉兵衛

六角堂ノ前
餅屋總左衛門

同 吉川岩太郎

東洞院珠敷屋町角
加賀與兵衛

五條大橋東
山城屋吉五郎

寺町三條下ル
木村定次郎

名産

宇治茶

鴨川染

西陣織

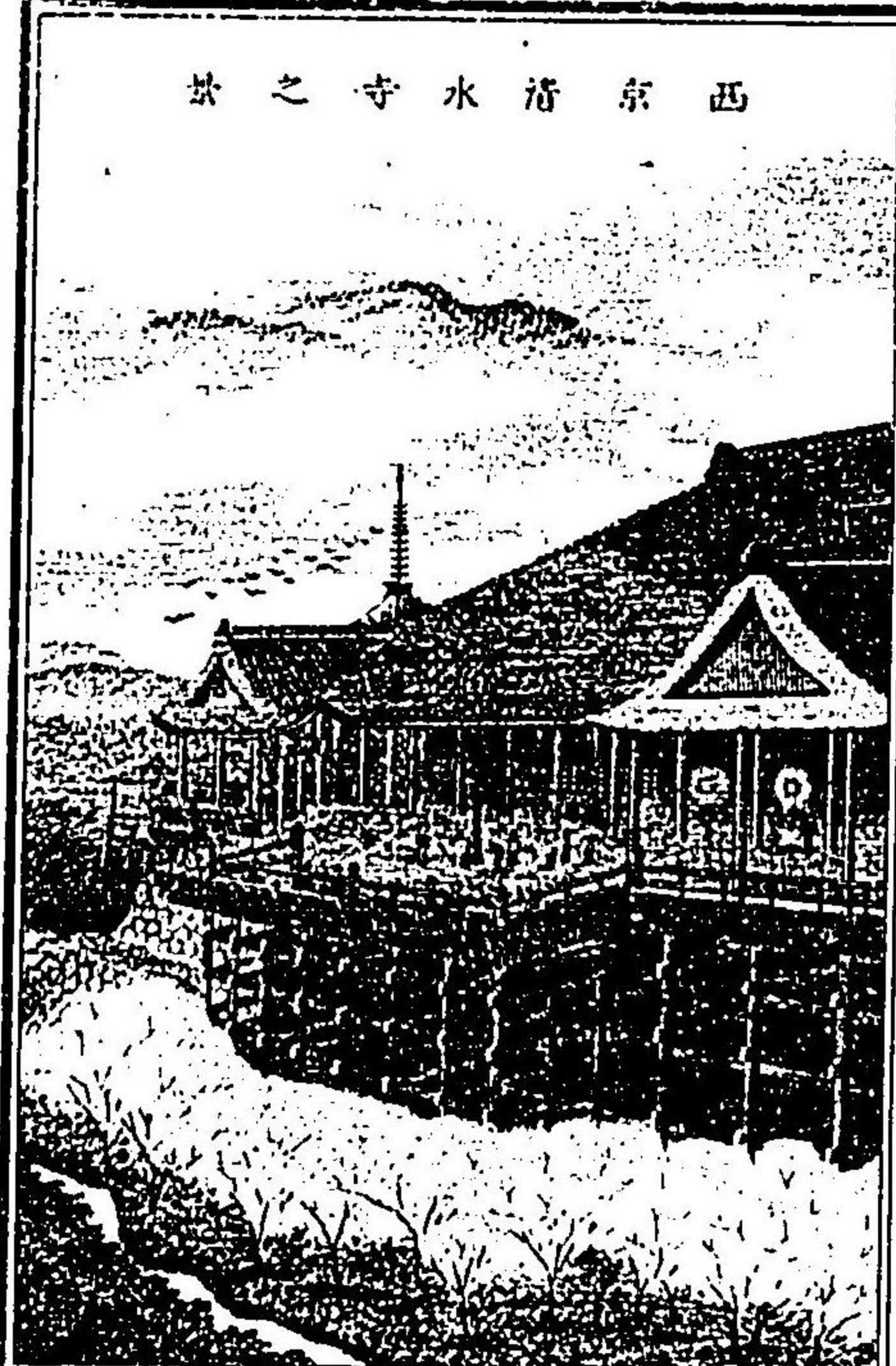
清水焼

糸物

針

扇

西京清水寺之景



大津

三津へ 運漕便引で四道の掛喉
三里北八町 あり繁華の地なり

八丁

京町角

小舟入

旅宿業

大津波ヶ間ヨリ草津山田渡へ五十丁
ノ蒸氣ノ往復一時間毎ニアリ

亀屋新六

佐野屋都賀助

鯨屋市兵衛

海老屋弥五郎

馬嶋屋吉兵衛

名産

針

算盤

大津繪

名所

逢坂山

○関大明神蟬丸宮

蟬丸宮



逢坂山

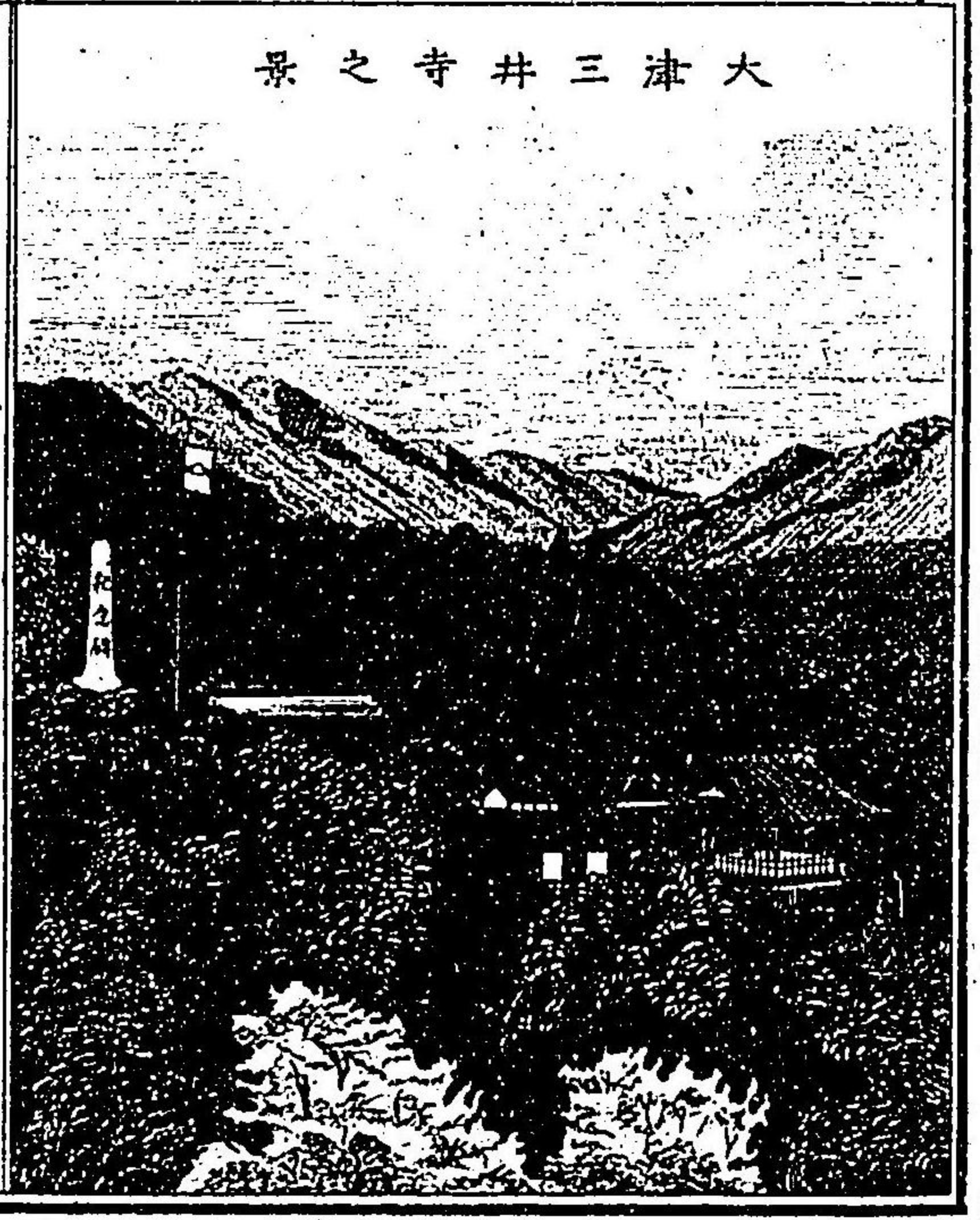
多分おふ

あふ坂山乃

うらら

くま

大津三井寺之景



膳所

旅宿業

阪本屋九郎衛門

名所

石光山石山寺

勢田の南まあり本
尊如意輪観音開基

ハ良弁僧正天平
勝宝六年草創

石山

旅宿業

松屋清左衛門

石場

矢橋の渡一舟
此所より着く

旅宿業

鍵屋傳兵衛

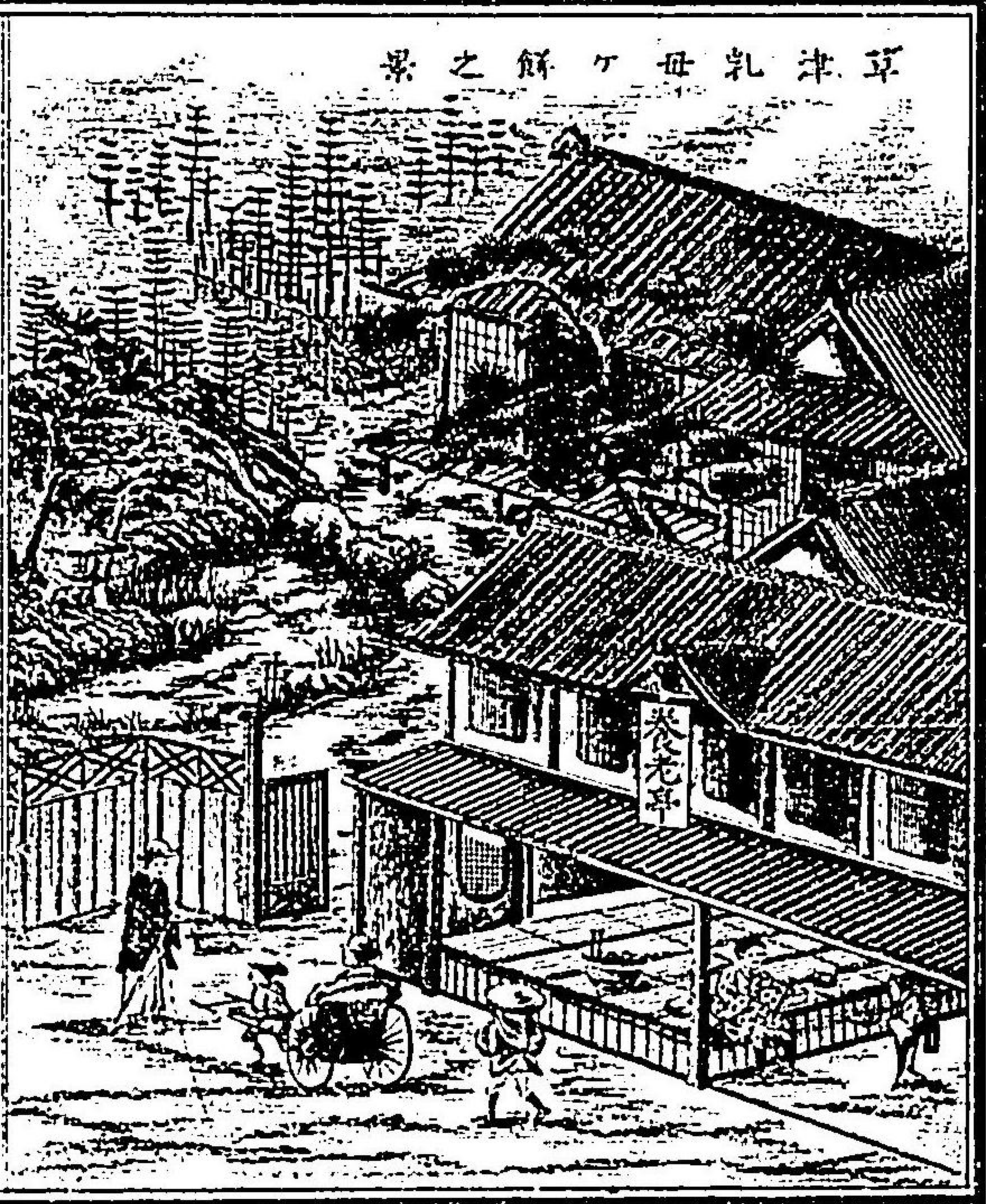
名所

勢田橋

大小の二橋を架す橋の右よ
龍神祠依藤大祠ならびり

勢田

舟路山田
へ一里



旅宿業

伊勢屋伊兵衛

名産

鰻 鯉 鮒 時雨蜆

草津

石部へ或里 此宿より東海道木曾路迄
二拾五町 分り西京へ六里九町
東京 右東海道 百二拾五里
同 左中仙道 百零十或里

旅宿業

此所停車場二ヶ所アリ

藤屋製左衛門

大黒屋彌助

野村屋安兵衛

澁川屋源藏

伊勢屋新兵衛

名産

鞭 竹の根よて製す

名物

乳母餅

昔く夏永の頃郷代官の如き者あり
リが事小より誅滅せらる共
時幼見三歳なる者あり最後不臨で其乳母を招き養育の事ヲ頼みける
乳母こゝに於て養育の便多けれ餅を製して往還の道ヲ持出で其養育
とて賣けり餅に其信實は感してこれを買入多く後述は小店を開きけ
れば是を求むる事往來の例となりて乳母餅とぞもてはやくける
山田矢橋の船場 草津へ或 草津より西北の濱を石塔
拾八下 へ五十下の海上あり

旅宿業

酒屋甚助

目川

旅宿業

奥村政右衛門

伊勢屋製兵衛

名物

田樂

三上山

梅ノ木

昔大なる梅の木有茶屋有り梅の木
茶屋と云より終小地名小呼ふ

花屋萬藏

石部

水口へ三
里十六丁

旅宿業

八幡屋吉助

油屋文吉

扇屋孫右衛門

美シ松

此処より半里ばかり東
右へ五丁計小あり

夏見

旅宿業

中川善八

田川

旅宿業

六リ屋喜兵衛

植木屋左衛門

○萬里小路藤房郷神社 田川入口手前より 右へ十丁計あり

○横田川 田川水口の 間あり

水口 土山へ二里 二十八丁

旅宿業

丸屋金右衛門 まるやきんえもん 柘屋吉兵衛 ますやきちへえ 萬屋傳兵衛 よろづやでんべえ

葉屋右衛門 はつばやえもん

名物 藤工

大野 旅宿業 中屋市右衛門 なつやいちえもん



土山 坂の下へ二里 拾六丁

旅宿業 平野屋藤右衛門 ひらのやとらえもん 常盤屋松兵衛 とこいやまつべえ

大黒屋長兵衛 だいこくやちやべえ

名産 茶 お六掬 ちや おくく

○田村明神社 たむらみんじや 田村將軍の 霊を祭る

○蟹ヶ坂 かまざか 地名山中と三音の音の響の塔あり世に傳ふ此谷に大なる蟹あり妖をすて人喰ふ族僧是會心經を説き偽て是を打殺し其塚を築云々

名物 飴 あめ

猪ノ鼻 いのなは 峠へ 一里

旅宿業 中屋武右衛門 なつやたけえもん 油屋右衛門 あぶらやえもん

鈴鹿

旅宿業

伊勢屋喜兵衛 いせやきへえ 萬屋平兵衛 よろづやはへべえ 森 志げ もり しかげ

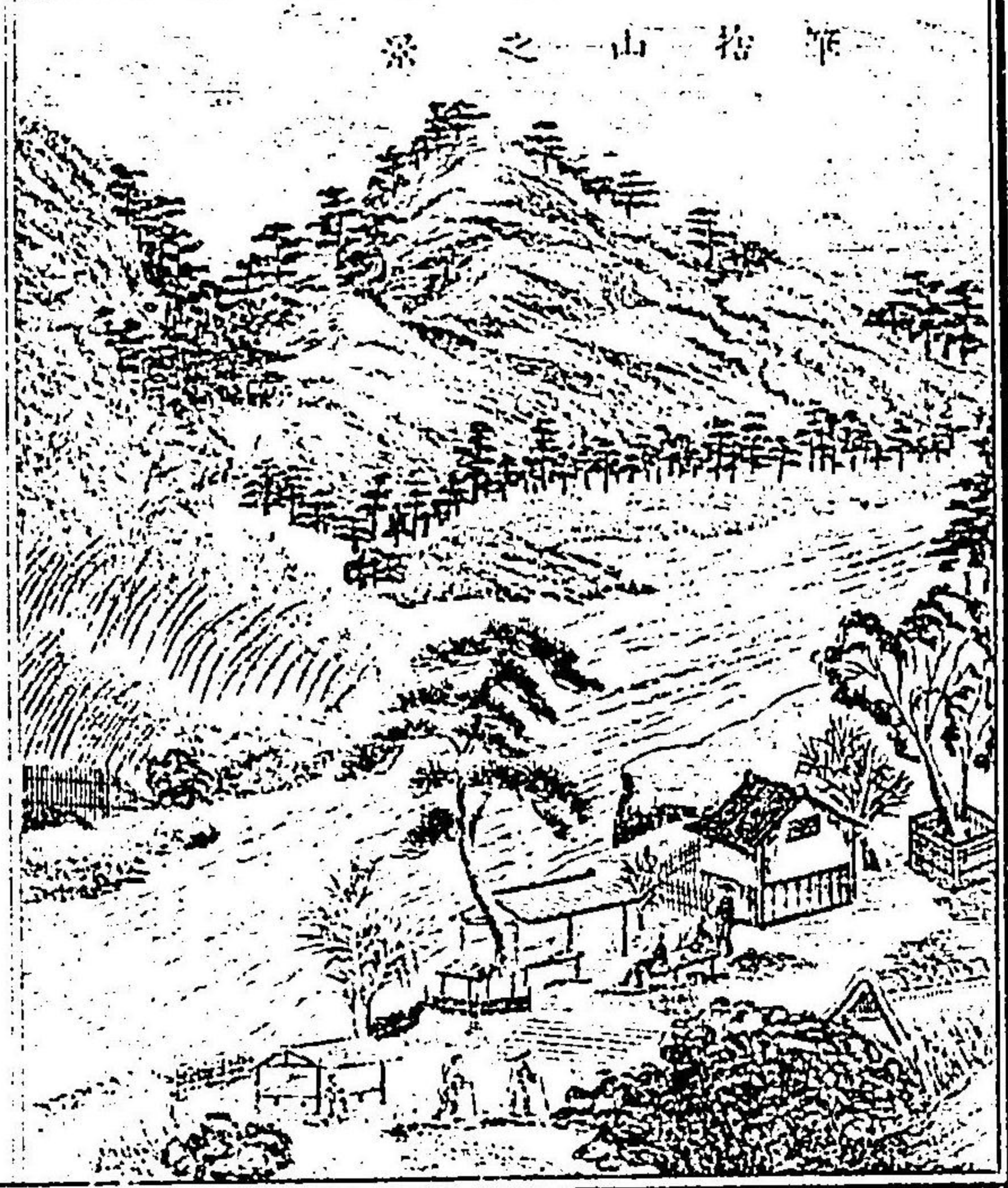
山崎屋又兵衛 やまざきやまたへべえ 鐵屋藤兵衛 てつやふじへべえ

○鈴鹿嶺 すいがかとうげ 近江の通路より天武天皇鈴鹿の關を置れ旧趾あり關其山下より東海道伊勢街道伊賀越の要路を當れり

○倭武尊御墓地 やまとみことのみことのおんぼ 鈴鹿郡田村の東あり周匝 百廿貳間余高き四間余あり

○鈴鹿神社 すいかくしんじや 本殿天照大神荒魂を 祭る 鈴鹿峠あり

坂ノ下 さかのした 隣へ一里 鈴鹿山の麓より 二十一丁 拾丁計り東



旅宿業

本屋傳右衛門

小松屋文吉

竹屋市衛門

沓掛村

名物

筆捨山

旅宿業

川北屋半兵衛

鮎ノ鮓

一の瀬川の西より旧名岩振山と云ふ俗傳小住昔画工村野古法眼元信此山を撰寫せんとて遂か其直趣を属すこと能はず筆を抛り歎るる故以て此称ありと云説あるべし

市之瀬村

蛭子岩

大黒岩

コロビ岩

關

旅宿業

鶴屋吉兵衛

會津屋安五郎

玉屋利右衛門

名産

關地藏堂

關驛追分

楠原

火繩

地藏菩薩の座像傳教大師の開基元禄九年の建立なり

東海道と参宮道との別れなり大馬井常夜燈を建たる方参宮道なり

中繩村



豊久野

錢掛松

之圖

そらん子

のふいなん

鈔ひかけ

たまご

その

白雲軒

純全

旅宿業

龜屋彌兵衛

標本

窪田へ飛
里六丁

旅宿業

井筒屋重吾門

角屋喜八

高野尾村

豊久野

奄藝郡西南
部より

錢掛松

高野尾の東の曠野に年久しき一株の松あり是即
大神宮行宮の御跡を失はざる為とてするの
松をうへて小祠もありける小祠亡びて松の
神宮を遺棄し御供料として松の枝を掛て米穀の
窪田 大部田村追分

窪田

大部田村追分
へ一里一丁

旅宿業

津屋平六

花屋勘右衛門



一身田

津へ壹里
十九丁

高田山專修寺

真宗專
修寺派

大部田

津の町續きの
北の入口あり

江戸橋

大部田此の入口左の方の橋
まで東國往來の追分なり

津

雲出嶋貫村
へ二里五丁

安濃郡岩田川の河口にありて藤堂氏の旧城下なり初安
濃津と稱せしは後世略して津といふ 城垣弘治年中伊
豆守細野藤光が築く所なり市街繁花よして巨商軒を並べ四方の貨物
皆此地に集る人口数万五千余三重縣境ありて縣内第一の都會たり

旅宿業

若狭屋右衛門

同
かめやかへえ

大黒屋藤兵衛

松坂屋市兵衛

北の入口より五丁目
岩田橋より五丁目

鍋屋右衛門

井筒屋長衛

山田屋半藏

名産

津緞子紗

阿漕焼の陶器

阿漕鰻

公園

縣廳の西北にありて風景よく高山
神社及び三重縣物産陳列場あり

結城神社

岩田橋より南八幡町にあり忠臣
結城宗廣を祀る別格官務社あり

八幡神社

塔世山四天王寺

塔世川の北にあり本尊大日如
來左右阿彌陀釋迦及四天王

結城神社
之景

寄切恩旨
延元雄劔帶明光
光滿方今千丈長
獲得當年半戰日
霜威嚴嚴賊姓勝



○塔世橋 ○塔世川 ○愛宕山
ふ橋の北西
の森なり
本尊如意輪觀音石像よて元明天皇和銅貳年二月
朔日安濃浦よて漢夫の綱まかぐり出現すと云ふ
大門口より夏時
諸人群集の地あり

○慧日山觀音寺
觀音の傍

○國府の阿彌陀
觀音の傍

○岩田橋
南北に架せり長さ三拾間
れ此橋の下まで舟入る

○阿漕浦
岩田橋より
巽あり

○贅崎港
津の東に船常は碇泊す波止場
竿燈を設け船の目標とせり

○岩田山圓明寺
岩田橋の南より
り本尊大日如来

阿漕浦
の景



いのみせん

あさきう

うみき

なつき

あきハ

かはら

ちきり

後照念院
關白大政大臣

○閻魔堂
岩田町あり此
東弁天の社あり

○藤枝
町のはづれまで
花街あり

○矢野
津より
壺里余り入りへ入るなり

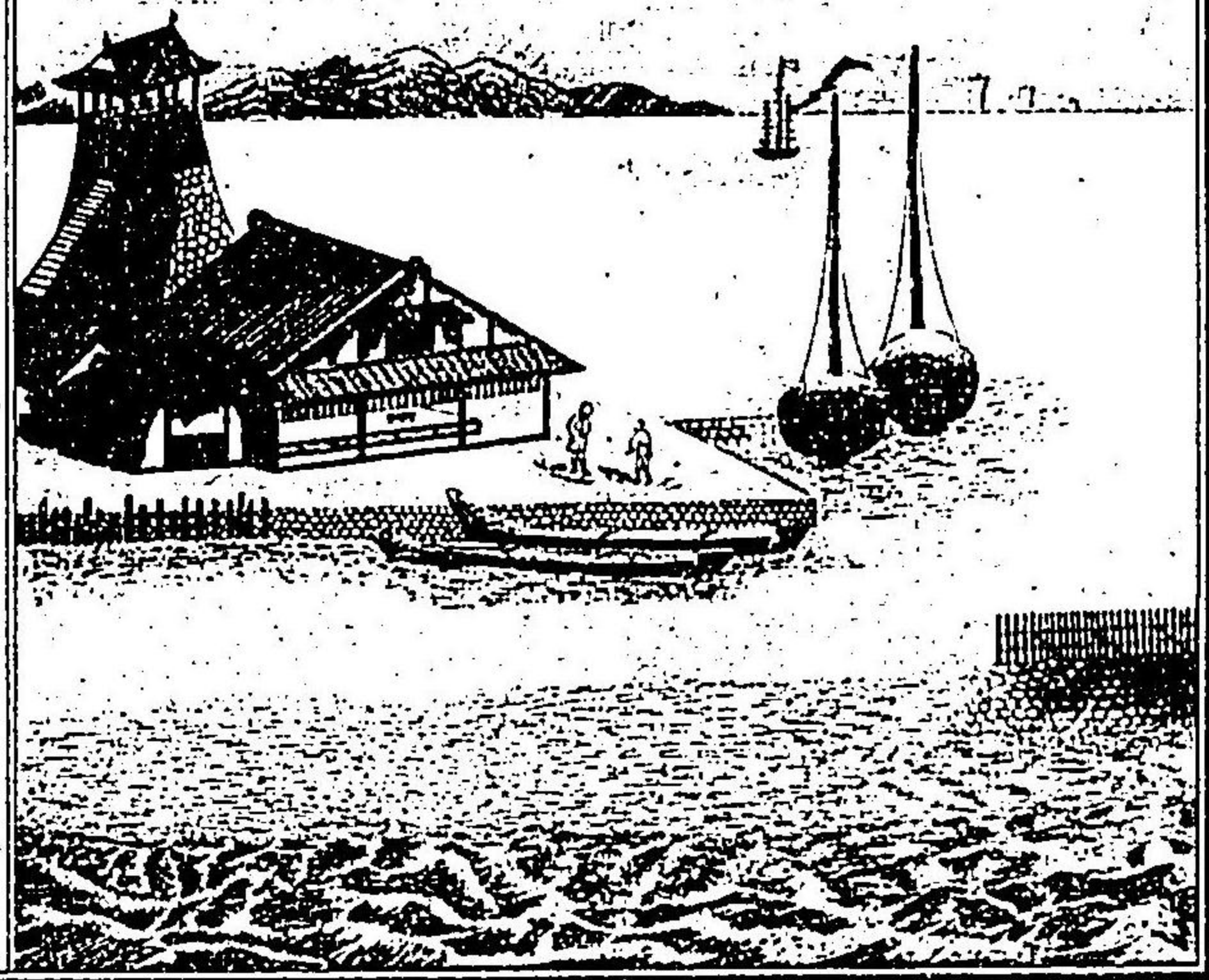
○香良州神社
矢野村あり社地ハ海岸よて岸の松林
至て勝景なり祭神天津稚女稚日女命

○旅宿業
松坂屋番郎

○名所
一志浦
雲出寄

○垂水
津の南
藤瀉
津の南一里
たるみの次まり

景之港寺贊



小森上野 藤瀨のつ

高茶屋 茶屋多し此処より晴天よ

ハ不二山見あるといふ

小松屋善藏

雲津 松坂へ飛 雲津川の

里八丁

此より

旅宿業

平野屋善五郎

柏屋徳兵衛

津屋伊三郎

京屋善兵衛

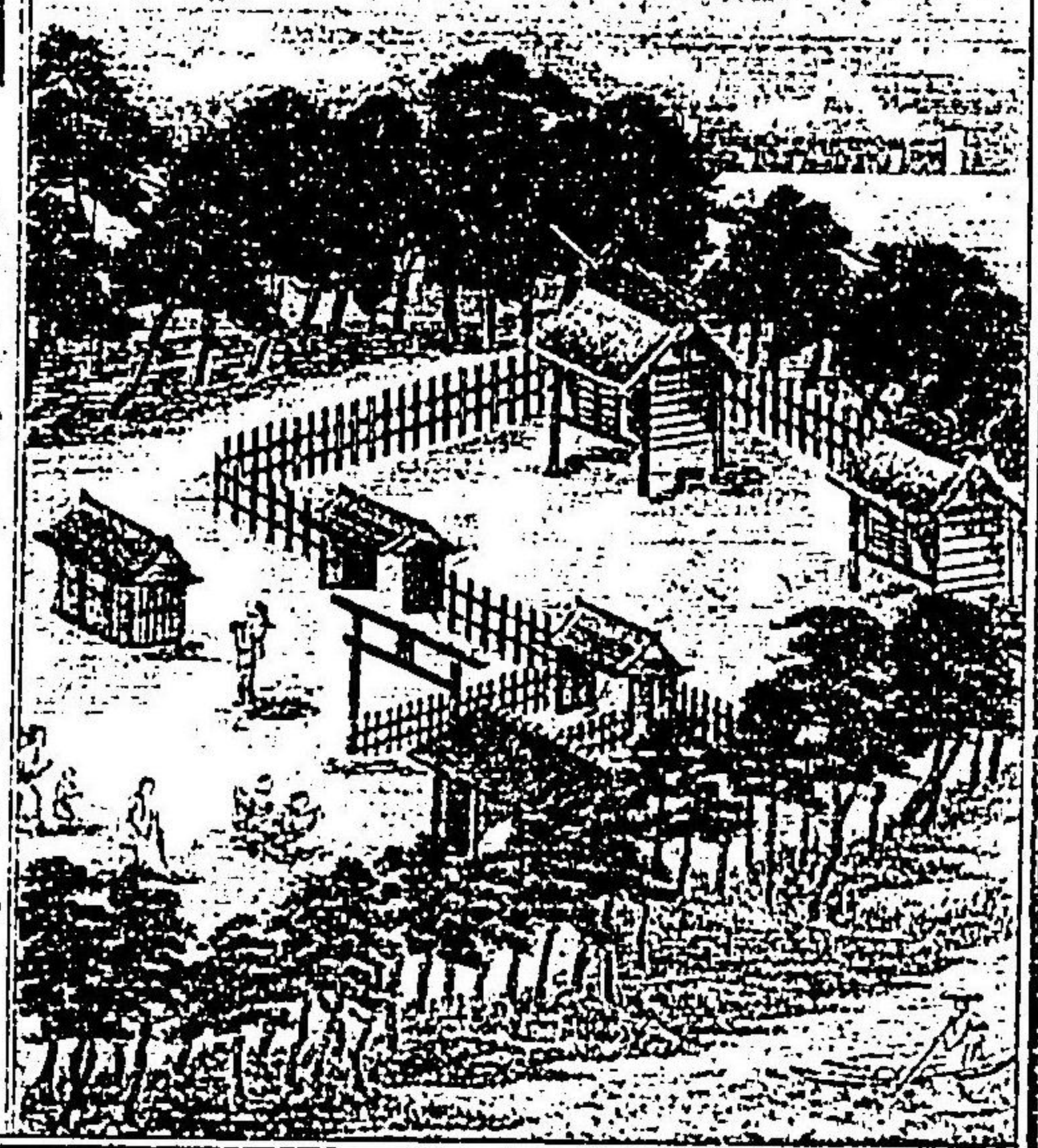
○雲津川

南勢北勢を分つ大川にて 此下流ハ雲出が崎なり

月本

くもづの浦なり此処大和街道の分れ道有 阿保越又伊賀越と云ふ伊賀へ出るなり

景之社神州良香



旅宿業

角屋清兵衛

小津村

六軒

又三渡り村とも云是より垣井代経て伊賀名張越えて大和初瀬三輪奈良吉野高野といふる京街道伊賀越阿保越

旅宿業

布袋屋半四郎

小津屋喜衛門

東屋虎吉

湊屋五郎兵衛

湊屋忠兵衛

名所

志井

街道より右へ入方ハ有標石の題ハ 關原内ノ書あり傍より小社あり

久米村

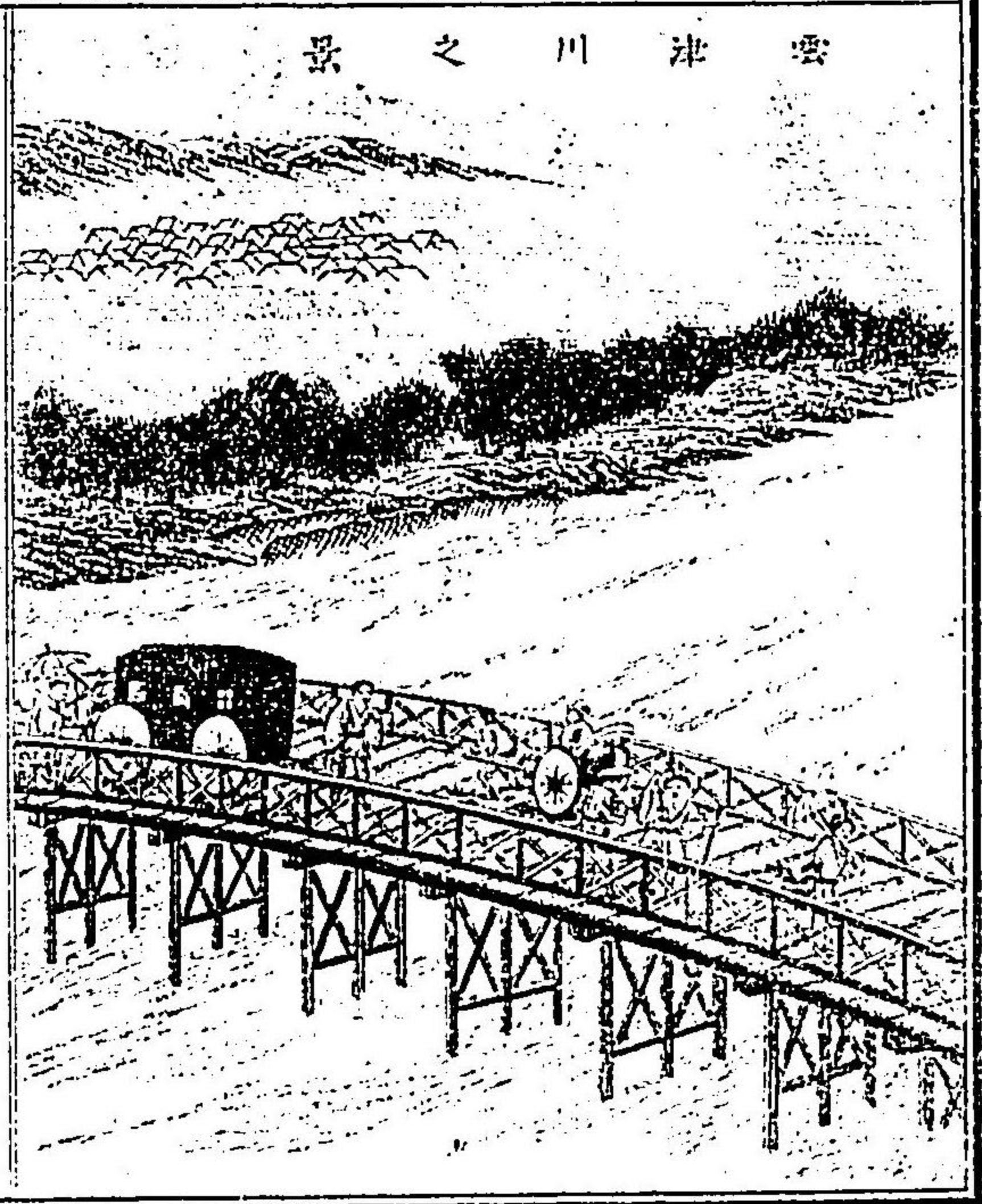
塚本村

船江村

松坂

明星へ二 津より五里飯高郡の東北部ふあり人口九千 里三十丁 七百郡役所あり繁盛の地にて富商多し城堡

雲津川之景



八旧松ヶ嶋と名けし天正十六年蒲生氏郷松ヶ嶋の城を廢して四五百森を移し松阪城と名づく

旅宿業

大橋より東三丁目中町

大和屋與兵衛

大石屋喜兵衛

○愛宕山龍泉寺

○下村

○小室山神社

神宮教會所前

大須賀屋喜兵衛

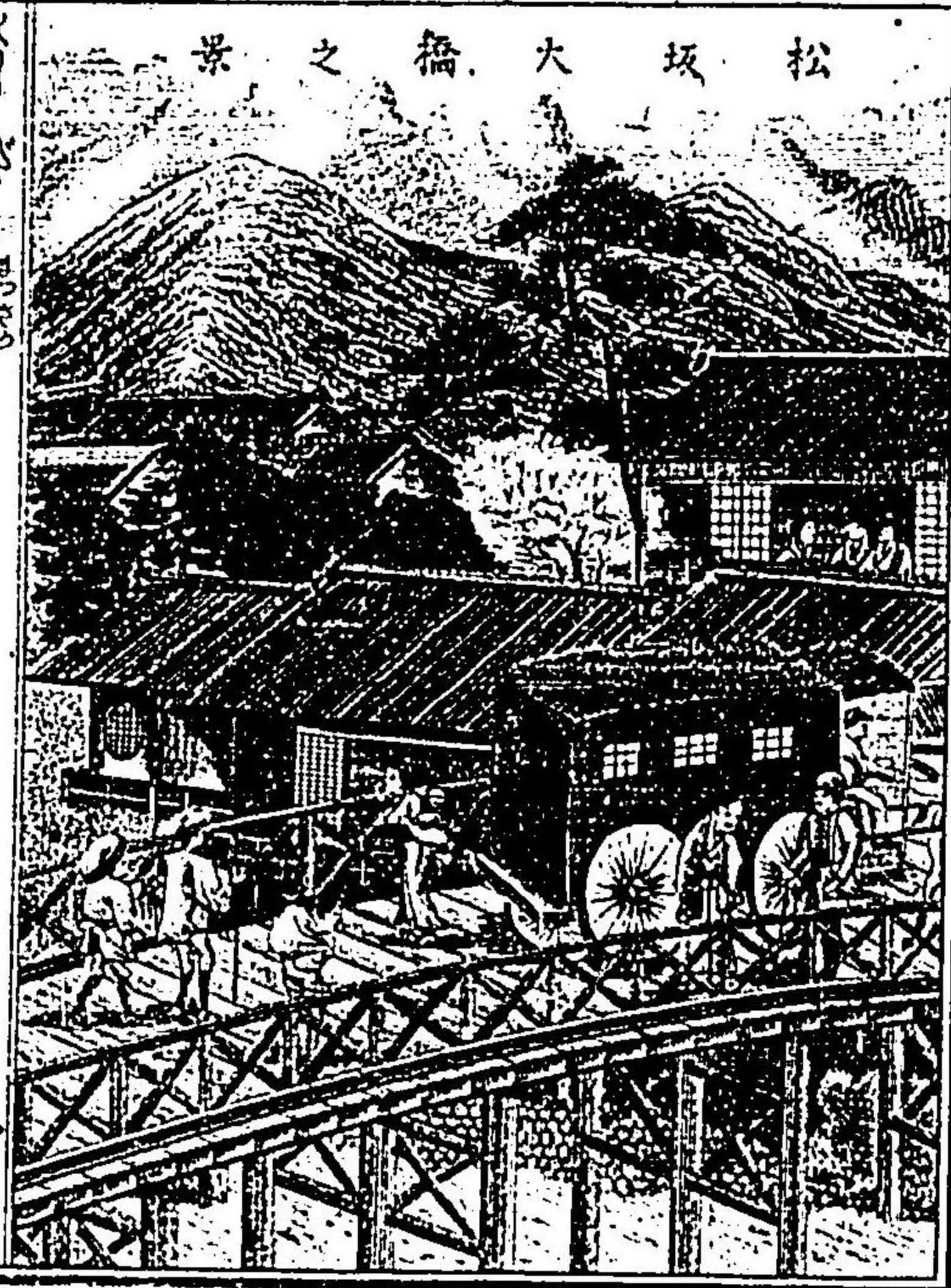
小西屋文右衛門

○清水森

米屋喜右衛門

松阪より五十丁西山室山より本居氏の社なり本居宜長ハ松坂の人國學を以て名あり

松坂大橋之景



櫛田 松坂より一里十八丁

旅宿業

東櫛田 旅宿業

川屋卯兵衛

名産

櫛田川

神服織機殿神社

御船神社

檜笠

豊原村五六丁下より此川ハ昔齊宮櫛をながけ給ふ故實あるより櫛田川といふより上世ハ

多氣郡大垣内村より祭神伊弉諾神刀方神

同郡土羽村より有内宮

同郡廿五社の内なり

稲木村

柳田川



きこく住

くし田

川

神の心

うろ解

みいれ

○ 稲木川

又横川と云ふ昔より勅使を爰に迎へ奉り候は修するの式あり今ハ宮川まで其式行ハる

○ 金剛坂村

○ 齋宮

昔齋宮あり

旅宿業

浪花屋佐助

名産

菅笠

○ 齋宮舊跡

多氣郡齋宮村大道の北の森あり

田丸の東より廣大の野原

て東西一里南北三里半あり

明星

山田へ二里十六丁

湯田村

湯田野

景之川置楢



旅宿業

三重屋治郎兵衛

名産

壺屋紙烟草入

新茶屋

秋屋長衛門

柳屋長八

梨屋長衛門

○ 明野

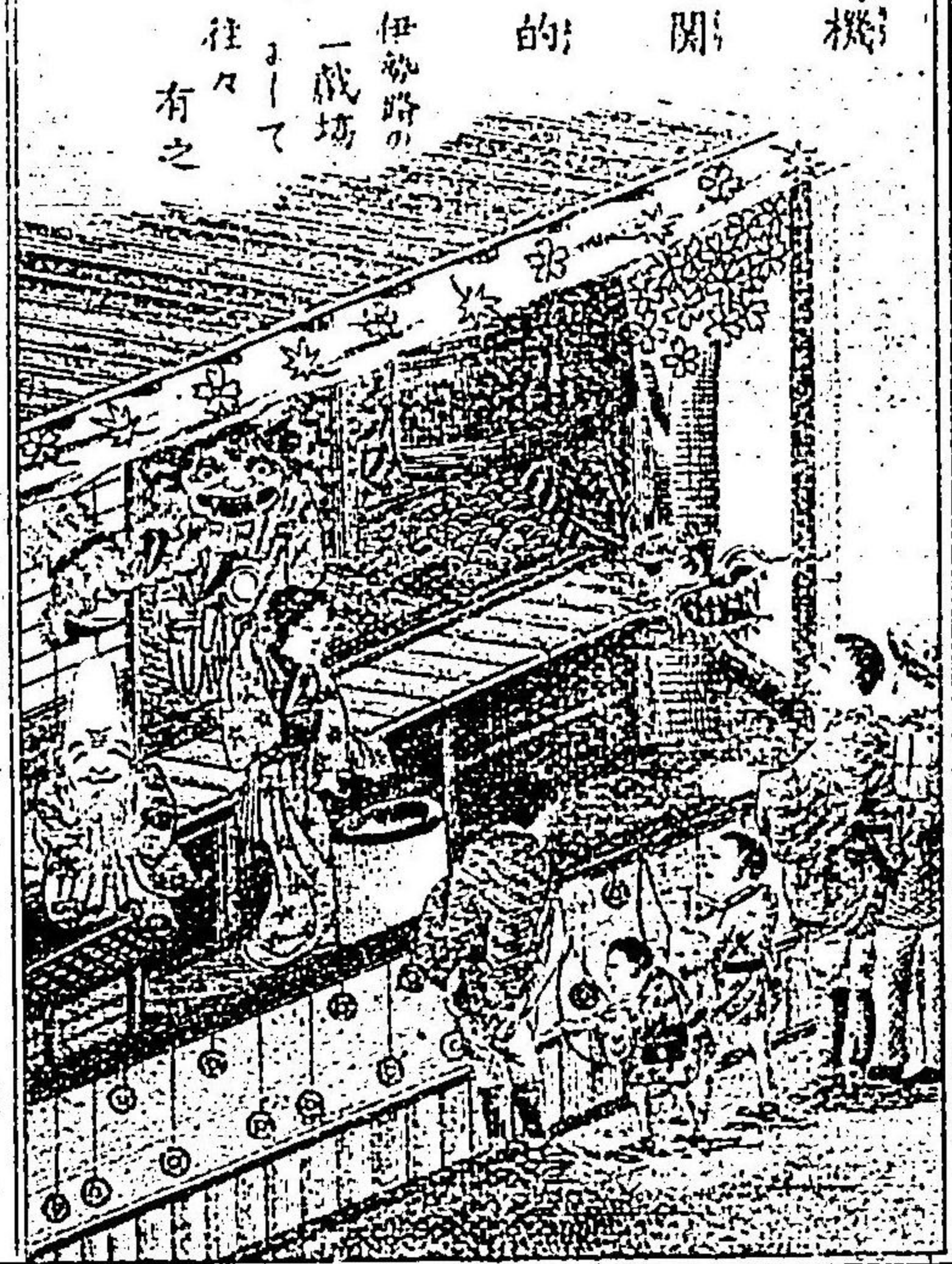
度會郡にて明野の東より近來大に開墾し三重縣勅農場となり養蚕傳習場及び製絲場設置所を設置

其他牧場ありて牛馬豚鶏等を牧畜す明治十三年以來開墾する処の互別百八丁あり

小俣

旅宿業

伊勢路の
一戦場
よいて
往々
有之



川端屋藤兵衛 柏屋佐兵衛 野呂久兵衛
木屋長兵衛

名物

豆腐

田楽

○神麻績機殿神社

飯野郡井口中村に有
祭神麻績屋姫命

○瀧原宮

度會郡野後村にあり内
宮別宮九宮の内なり

○瀧原並宮

瀧原宮城
内より

○離宮院舊跡

小俣村より二町
斗南の方より

名産

青海苔

宮川の近海
き所産す

○宮川

山田の入口也是より御宮の入口北御門まで三十町なり
豊受大神の御敷地の川なる故に豊宮川とも云ふなり

明星

明星乃茶屋の
改まりあり
あむもあり
まゝ
首す
あつ



小俣之景





○志等美神社

○大河内神社

○打懸神社

○宮川町

○茶屋町

○堤世古

○大間廣

○大間國生神社

山田辻久留町あり外宮橋社の内にて河水守護神なり

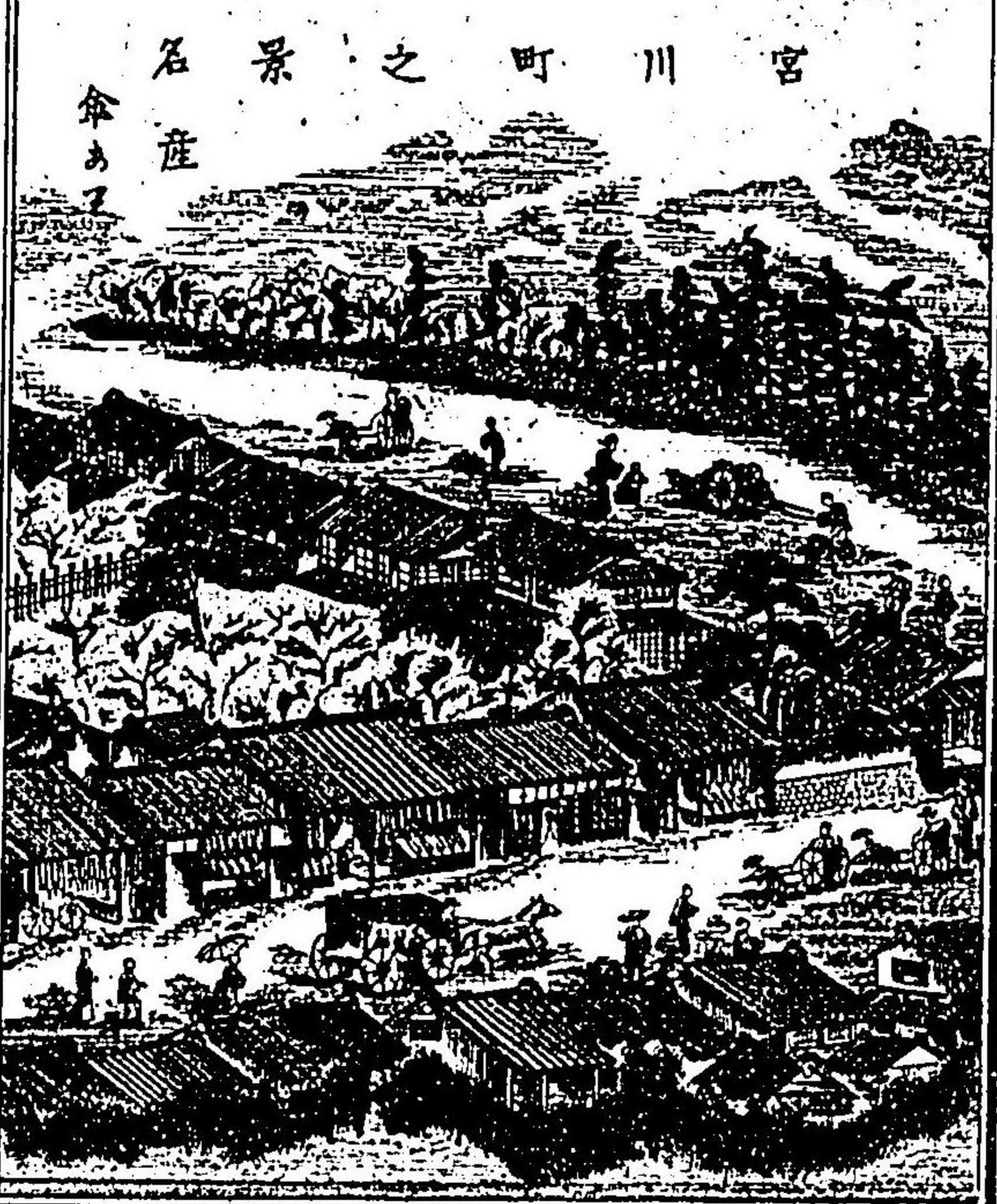
此町のさく入る常夜燈あり町の中ほと右の方より並木の松ありて人家を連る横道あり是を京町といふ古よりの本道なり宮川町をすくみ通りて堤世古より入て宇良口といつるハ道の程のちかけきハ人々を京町をば歴するなり

宮川町の次

茶屋町の次の町なり茶店ありまゝありてきを直に庄山田の本道よりつるなり

堤世古の入口左の横道より往なり

二區常盤町あり祭神大若子命と若子命外宮橋社十六座の内なり



○草奈伎神社

○清野井庭神社

○浦口町

○常盤町

○筋向橋

○下中之郷

○一志

○宮後

大間國生神社境内あり外宮橋社十六社の内なり草野姫命

常盤町あり清野姫命外宮橋社十六社の内也

三侯の次の町なり堤世古より此所は出で常盤町に到るなり

浦口の次の町なり

常盤町の口あり斜に架せ

もゆえまかく名づくるなり

常盤町の

八日市場 下中の郷の次の町なり

山田之景



町の右の横道より館町北御門に至るなり

○月夜見宮
宮後町北の端の森にあり月夜見命

○高河原神社
外宮攝社十六座の内なり

○館町
宮後の次の町なり

道へて外宮の入口北御門に至るなり凡参宮の道は北御門と一の鳥居より参詣するを本式とす北御門は町方よりの行程近くして便よゆ

一さゆゑ多し北御門より参詣するなり

○豊川
宮の西北に廻りくる川に云ふ豊受の宮

○北御門橋
豊川を渡せる橋なり豊川の橋と云ふなり

自是外宮宮中
是れより外宮の御境内なり

○度會國御神社
豊受宮城内にあり彦國見加伎建與東命外宮攝社十六社の内なり

○忌火屋殿
朝夕の御供を炊きてこれを謝進するゆゑ忌火屋殿と云ふ

○御酒殿
御酒をかき奉る殿なり

○忍穂井
上御井とも云豊受宮城内にあり西太神宮の朝夕の御饌を供進すまふ

○御廐
戴宇

○一の鳥居
御宮の本道第一の鳥居をいふ宮後より館町に出で東に向てむきあり雨よおれて橋を渡り一の鳥居なり

○神苑
御宮の入口の前なり

○五丈殿
参道の左の方九丈殿の北に在

○御池
洗手所

○參集所
稱宜諸員の参集する所なり

○大麻授與所
大麻を授與せらるる所なり

○祭舎
祭祀を行はるる所なり

○宿衛舎
本宮の傍にあり番宿のともがら宿直番所なり

○玉串御門
一名内の玉垣の御門といふ

○蕃垣御門
玉串御門と瑞垣御門との間あり

○瑞垣御門
蕃垣御門の内より瑞垣御門の故に此名あり此内御水社あり

田丈殿

九丈殿

手洗場

祈禱所

五丈殿の南に在
御池の前
祈禱を執行する
いとあろかり

○度會國御神社
豊受宮城内にあり彦國見加伎建與東命外宮攝社十六社の内なり

○忌火屋殿
朝夕の御供を炊きてこれを謝進するゆゑ忌火屋殿と云ふ

○御酒殿
御酒をかき奉る殿なり

○忍穂井
上御井とも云豊受宮城内にあり西太神宮の朝夕の御饌を供進すまふ

○御廐
戴宇

○一の鳥居
御宮の本道第一の鳥居をいふ宮後より館町に出で東に向てむきあり雨よおれて橋を渡り一の鳥居なり

○神苑
御宮の入口の前なり

○五丈殿
参道の左の方九丈殿の北に在

○御池
洗手所

○參集所
稱宜諸員の参集する所なり

○大麻授與所
大麻を授與せらるる所なり

○祭舎
祭祀を行はるる所なり

○宿衛舎
本宮の傍にあり番宿のともがら宿直番所なり

○玉串御門
一名内の玉垣の御門といふ

○蕃垣御門
玉串御門と瑞垣御門との間あり

○瑞垣御門
蕃垣御門の内より瑞垣御門の故に此名あり此内御水社あり

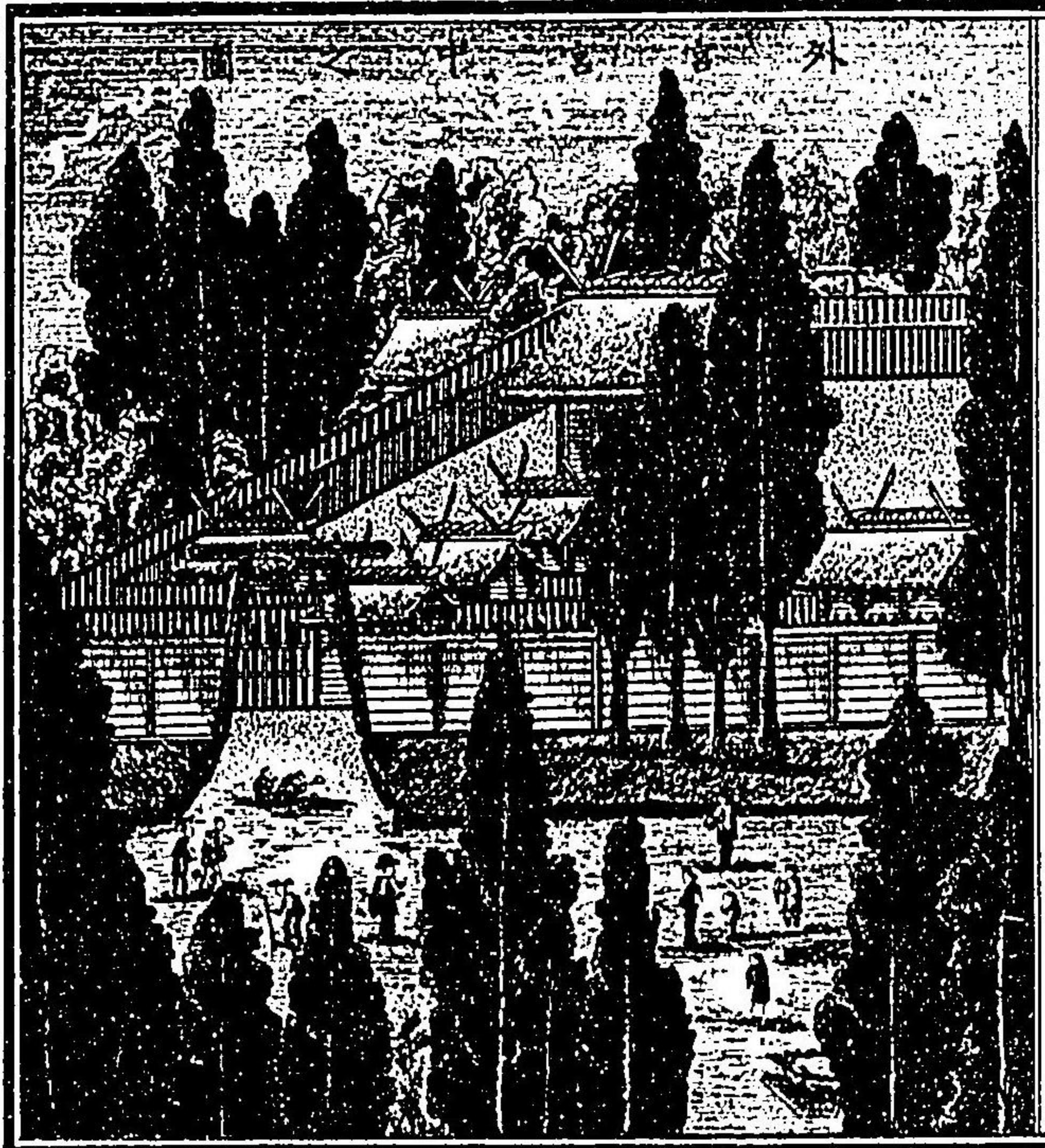
○豊受大神宮正殿

○豊受皇大神一座

當官御鎮座の始め八人皇二十二代雄略天皇二十二年九月十五日也。是ハ垂仁天皇御宇二十六年十月、天照皇大神當國五十鈴川の上り鎮座。向り後四百八十年を経て天照皇大神の御託宣。まよりて丹波國與謝郡真名井原より移らせ座せり。

相殿神

東 天津彦彦火瓊杵尊
西 天兒屋根命 太玉命



相殿と申し奉る事御同殿は相併せ祠で奉れるの名よして實ハ大神と相けて仕へ御座られたまふの心なるべしされハ皇孫の尊も天兒屋根命太玉命この三座の神玉座の御前よ分れ御座すなり

○東寶殿

○西寶殿

○外幣殿

○裏御門

○御饌殿

○多賀宮

○土宮

○下御井

○風宮

正殿の良の方内の玉垣の外あり是ハ二所大神宮へ朝夕の御饌と備ふる御殿なり。大宮の前南の山上あり祭神一座伊吹戸主神豊受大神の荒魂よして外宮第一の別宮なり。高宮の坂を下りて左の方あり祭神三座大土御祖神宇賀御魂神大田命よして外宮第二の別宮なり。高の宮山の麓有石井よして別宮の御饌と炊ぐ此水を用るなり。土の宮の東の方あり祭神二座級長津彦命級長戸辺命外宮第四の別宮なり元ハ風社といひ一と弘安四年異賊來りし時神奇と現一兵船と吹遣一沈溺せられ一仍て正應六年高宮と号したまひて風宮と号すなり毎年五月十日八月四日風日折神事あり

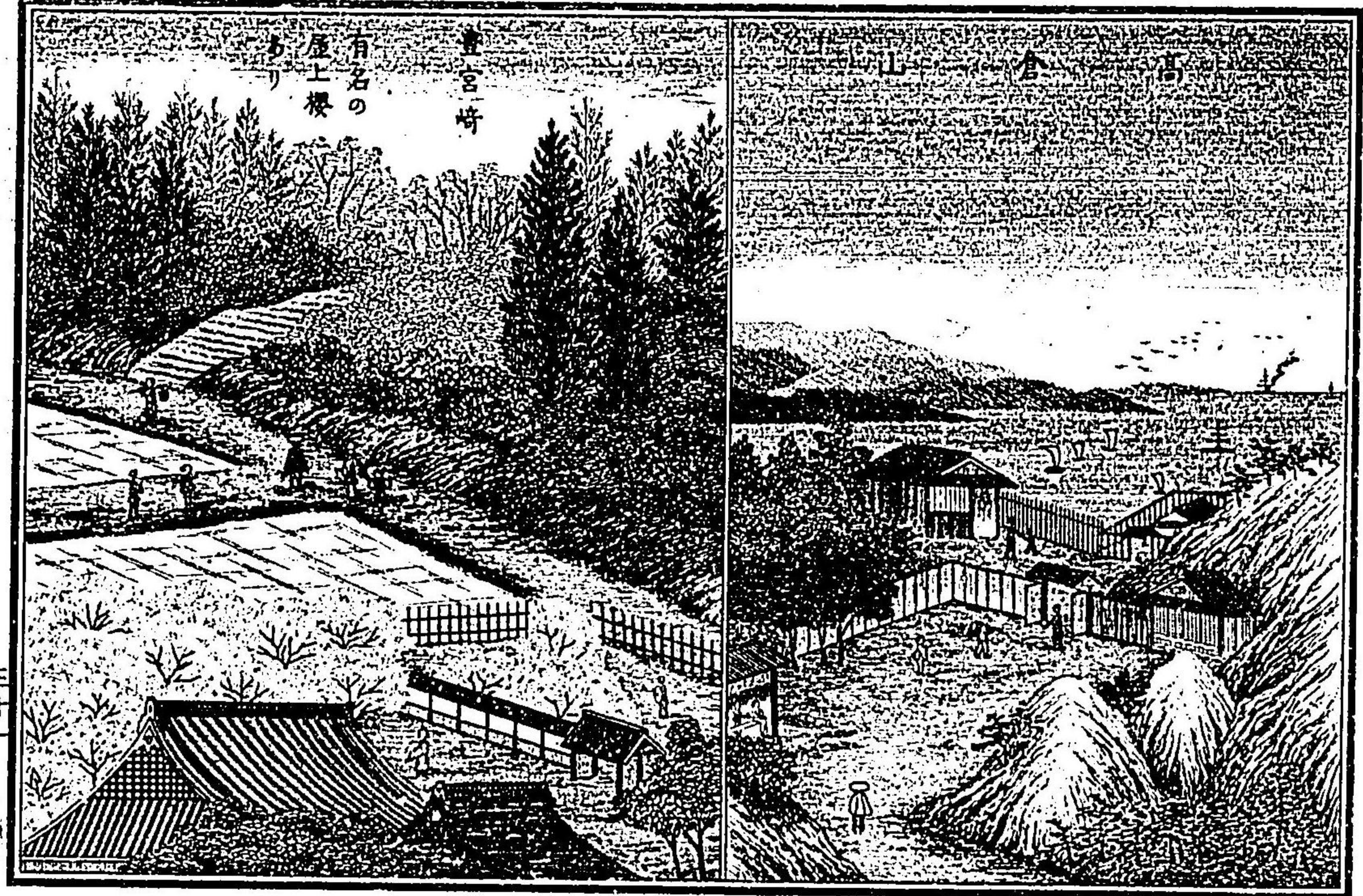
○高倉山

○岩戸

○豊宮寄

○宮崎文庫

當宮の御前の山よて外宮神山の総名なり。高倉山の上より岩窟と云甚だ美景の地なり。宮山の東の方なり。豊宮崎は在慶安元年は營建あり凡朝家の御記録兩宮の神書日記より歌書儒書医書雜書に至るまで聚めて是と裁ひ諸國より寄附せらるるの書ありて漸く棟も充てり



有名の
屋上樓
宮崎

山田
度會大國玉比賣神社
岡本町より祭神
大國玉命佐々良比
賣命外宮攝社十
六座の内なり
度會郡の東北部より教六十百郡役所ありて市街繁盛なり兩大神宮
所在の地なるを以て諸國の人兩宮を参拜するもの毎歲數万人なり

○馬ヶ森 一の木町
○度會大國玉比賣神社

旅宿業
外宮前
北村屋甚藏
尾上町
外宮前
宇仁館太郎
尾上町
藤屋利七
古市町
兩屋勤十郎
中之町
井村大安
宇治橋
岡田屋助市
料理店
古市町
備前屋
杉本屋
吉村

同
角屋和惣治
尾上町
桔梗屋齋兵衛
同相の山半十郎前
永井政右衛門
尾上町
松島屋喜三郎
同
松屋庄作
岩倉町
川島定八
常盤町
油屋清栄門
同
田中屋喜兵衛
十文字屋かね
尾上町

八日市場町

中

岡

大世吉町

戸田屋

一志町

吸霞園

中之町

吉

河崎町

村

古市町

亭

漆器

橋本佐兵衛

片岡善兵衛

若井源助

合羽煙草入

西村藤吉衛門

西澤庄作

西村徳太郎

萬金丹

野間種五郎

洋小間物

秋田喜助

阿竹逸平

小間物

出口喜六

中山後平

森田孫助

飲食店

中之切町

濱田種助

倭町

角屋幸吉

古市町

とぶ六

名産

櫛

萬金丹

漆器 春慶塗 著 盃

神路山の神御山杉 等よて造りじなり

岡本町

小田橋

尾上町

尾部の山

間の山

倭町

名物

鮓

常明寺

間の山より 北より

古市

尾部坂の東の町繁昌の地なり 妓樓芝居小屋等 ありいとつて賑一此古市よて八間の山の跡を うちひしものなるよ物あはれなる節なる故いつの頃よりかうつ りて川崎音頭流行して是を伊勢音頭と稱し都節ともは華悲のう たは物とは成りたれとと 此地の調は普通より超たり

中ノ町

櫻木町

貝吹山

古市の次の町なり此間長峰といふ内宮より外宮 まで五十町の其中間九五丁目二故中町の町といふ の町なり 久世戸坂の良なり宇治山田 合戦工貝と吹一町なりと云

葛籠石

中の町東の方二町計りもあり高さ八尺余横二丈計石重りてつばらの形に似たり今ハ注連を引て小社とす春ハ櫻多く咲て騷客遊宴の地とす

月讀宮

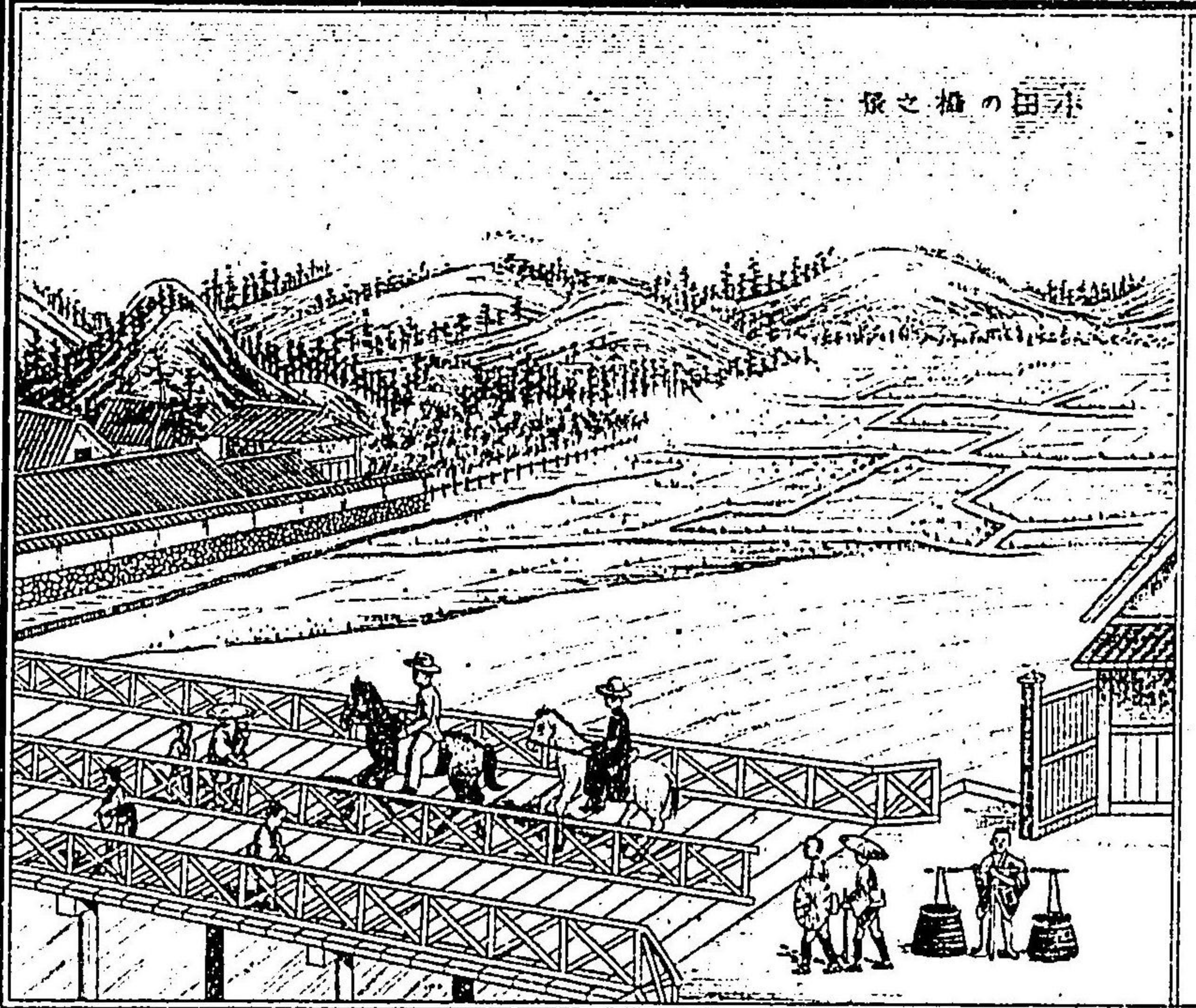
北中村にあり本宮より十八町計北なり

月讀荒御魂宮

祭神月讀命別内宮九別宮の一なり

月讀宮城

内もあり



田の橋の景

伊勢の
大勢の
まをる



ほら石
の圖

月讀伊
非諾社

實清朝臣

いさふしの
まをみれ
後をよ
とりて
うきあ
てい
てい
てい
てい





- 慶光院
- 西行谷
- 津長社
- 大水社
- 鼓ヶ岳

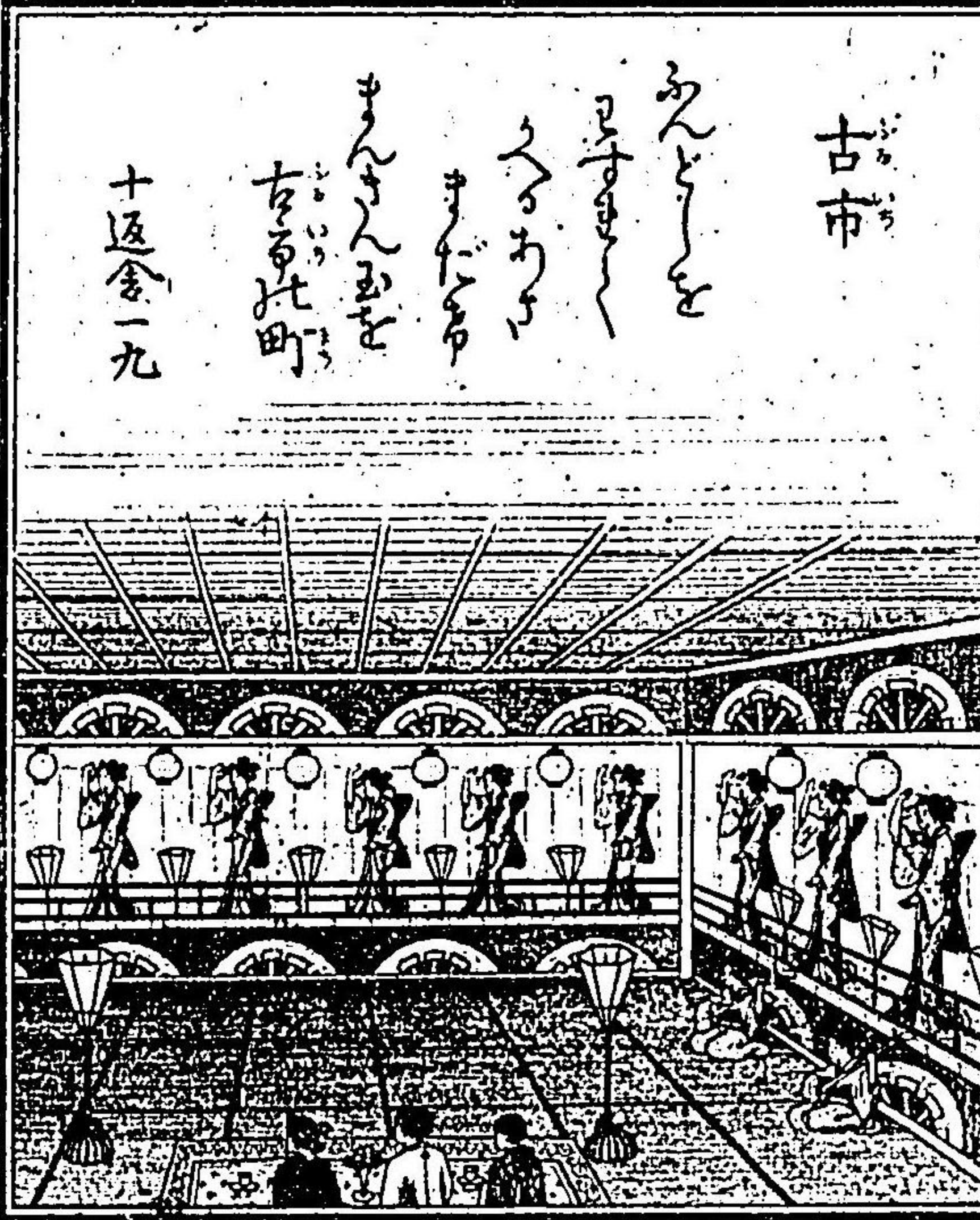
○赤ふくもら

中の切右の方よ在

○新橋

中の切の左の方よあり

宇治の町東の山際より建久の頃西行法師ハらく寓居ありし所よてたき絶景の地なり
今在家町よりあり所祭極長比賣
命内宮攝社廿五社の内なり
津長社の南より祭神一座大山祇
御祖命内宮攝社廿五社の内なり
大橋の西よみへて官川五十鈴川まはさまるよつて俗よつみら岳といふ



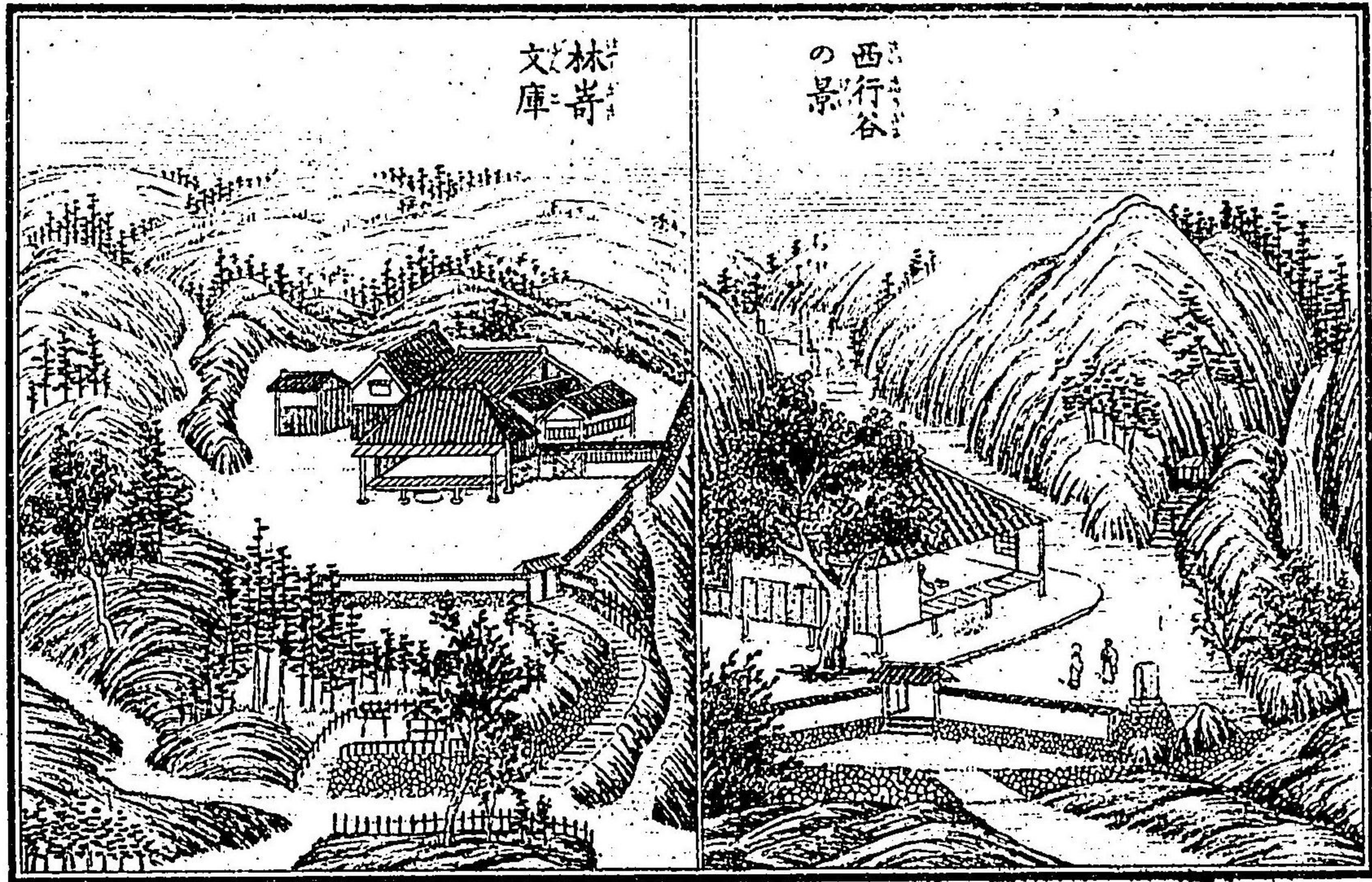
- 伊佐奈岐宮
- 興玉森
- 楠部村
- 大土御祖社
- 國津御祖社
- 牛谷
- 浦田町

○伊佐奈彌宮

西より此二神ハ御夫婦にて天神七代の天人依氣化の神はて大日靈貴(天照大神)と生給ふ又月讀蛭子素盞鳴とも生給ひ御父母なり
月讀の宮の南よりあり
御田彦大神の旧地ニ
旧名尾崎の里古市より十二三町是
れより朝熊山へ登る八五十町ニ
楠部村あり祭神二座
大國玉命水佐々良姫命
大土御祖社の地内より祭神宇治比賣命
村比賣命二座を兩社とも内宮攝社二十五社の内なり
櫻木町末の坂より此とらう間の山に云ふ杉を玉などいふは
といふ者の根三せんといきまかりて道行公儀といふなり
牛谷の坂より
さし入る町ニ

中之切

浦田の次の町なり



林崎文庫

西行谷の景

林崎文庫

今在家町あり貞享四年に造立ありて公より黄金と給ひ志ある賢扶合して造立せらる初ハ林崎より南の方丸山と云呼はれて元禄三年は此処へうつす書籍時家の寄附若干と納ひ傍に石碑あり孝經一部と鑑ひ東武源麟の書なり石ハ育石にて奥州の石と云

橋姫社

宇治橋

宇治橋の西詰あり橋を守り神なり祭神一坐宇治比賣命
 右いへ三里半 左三見へ二里
 五十鈴川一架せり長五十一間余幅四間余あり古昔は十余町程下流の中村曾波河原と云ふありて板橋の類なり一を永享三年足利將軍教公御参宮の片念の如き大橋を架ちたり



宇治橋

舟中納ま 匡房
 川あり 幸鈴の 後せて

○五十鈴川

又宇治川といふ此川二派ありて一派は宇治州磯部村の迎の谷々より来り一派は宇治山々の谷又志州より流るなり未ハ中村橋部鹿海村を過て二見の海入る

○鏡石

五十鈴川の水派あり大瀬といふ高き五丈餘大石巖をひへ飛來白布を晒す如く上樹多き花絶無なり

○碁盤岩

碁石ハ谷川の東岸あり高き二丈餘五丈計の大石よて谷川の方より西面を至て奇あり大石の上平なり

○鯨石

石面自然ニ碁盤の界あり

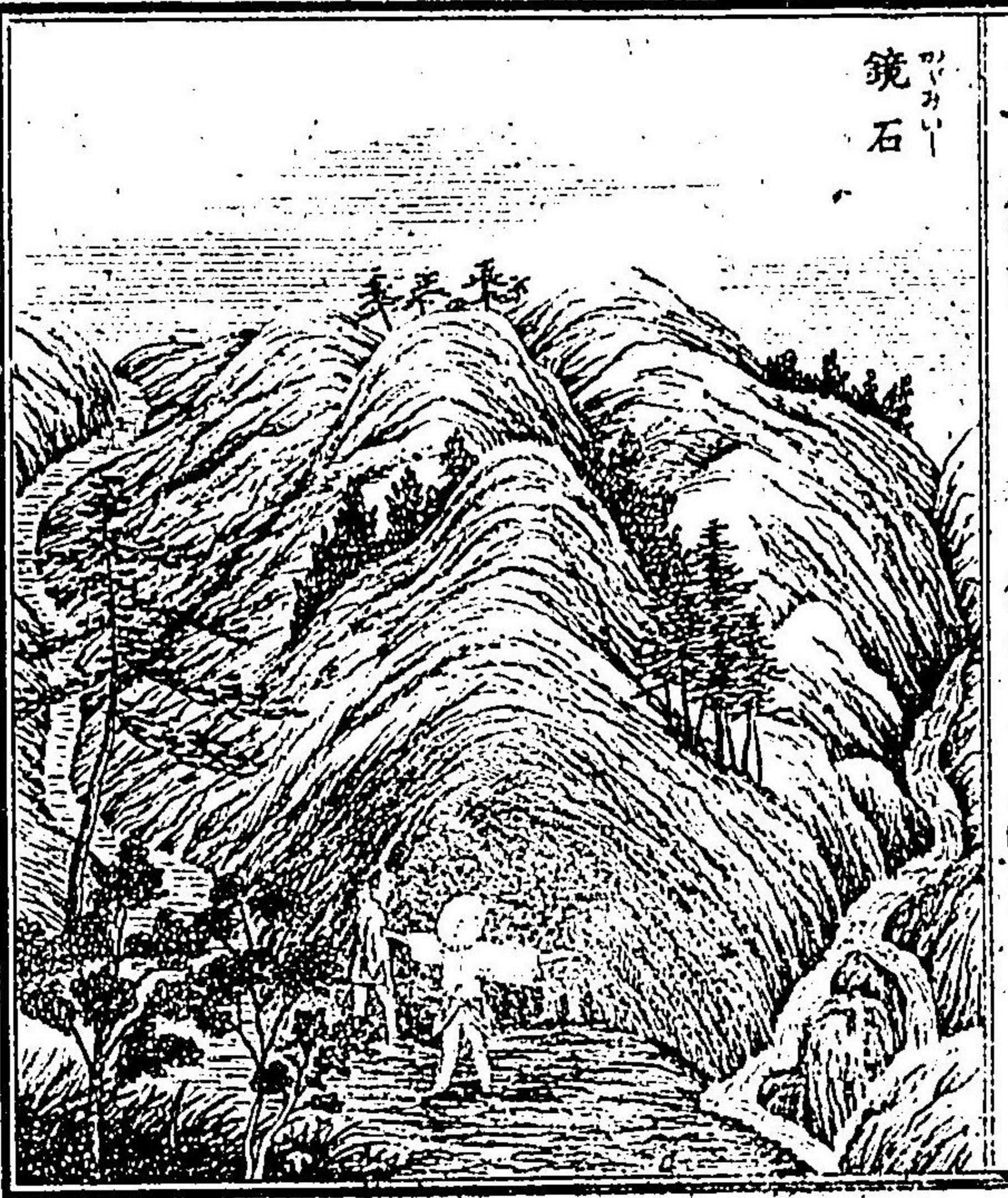
○燈臺松

みあ五十鈴川の川辺あり

○下館町

宇治橋の東の町なり

鏡石



○神苑

御宮の入口の前あり

自是内宮宮中

自是内宮の御境内なり

○一の鳥居

御宮の入り口なり

○手水場

一の鳥居を入て右の方五十鈴川の流れなり風の宮の前流れと鏡石の方の流れとの落合なり

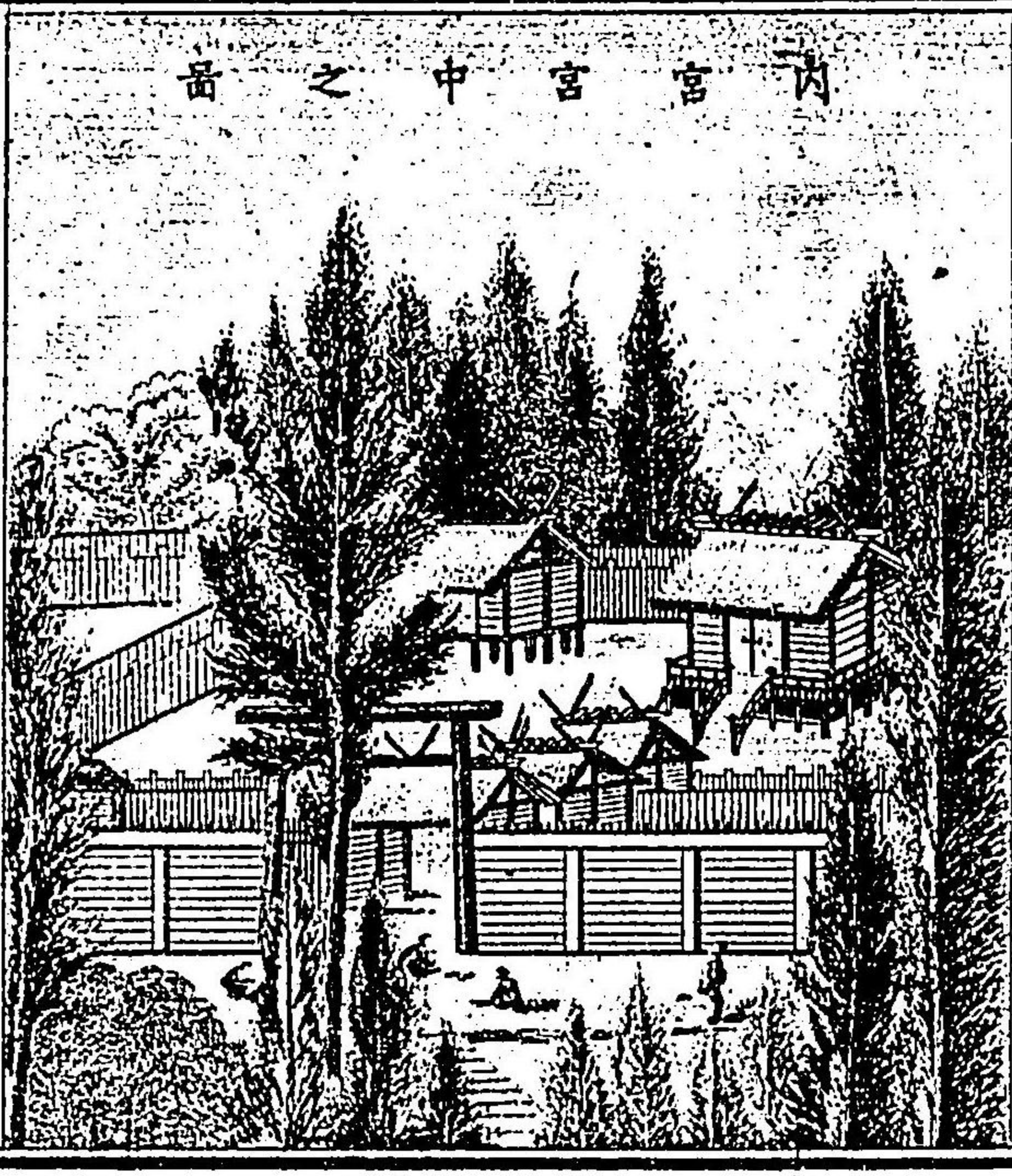
○忌火屋殿

大神宮の御殿を調へ此所は備ふるまを内宮の御供殿ハ外宮あり外宮ハ朝夕も備ふるとも内宮ハ朝夕も

朝夕も

○外幣殿

外宮の御宮中 玉串御門 第三の鳥居の内なり 子細外宮も同一



内宮 中之宮 岳

○ 蕃垣御門 玉串御門と瑞垣御門との間の小門なり

○ 瑞垣御門 蕃垣御門の内あり

○ 皇大神宮正殿

天照皇大神一座

相殿 東 手力雄命

西 萬幡豊秋津姫命

手力雄命ハ天の岩戸を引いらき玉ひし強力の神也萬幡豊秋津姫命ハ天照大神の御子天忍穗耳尊の御妻よりて高皇産靈尊の御女なり

御遷宮

之畷

世乃こめよ

たてし

内外の官柱

このき

神路の

山は

うさ

後九條

前内大臣



御鎮座の御事ハ日本記(書云)日の神岩戸

を開いて出まひ時鏡を以て其窟に投じ

かを戸不觸れて小取付に今尚存此即

伊勢の崇秘之大神也云々尚神武天皇以來

代々此御鏡同殿おまをなまひけるが人皇

十代崇神天皇此御宇神威を恐るこまの

天乃香山の荒金を以て鏡劍を鑄あらたえ

温明殿ふらがめ申内侍所寶劍と名け内

裏にとめ神代より此鏡と劍を崇神天皇

六年己丑秋九月御女豊鋤入姫を附奉

て大和國笠縫の邑に付て磯城の神籬に

立てしつゝ奉る其後大神が教ふよりて豊

鋤入姫大神を戴き奉て國々にまご宮つと

求めたまふ小年老たまひにりて人皇十

一代垂仁天皇の御女大倭姫命これかを

りて美和の御謚の宮より諸國順覽を終

に同御宇二十六年丁巳十月甲子宇治郷五

十鈴川の邊に移り奉り相殿に天兒屋根命太玉命はりり其後外宮御鎮座

の時此二神を外宮の西相殿に定め給ふ

○神路山 宮城のめぐり東南の惣号より一名宇治山といふ

○東寶殿 正殿の東西にあり 外宮に同ト

○宿衛舎 本宮の傍にあり 外宮に同ト

○御稻御倉 御稲を納むる倉なり

○裏御門 北鳥居 荒垣の御門といふ

○北玉垣御門 北瑞垣御門 本宮の北坂の上は有葉一の別宮より祭神瀬織津姫命

○荒祭宮 祭舎 ○四大殿 ○五大殿 以上外宮

○御贄調舎 御贄の調進を司とる所なり

○御池 由貴御倉 御酒を造る酒殿なり

○御酒殿 祈禱所

○參集所 御廐 三宇

○大麻授與所 御廐 三宇

○五十鈴川橋 長と二拾七間倍よ風の宮の橋といふ

○風日祈宮 五十鈴川橋をわたりて右の方より内宮別宮の内なり

○瀧祭御前 祭る

宮中終

○馬ヶ森 館町

田丸 度會郡の東北郡にあて人口千五百商家立つらるる賑ハ

ち参宮田丸越の道條をまらハ紀高熊野道よりてまの所より分る

旅宿業 森屋庄七

名産 紙製烟草入

田丸之景



○廣泰寺

田丸より十八丁南都村にありて禪宗なり境内東
南の方より田丸落有名の劔士橋正以氏の碑石あり
高さ六尺ありて碑文ハ縮修官
巖谷修氏撰并書なり

内宮参詣終りて是より南伊雜宮と朝熊との下を
又下りて二見よ川寄辺までの順路を記す

○一瀨川

此れハ内宮より磯部村へ行道なりあまの
川をせよ初なるれハ瀨と云ふなり

○合坂

杉坂より
五十丁

○猿田彦森

合坂より下
る所あり

○瀧祭窟

合坂より下る中程の右の方より有谷へ貳丁下りて
岩窟あり其穴に入車凡拾間斗ありて龍あり

○家立茶屋

合坂山を下り
麓あり



○鷓鴣石

答志郡の磯部村にあり街道より参下高拾七間横
七拾間物の音は答ふるごと石の物云ふごと

上之郷

惠利原より
九丁あり

旅宿業

吉角屋次郎

中屋石次郎

名物

ともしや菓子

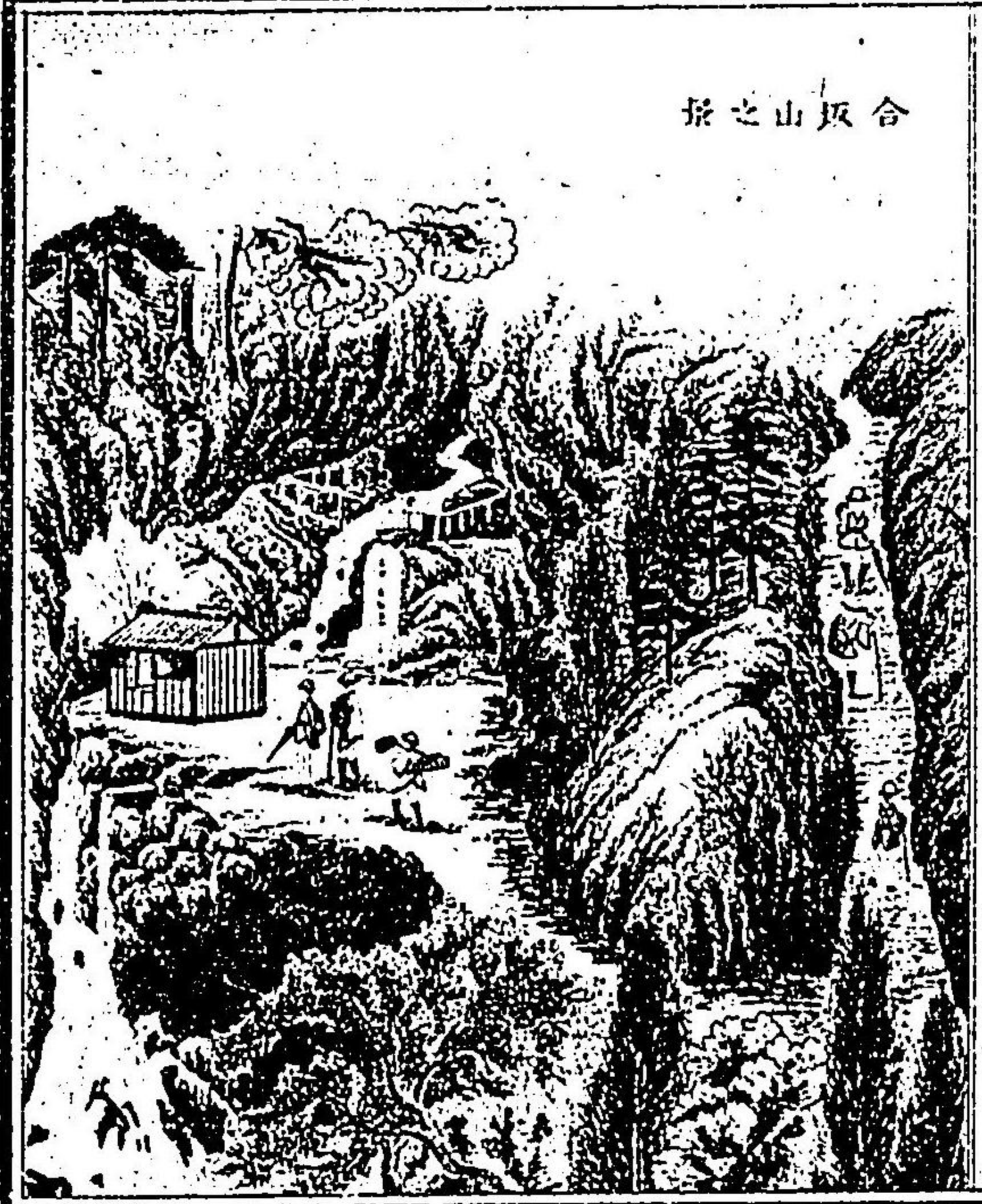
○大楠

上の郷北の
入口あり

○伊雜宮

内宮より三里上之郷村にあり系神二座伊佐波登
美の命玉柱屋姫の命内宮別宮の一としてたも参

合坂山之景



○佐美長神社 惠利原村あり
 ○御前神社 佐美長神社 城内あり
 ○御田祭 五月上旬吉日を撰み 田植の祭りあり
 磯部より 奇嶋漁村より山田及び鳥羽への通路あり 崎嶋より諸方へ運搬する魚荷ハ必らず 行の繁き咽喉の地なり

旅宿業 丁子屋忠吉 菱屋利七

名産 眞珠 煎海蜇

○横山 鶴方村の西部あり東西南北いつれより見るも横山の渺茫たる無数の嶋嶼の羅列せる等を見後面を見れば朝照嶽奇峯を呈て景色絶佳なり



家立茶屋之景

◎朝熊岳の道を記す

宇治橋の山神の社の左より
 の石りて形を六拾丁
 ○楠部嶺 宇治より 茶店あり此処より左へ下 拾六丁 坂ハ二見道楠部村へ出る
 ○一字田嶺 十六丁 樹部峠より
 ○朝熊嶽 内宮より五十丁 茶屋多し二十余丁下は八朝 一字田峠より廿丁 熊村なり又右二見へ六拾貳 丁あり此山ハ伊勢志摩の間を跨りて高嶺 ありて山海の風景十八劫を眼中に聚む

旅宿業 豆腐屋喜右門
 野間屋といふ此祖ハ尾張國野間内海よりいで するれバかく云ふなり煎法は秋田城之助實 季秘法を傳へしとぞ



鷗嶋石之景

秋の声 天柱今井 仲書
 高野長嘯與人同 豈入金羅鎖玉蓮 却使伯牙生夏到 破琴何如子期空 眞滿子松雅

伊雜宮
之景



鶺鴒方
之景



くま伊勢の
てくらや
志摩の
はらがつを
蟻蛾

○勝峯山金剛證寺

○本尊虚空三藏菩薩

開山教待和尚中興ハ弘法大師より其後衰微せし後
鎌倉建長寺第五世東岳禪師いまの堂宇を建つ

○佛牙舍利塔

本尊の右小あり昔聖徳太子天皇より
傳來せしを聖武天皇天平年中に此処

○呑海庵

朝熊の奥まほま室前富士見臺有て勝景の二奇観を
望み松杉生茂り望下ま松下江村等を見渡し尾張三河
の嶋々も手小取るなり小て伊勢の海ハ

○朝熊村

嶺より二拾二丁下れ茶屋あり西のはづれより小
橋を渡り右へ行ハ二見道よりすぐま行ハ宇田村へ
村に至る山田道より朝熊村をすきて一字田村へ
つゝる前の野中より右へ行ハ鹿海村に至るなり

横山之
風景



此山の麓地
嶽谷小土俗
神石と称し
天字と二字
をほりたる
奇石あり

旅宿業

角屋久右衛門

朝熊神社

朝熊村小あま内宮振社二十五社の内なり

汐合

通繩手より二見への江河なり五十鈴川の末小て東西の湊とる落る汐の姿は行合なり

三津

朝熊よりの道と山田よりの道と出合ふ所なるま

三津浦

三津村の南の方にて橋ありもとハ舟渡り所てくる舟のわさくと云ひくとあるま

硯石

山腹にある石にて伊勢三郎の硯といふ

茶屋町

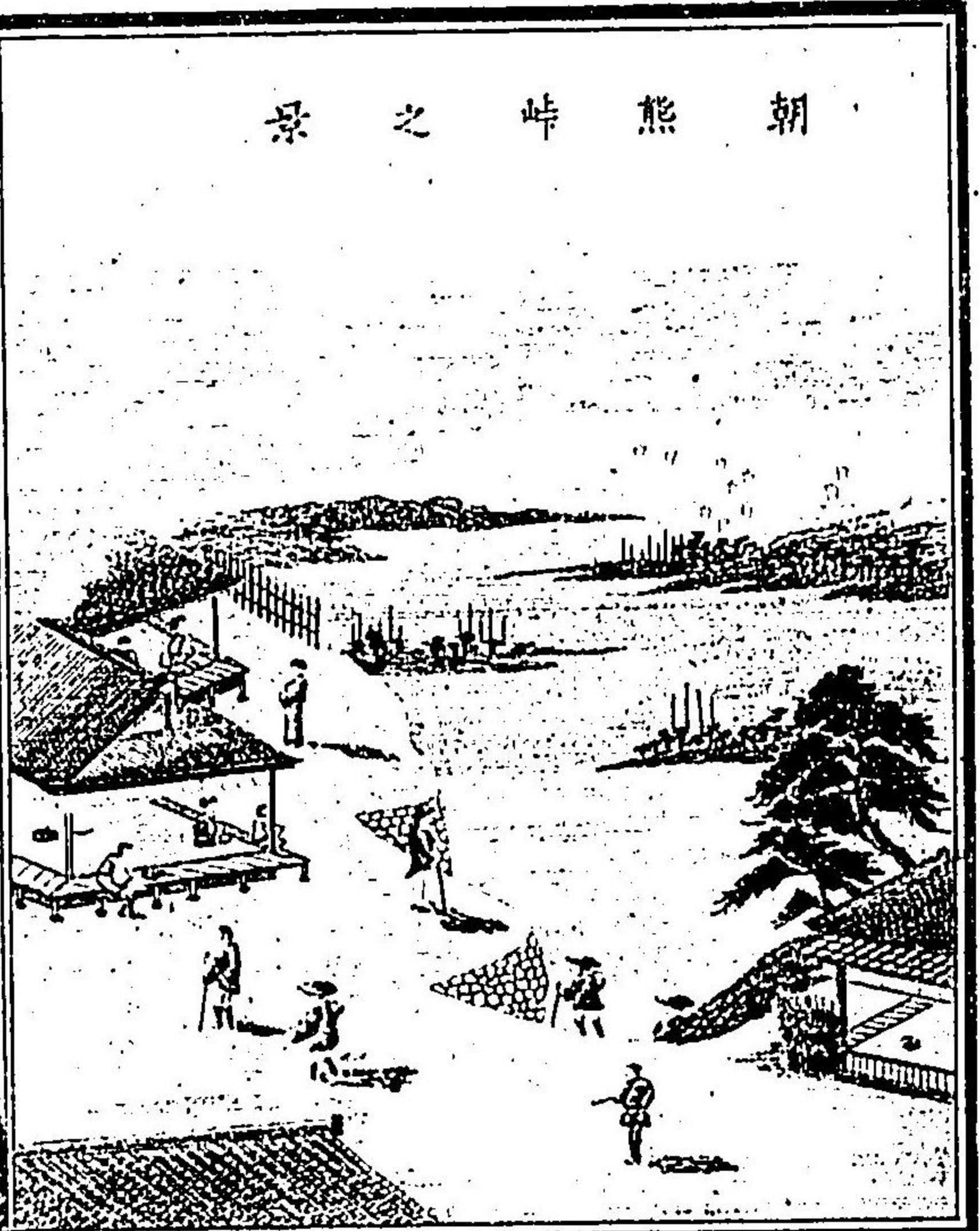
立石峠の前にあまの所より御塩殿へ行とあり

二見

楠部峠之景



朝熊峠之景



朝熊奥富士見臺之番



曾聞人説書及
春海庵の書
四十由旬半空
雲間一帯主茶
村庵

旅宿業

中井屋孫兵衛 角屋六郎

中野屋孫有門

松坂屋新助

堅田神社

江村あり内宮櫻社
二十五社のうちなり

山田より二見への頃路

河崎

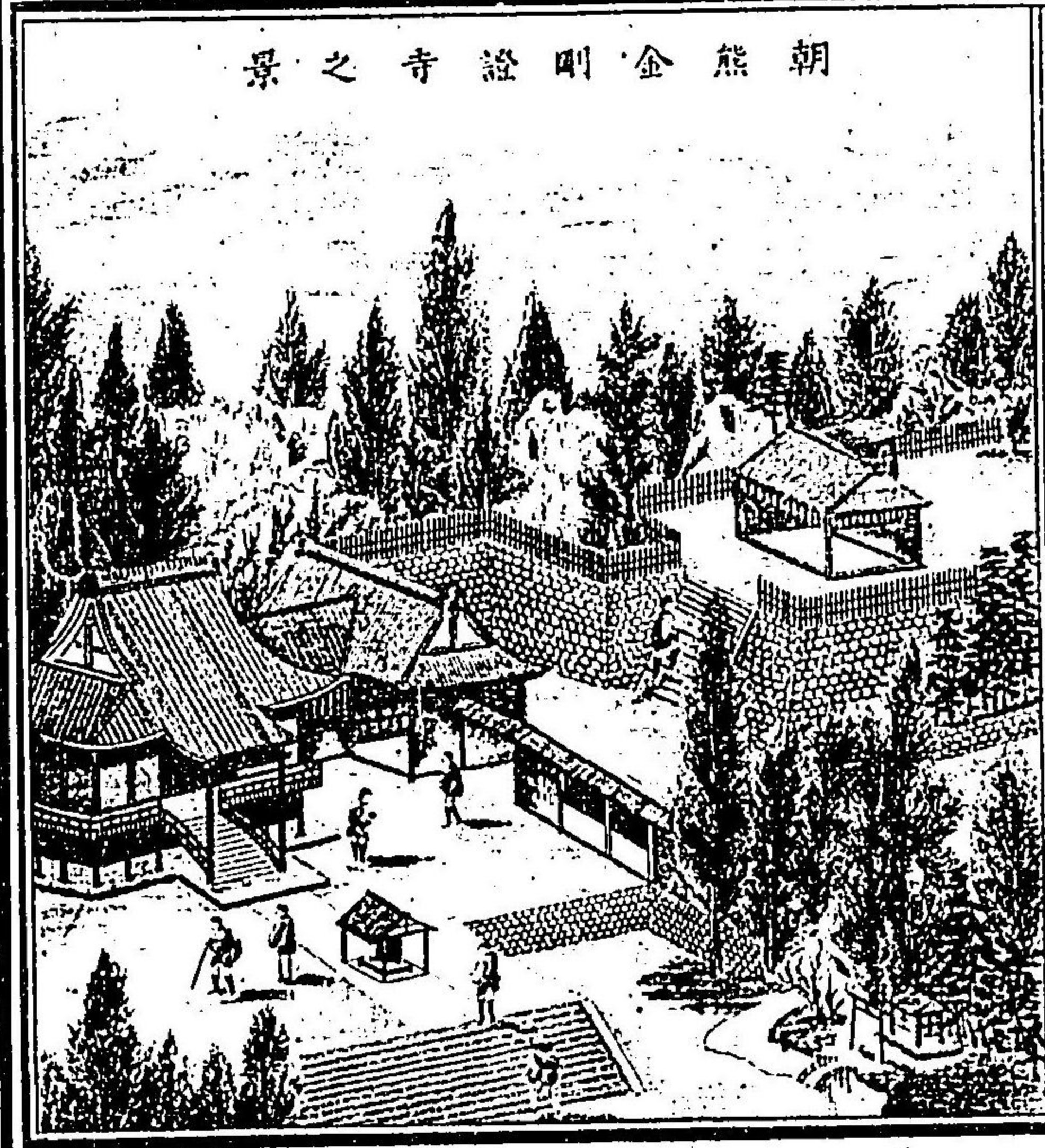
山田より
八丁

山田より二見は石まで取里宇治よりおよそ
取里半余なり此地毎日魚市ありて甚賑

伊勢崎河崎音頭まど
云ふと愛小はトまる

旅宿業

朝熊金剛寺之景



篠島屋治郎

大崎屋右衛門

吉屋茂左門

二軒茶屋

河崎の住還よて
茶屋あり

旅宿業

福田仙吉

黒瀬

二けん茶屋をは
るれ北の方なり

通村

汝合より黒瀬ま
いゝる北の方

神社港

川崎より
或十丁

参り豊橋屋筋熱田寺へまいまち
漁船の航海ありて繁華のみ

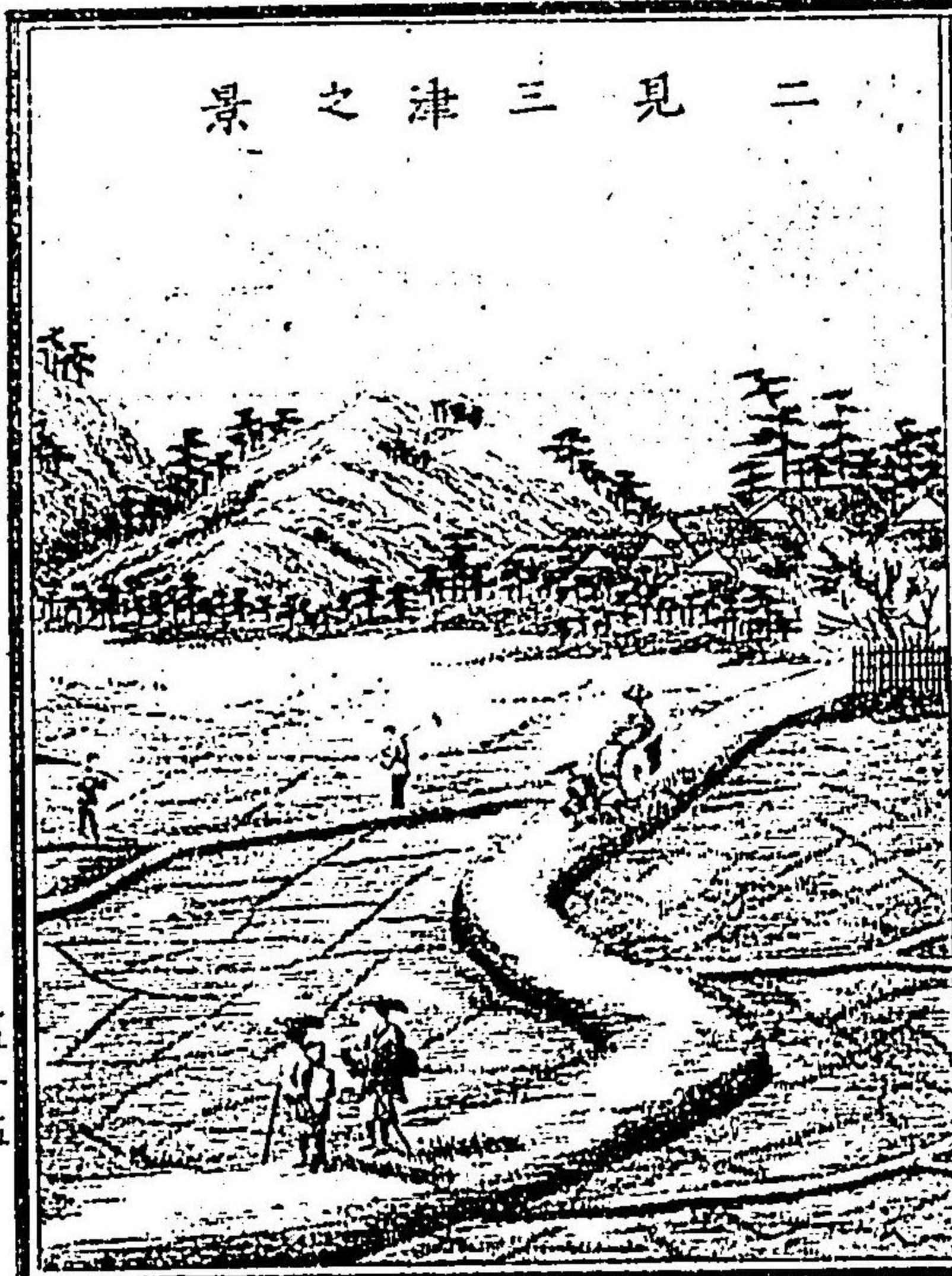
旅宿業

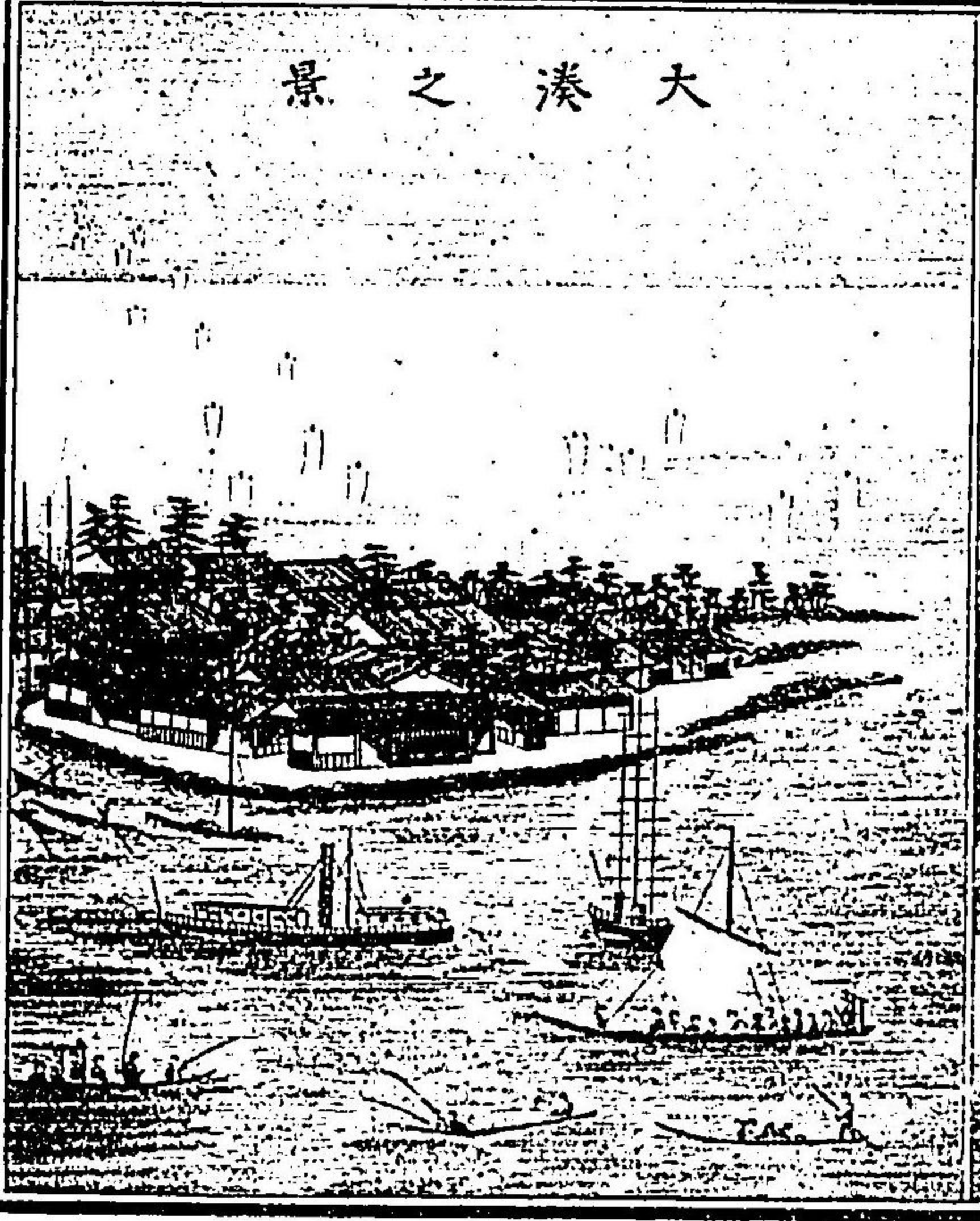
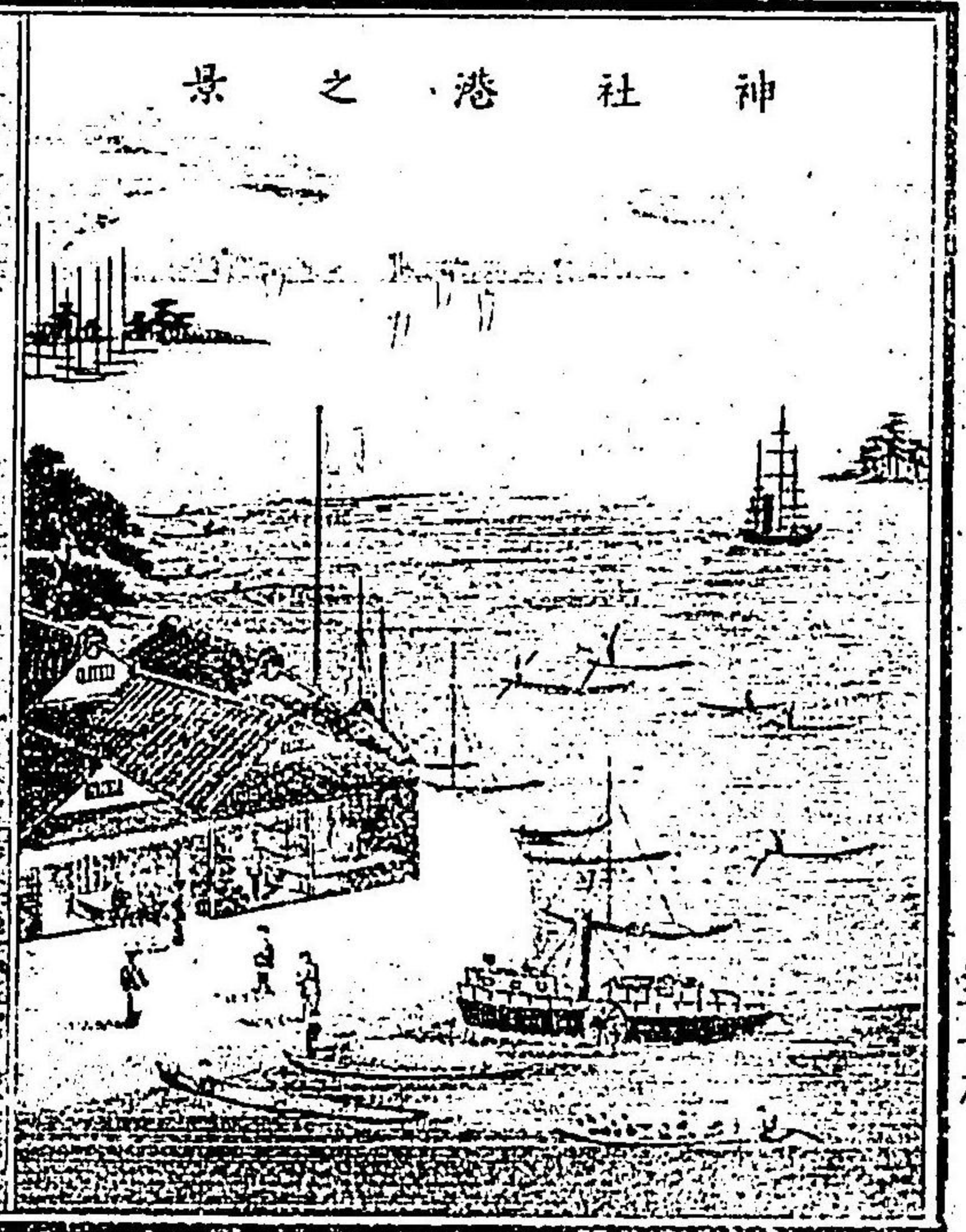
大崎屋九右衛門

吉屋佐右衛門

柏屋

二見三津之景





○ 御食社 神社あり祭神速秋津彦命
 外宮標社十六座の内なり
 人家多く商船碇泊して
 大湊 稍繁昌のみなとなり
 ○ 今一色村 高城濱の
 前あり
 ○ 高城濱 今一色村を東
 のはまなり
 立石岬よりつ
 打越濱 立石の汀なり
 ○ 清渚 松下村よき今一色村の辺
 までの磯部つとむをいふ
 ○ 御塩殿神社 立石茶屋町より西へ入
 みち庄村の北あり



二兄々々
 神さび
 立る
 時塔敷
 幾
 み代
 みちぬ
 浪ヶけ
 長崎

○御塩殿

御塩を奉りけるぞ

御宮御饌の料となる堅塩を焼きて納置所なり殿のうしろに御塩釜あり往昔は志方國國寺より

○御塩汲入所

御所とも御塩殿神社のうち有

○御塩濱

西村あり江村へ行道の渚を海中左右に立る大石あり注連をはり垢離かき場といふの二つの石立つも

○立石崎

かへま立石崎といふ

○御塩山

立石崎の前の山をいふ

二見浦

之景

貝工無垢塩を産せむくはハ二見浦を生きてを以て清きるを去るなり

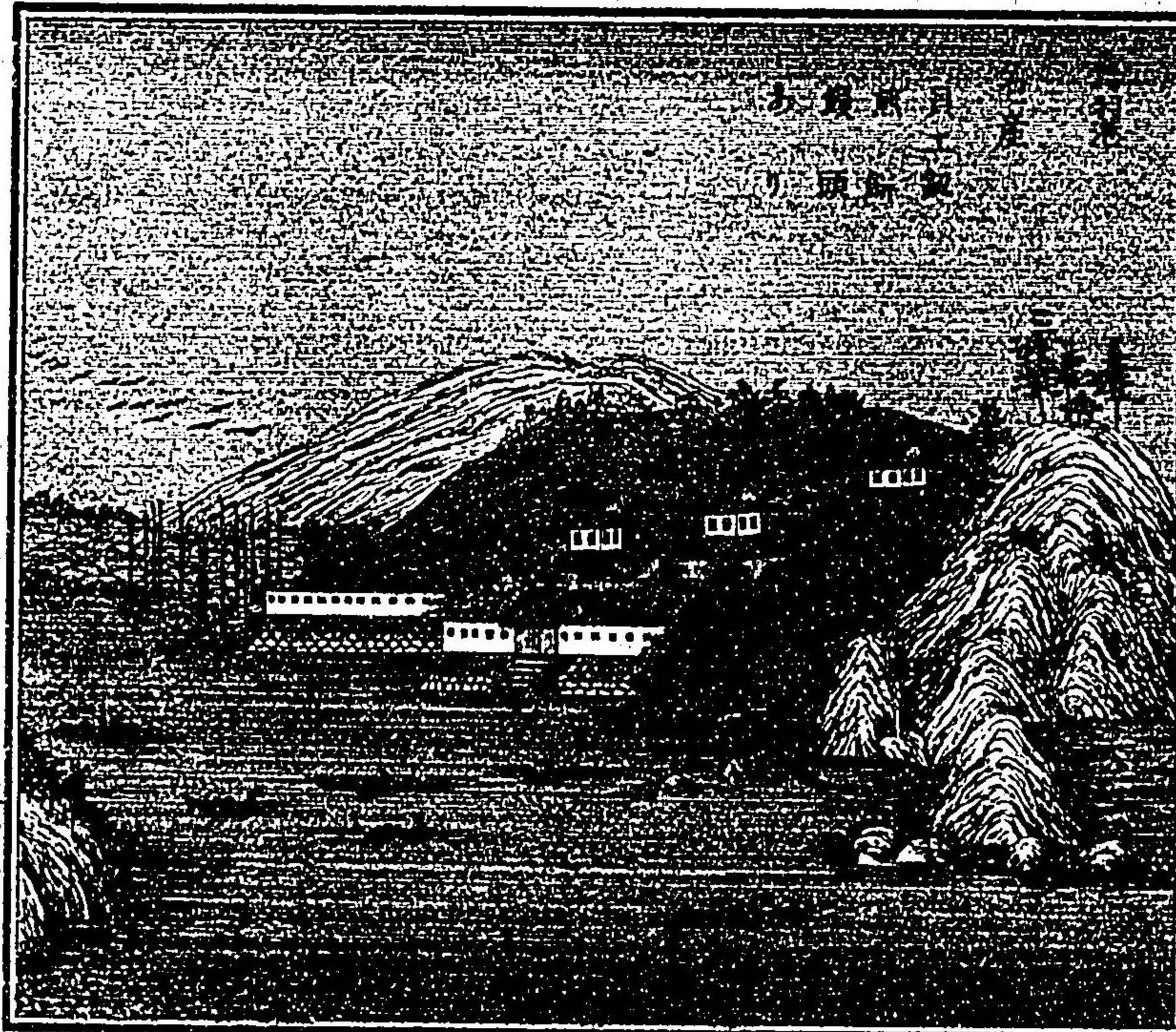


○二見浦

江村の海岸にあり奇巖海中に並らたちて景色壯快なり神宮に詣するもの此地を親ざるもの少し海水浴場あり又此の海濱は眞日館ありて楼上より見れを富士山白根山白山御岳駒ヶ岳其他近國の諸山海中に浮ぶが如くよ

○興玉石

立石より八町沖にありまほひよ八見へ汝満ねと八見へず是と神として拜するなり



音無山

二見あり此山よりのぼりて遙く海山と見ゆ東に三河達江駿河などを見越して富士山ほのかに見ゆ良の音無山の上より加賀の白山見ゆ乾多唐の山登麓の三ツ子山西より布衣山南へ朝熊山志戸園の方なり

物見松

伊勢三郎か鐘掛松といふ音無山の上よりあり

江村

江神社

江村あり内宮振社二十五社の内なり

松下村

江村の邊なり

神前神社

松下村あり内宮振社廿五社の内なり祭神荒前姫命

粟皇子神社

松下村あり内宮振社廿五社の内なり

笏立石

松下村あり

時繪松

三津浦と江村との松原なり

鳥羽港

山田より三重 答志郡あり人口四千七百郡役所あり工所等あり街市繁華よりて船船常より

輻輳一南洋の要津なり

旅宿業

本町

同

阪井善一郎

大阪屋仲

大嶋屋卯助

錦町

三河屋寅吉

料理店

八百萬

同

谷岡屋宮崎屋

大里町

日和山

鳥羽よりあり山上に松の大樹有其林下は森有て成石常居へたり船人の日和と見定むる所なり水のごとく甚佳景なり

東海道より伊勢参宮順路

東國より参宮の人海道より別名て津の江戸橋へ出る順路と記を

尾張國塚押付村より桑名へ一里十五町

桑名

買市へ桑名郡の南端ありて旧名ハ三寄といふ久松三寄守氏の旧城下なり戸數三千六百郡役所ありて商多く繁華の都邑なり産物多し又前長島あり此町の北三里よりて多慶大神宮よりて所祭天彦根の命なり

旅宿業

丹波屋右衛門

京屋兵衛

綿屋孫右衛門

錢屋亦右衛門

名産

時雨蛤

萬古焼

西洋各國より輸出す

桑名神社

俗に三崎明神といふ祭神大楠命

七里渡

旧名間遠の渡といふ此渡りハ伊勢尾張の境木曾川の落合こゝに入る

矢田河原

桑名より廿町計西

町屋川

此所より西正面より近江の山見ある此西近江伊勢の境なり

繩生

小向のつぎ

小向

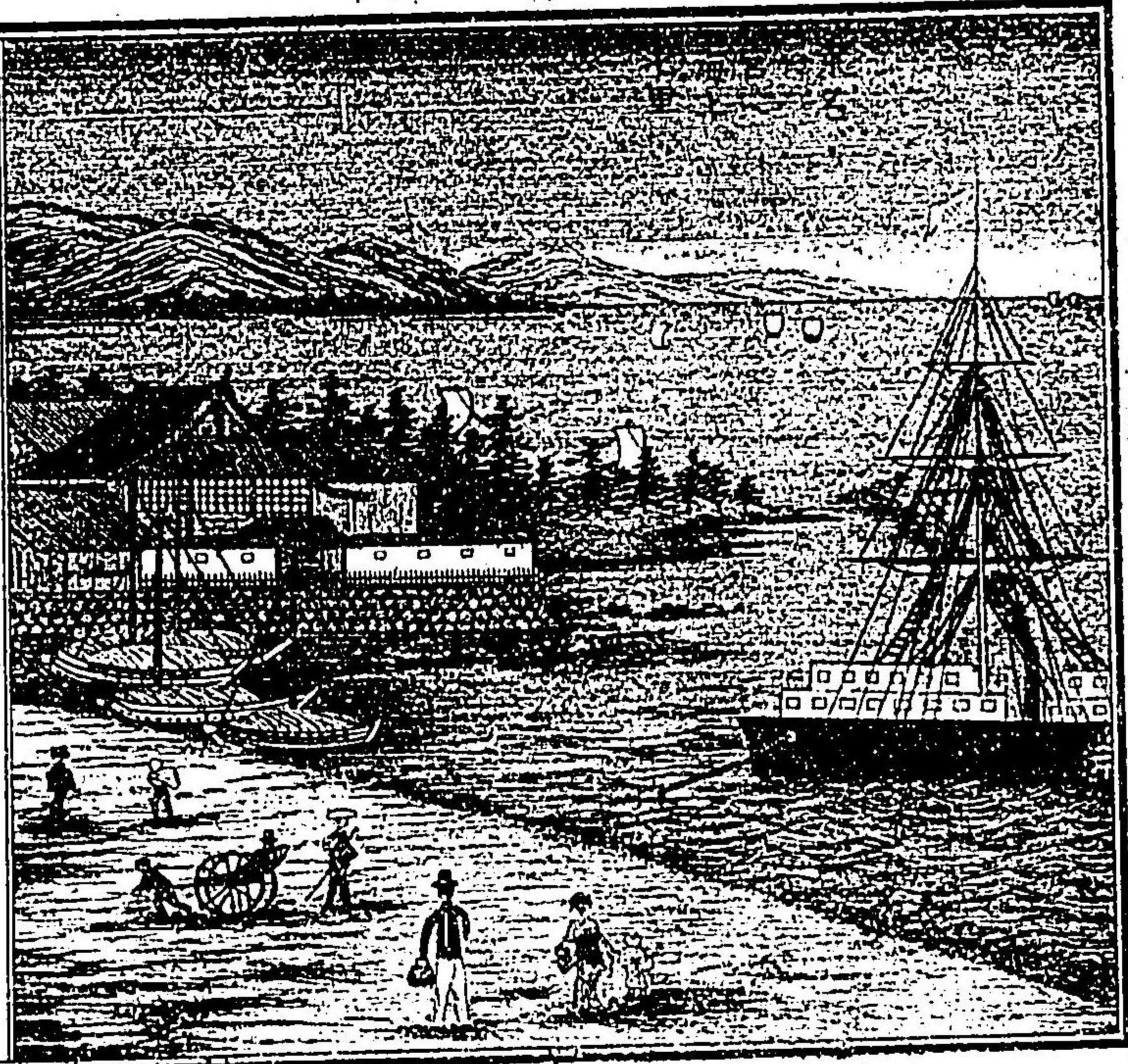
松寺のつぎ

松寺村

桑名と四日市の間

松森

活屋小三郎



富田 四日市より五十里

旅宿業

四日市 富田より五十里
 山田屋作衛 井筒屋源七
 京屋安兵衛 東屋宇右衛門

名産

焼蛤

四日市

四日市のつぎ 濱田のつぎ
 日赤村二里 横濱港と日赤村の往復あり
 るを以て市街最繁華なり

三重郡よりありて海陸便よく貿易殊
 盛なり戸數二千郡役所あり此港ハ

旅宿業

濱田屋傳六

山田屋作衛

井筒屋源七

内田屋武衛

京屋安兵衛

丸屋宇右衛門

帶屋郎右衛門

茶碗屋嘉市

名産

萬古焼

西洋各國
 一輸出す

○三重川

千草より流れ出る川なり俗に三たき川
 といふ千草ハ三里ハかり川上なり

○濱田

一里南なり
 海陸のつぎ追分より半里
 往還四日市追分の間なり

○日永

一里南なり
 海陸のつぎ追分より半里
 往還四日市追分の間なり

名産

團扇

追分

神戸へ 直一行ハ京道左に分れ行ハ
 更下 伊勢なり大島居あり

旅宿業

京屋嘉平治 淺草屋五兵衛

神戸

白子一 河曲郡よりあり日本多氏の
 里光二 城下より戸數七百あり

旅宿業

大はしより一丁南

道具屋善六

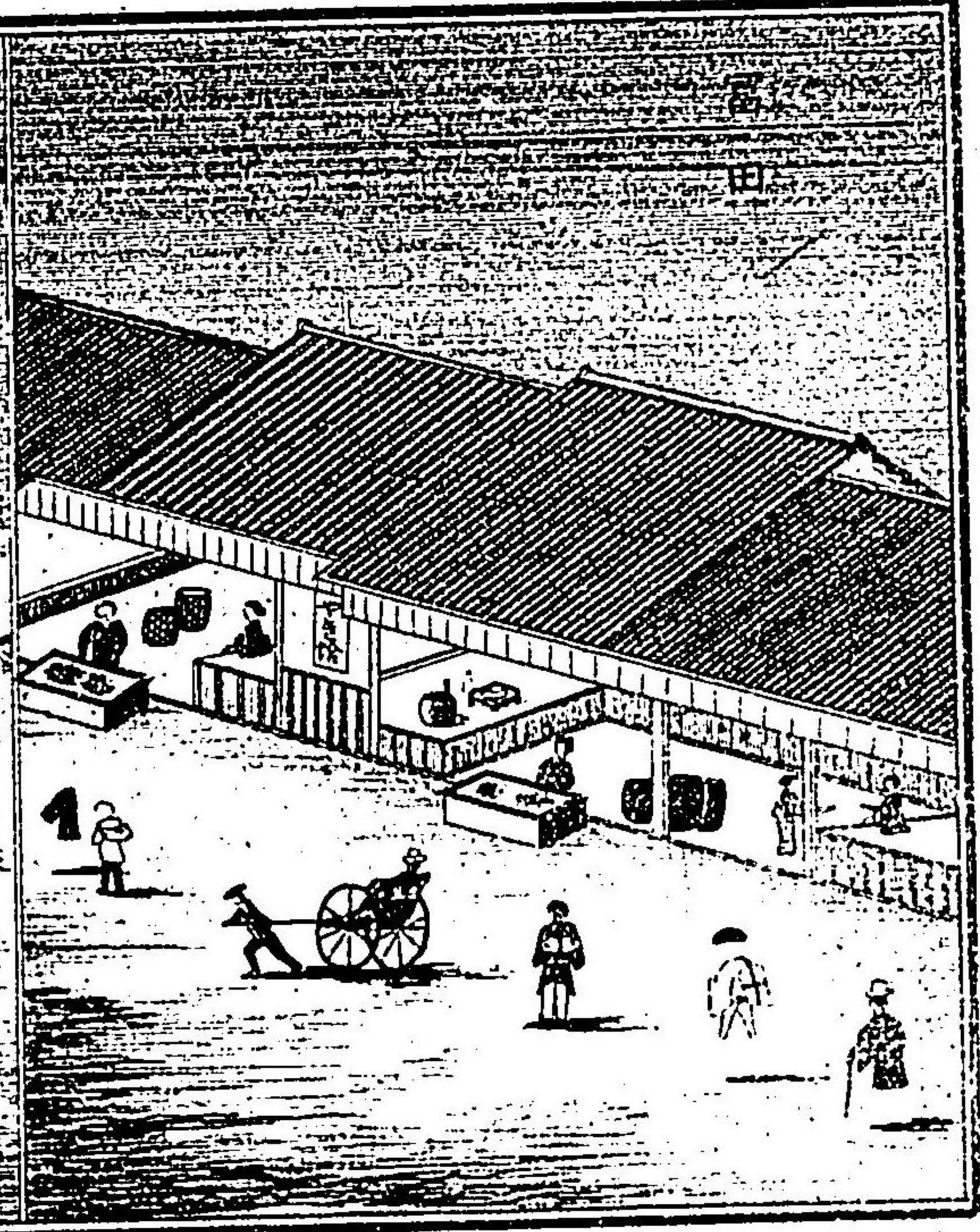
楠屋權右衛門

内田篤造

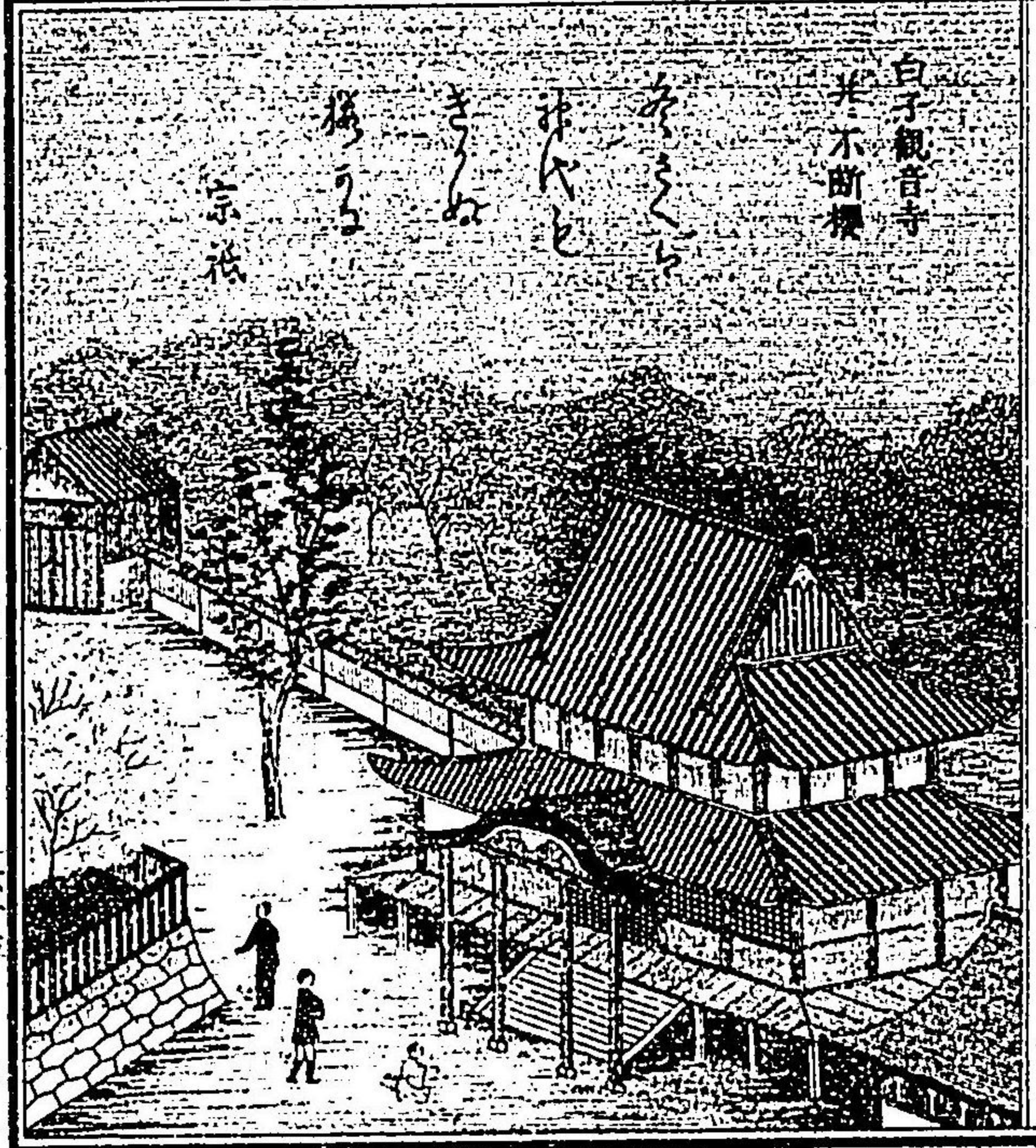
内田屋三右衛門

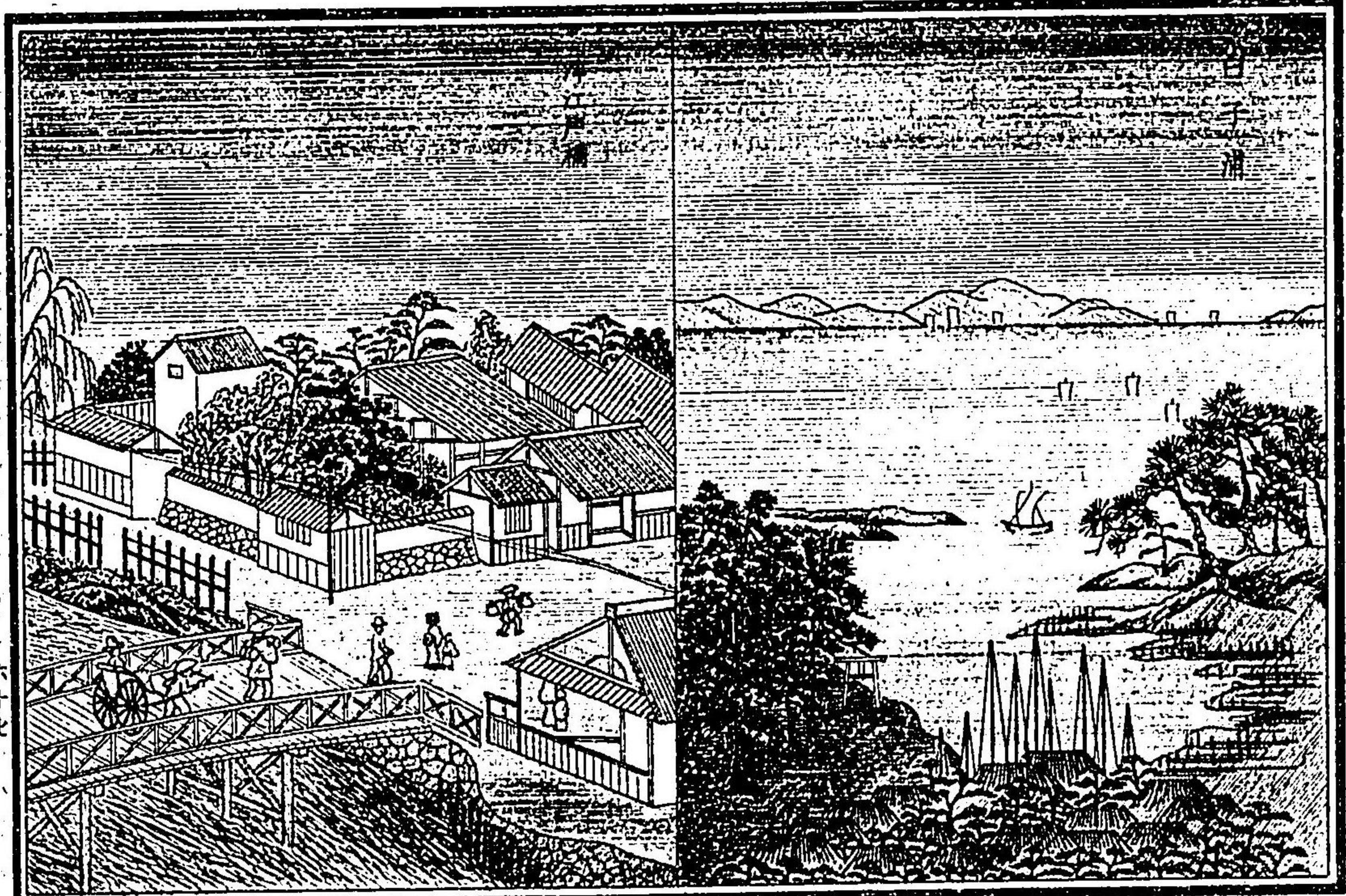
名産

酒類



○矢橋 神戶の南五丁石標あり古稲荷左白子
 ○鎌倉権五郎景政塚 田中の森あり
 ○若松 神戸より一里東南の方海岸の湊なり
 ○三日市 野町の西の社
 ○玉垣 白子より一里
 ○江島 白子の北岸ありて郡役所あり東京船積をなす問屋多し
 旅宿業





名産

素麵

染形紙

○寺家村

○鞆ヶ浦

○白子山観音寺

白子瀨といふ白子町の東なり寺家村あり聖武天皇の勅願して天平勝宝年中藤原不比等の

○不斷櫻

境内にある名木一して年中花と開く日本の一奇樹なり

上野

津へ二里十六丁

旅宿業

鳴子屋兵衛

角屋庄兵衛

萬屋源四郎

材木屋半右門

○江戸橋

大部田北の入口左の方の橋にて東國往來の道分なり津より山田に至る順路前記す

○東海道桑名より關小出る順路

桑名より四日市に至る順路前記す

四日市

石薬師二重丁

○日永村追分

石薬師

庄野へ二重丁

旅宿業

百屋佐兵衛

柏屋清八郎

薬師堂

木苧薬師如來

庄野

龜山へ二重丁

旅宿業

關屋與兵衛

石見屋喜兵衛

亀山

關へ一里廿三丁

鈴鹿郡南部の中央にあり石川氏の旧城下にして戸數五百郡役所あり
 城壁ハ安藝守關宗一關の古城を移して此地に築く

旅宿業

藤屋久右衛門

伊勢屋嘉市

煙草屋文吉

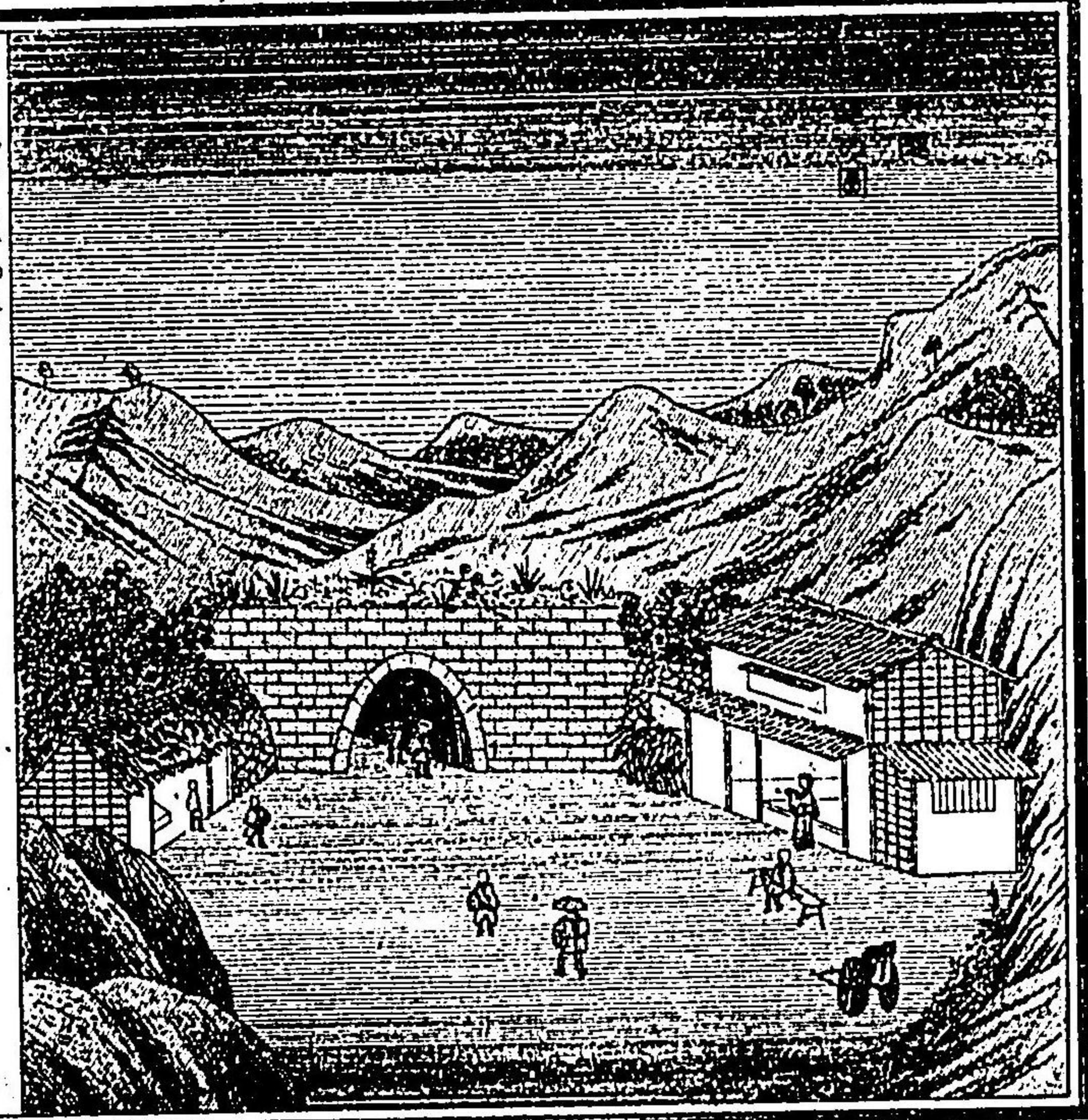
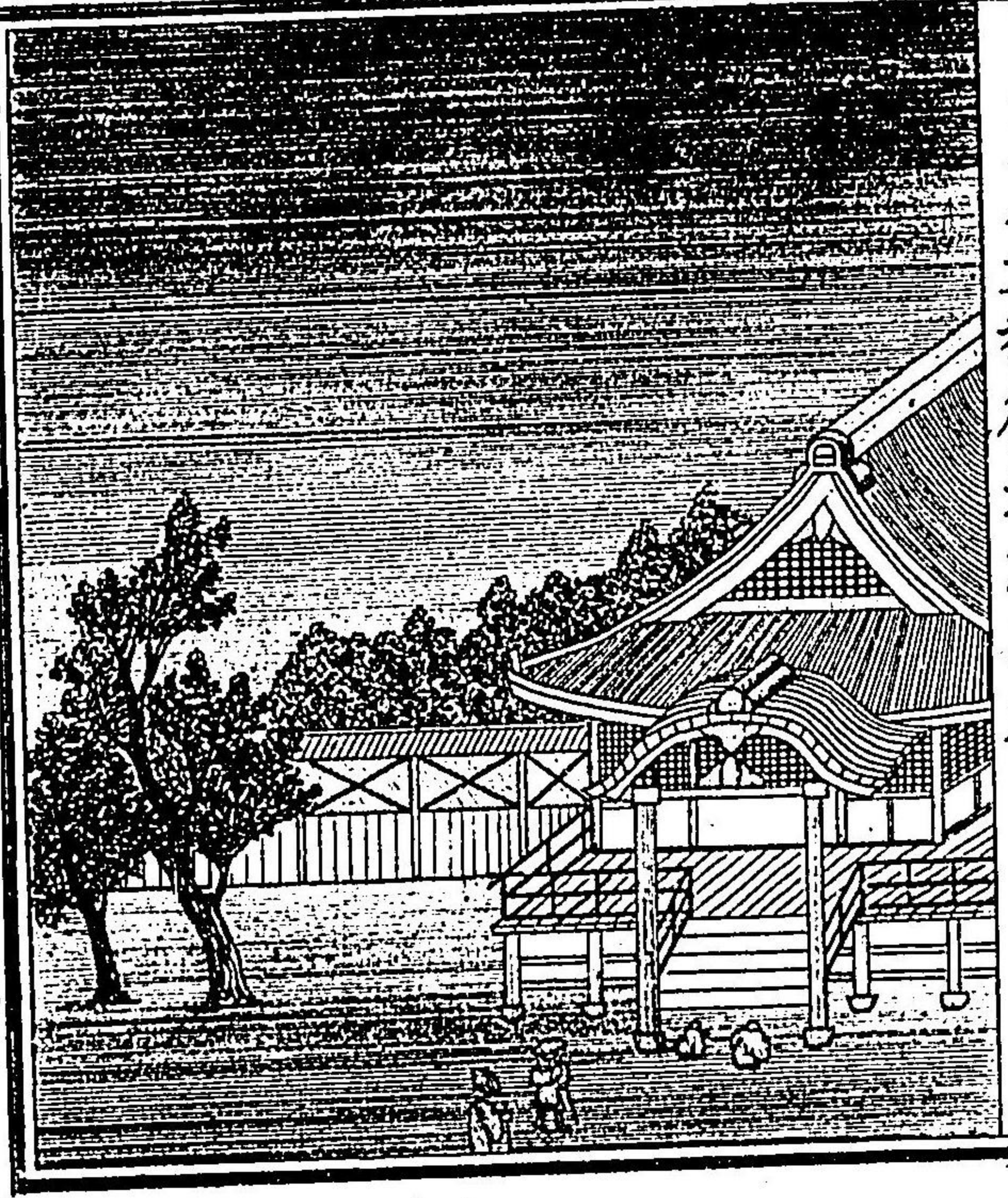
△木崎村

關

坂ノ下

△關より京都小出る順路前に記す

△大和街道加太越



關驛追分

加太村へ一里十四丁

旅宿業

鶴屋吉兵衛

加太

上柘植へ二里十一丁

旅宿業

尾張屋市兵衛

上柘植

佐那具へ二里十二丁

旅宿業

鶴屋嘉右衛門

佐那具

上野(一里十九丁)

旅宿業

榎屋忠左衛門

上野

島原村(二里三丁)

旅宿業

松屋半兵衛

島原

山城國堺(廿二丁)

旅宿業

伊勢屋兵衛

津

△伊賀街道長野越

片田村(一里十丁)

片田

長野(一里十三丁)

長野

平松上阿波(一里二十五丁)

△長野峠

平松上阿波

平田(一里十丁)

平田

上野(一里六丁)

上野

△阿保越不て伊勢参宮歸路

六軒

小川(一里八丁)

旅宿業

小津屋喜右衛門

東屋虎吉

活屋五郎兵衛

小川

畑(一里)

旅宿業

藤村屋孫兵衛

笹屋五兵衛

小野屋才兵衛

畑

二本木(二里十八丁)

旅宿業

三永屋定次郎

萬屋利兵衛

田尻

旅宿業

伊勢屋彌藏

大の木

旅宿業

油屋新七

二本木

入道垣内(一里十二丁)

旅宿業

榎屋五郎兵衛

増田屋右衛門

角屋和右衛門

名物

うどん

そば

中村

旅宿業

村田屋忠内

入道垣内

伊勢地(二里)

旅宿業

大和屋孫右衛門

隅田屋嘉平

伊賀屋吉兵衛

浅間

伊賀伊勢の國境なり

旅宿業

伊賀茶屋三右衛門

伊勢茶屋宗五郎

△石地藏尊

弘法大師一夜の作なりといふ

伊勢地

阿保(二里五丁)

旅宿業

大和屋平右衛門

阿保

名張へ三里十一丁

旅宿業

田原屋清左衛門

森本久兵衛

新田

旅宿業

井筒屋孫右衛門

名物

とろ汁

追分

旅宿業

立場清藏

名張

三本松へ二里十二丁

旅宿業

小竹屋彦兵衛

町田屋武兵衛

坂の下

旅宿業

坂本屋政右衛門

三本松

一里十丁

旅宿業

鍵屋五兵衛

阿波屋

萩原

初瀬へ一里十丁

旅宿業

沿屋弥右衛門

油屋郎兵衛

初瀬

三輪へ一里廿三丁

旅宿業

駒屋又三郎

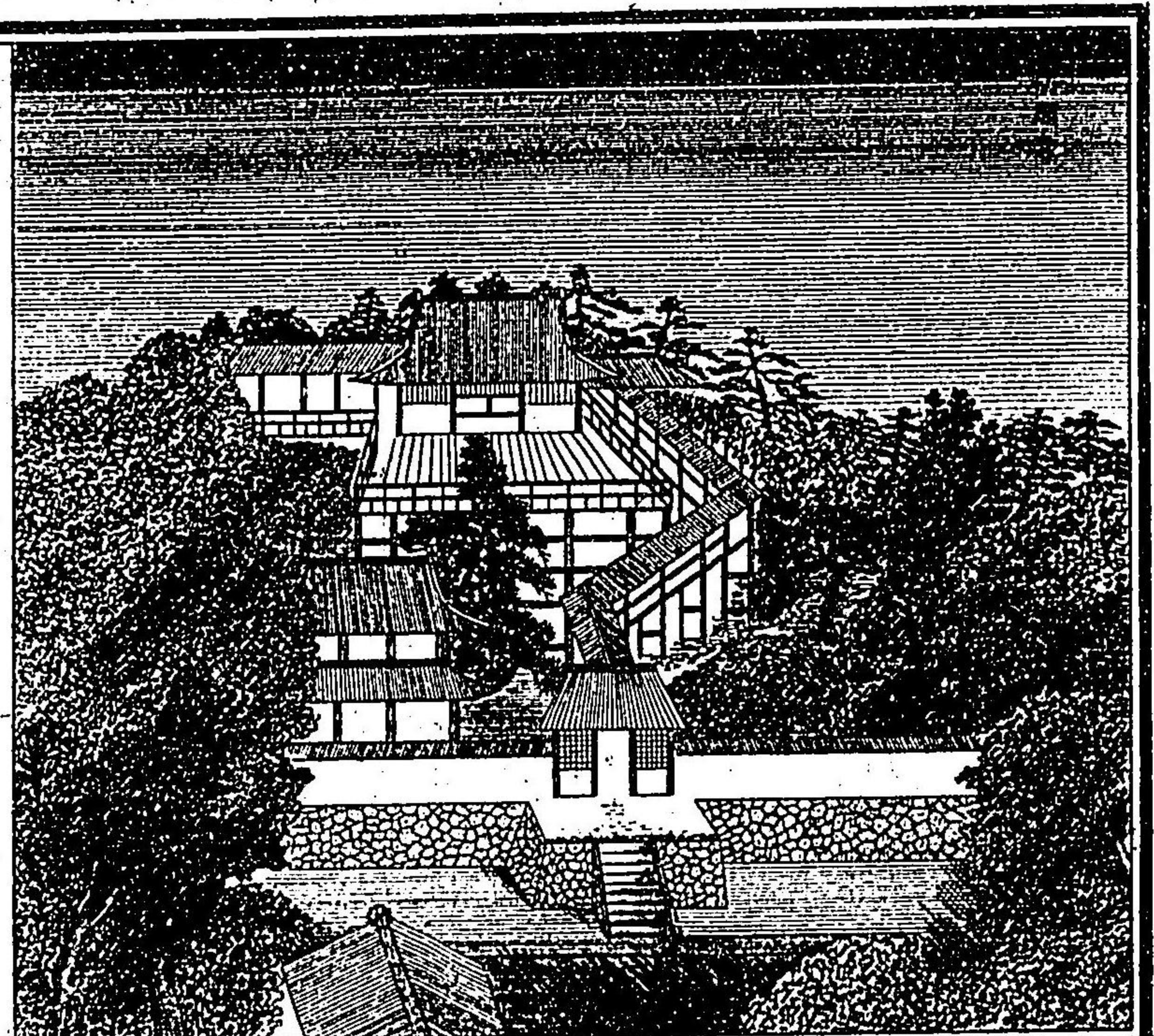
扇屋又一郎

喜屋平右衛門

木屋治郎兵衛

△初瀬寺

本寺十一面観世音風景よく境内一面は牡丹ありて壯観なり



妙薬

解毒丸

追分

旅宿業

丸屋利兵衛

小間物屋甚次郎

三輪

丹波市へ二里五丁

旅宿業

名物

えらめん

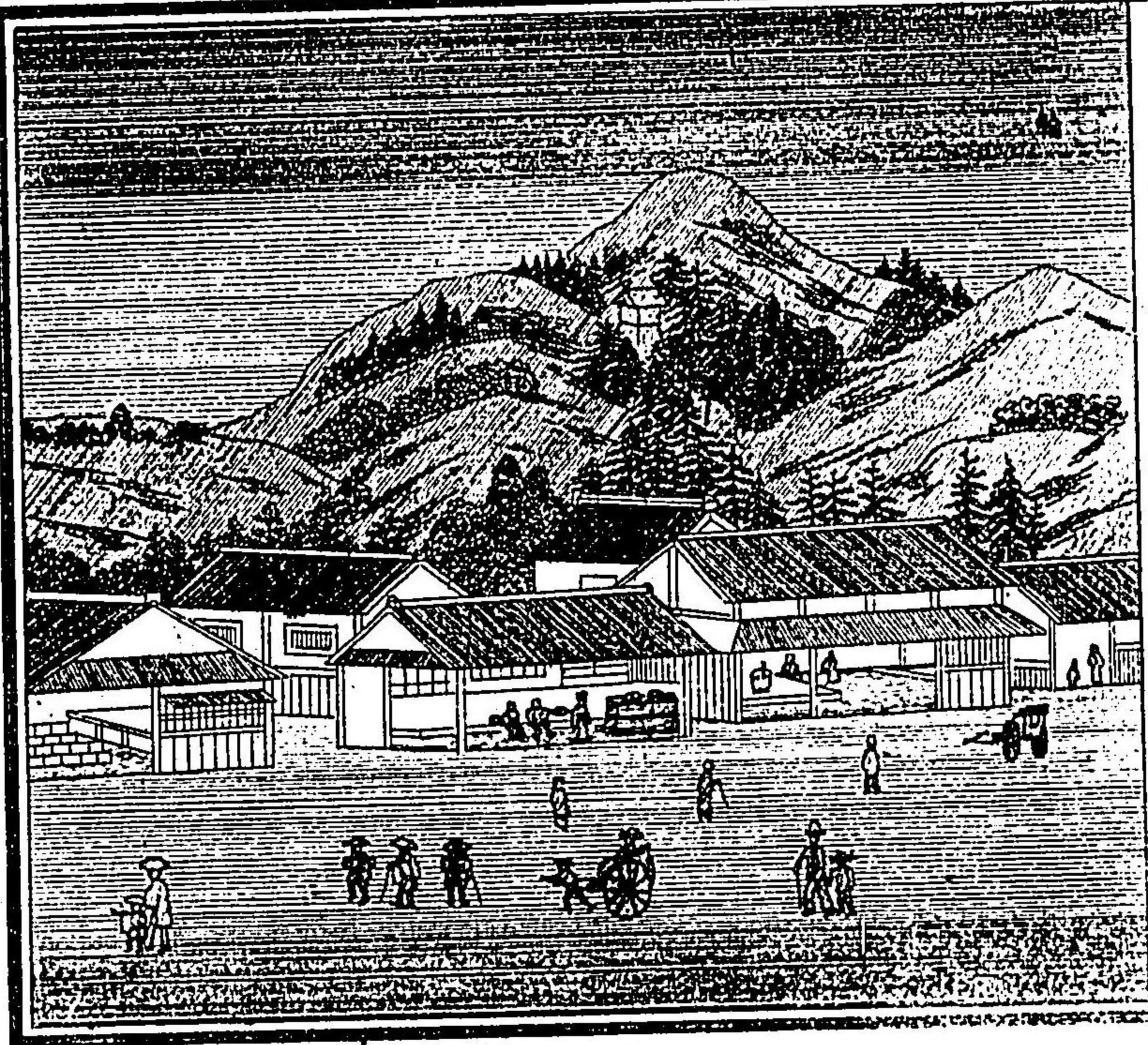
高田屋勘兵衛

竹田屋甚七

梅川忠兵衛あそび茶屋あり

三輪神社

官幣大社なり



柳木

崇神天皇御陵あり

丹波市

旅宿業

扇屋庄兵衛

吉野屋弥市

大和屋久兵衛

石上神社

在原

旅宿業

角屋藤九郎

在原業平朝臣誕生の所も在原寺の古跡あり

名物

旅宿業

吉野屋文三郎

名物

ちよせんあめ

子安地藏堂あり

奈良

旅宿業

小刀屋善助

新屋庄兵衛門

魚屋佐兵衛

籠屋喜八郎

松竹屋

名産

奈良晒筆

墨

名所

若宮社

水谷社

春神社

若宮社

水谷社

三のさ山



○若艸山 ○手向山 ○八幡神社

○四月堂 ○三月堂 ○二月堂

○若狹井 ○大佛 ○同鐘

○興福寺 ○八重櫻 ○南圓堂

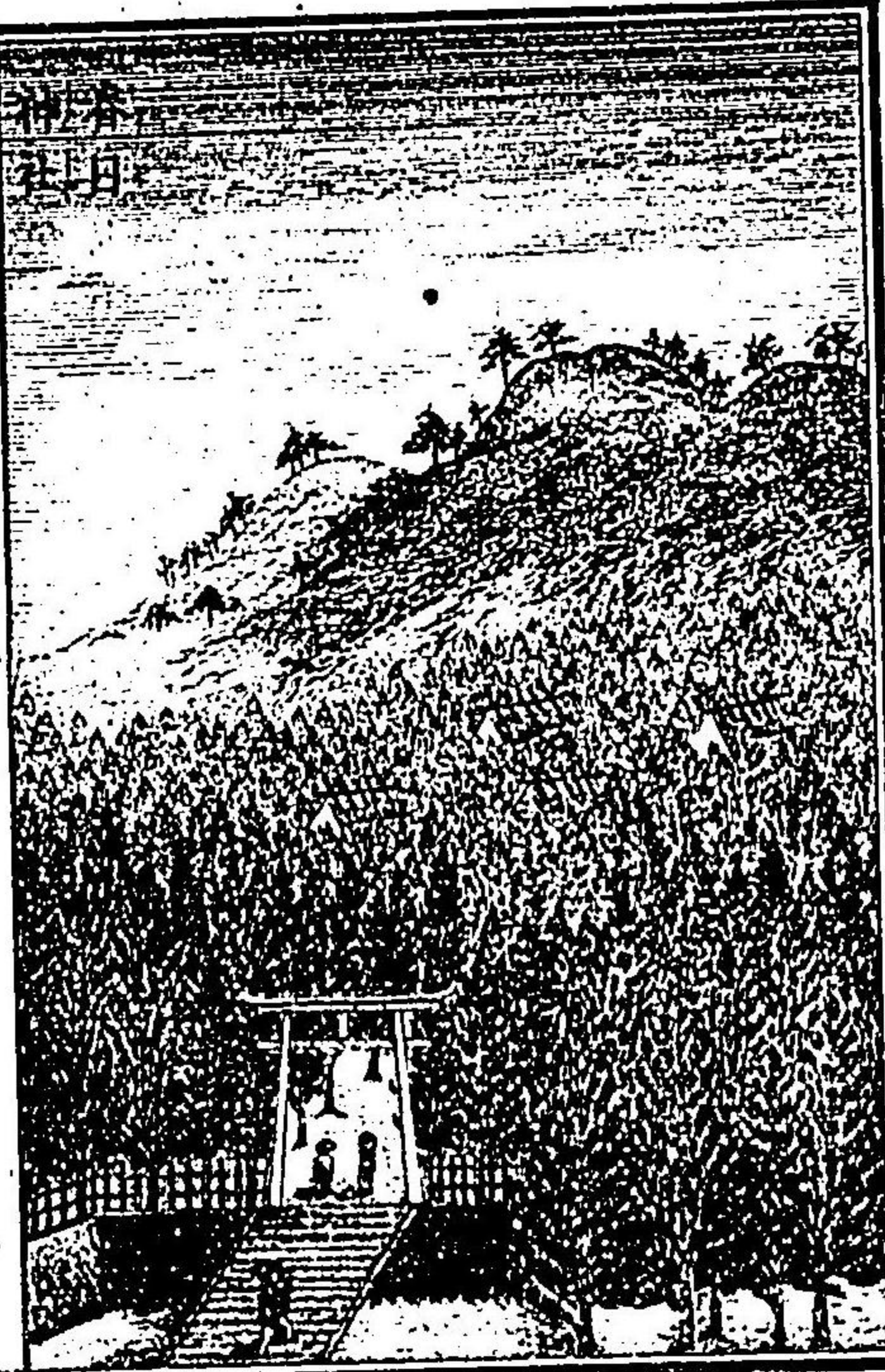
○寺堂伽藍 ○角屋郎兵衛

尼グ辻 旅宿業

追分 奈良屋重衛 角屋勘右衛門

旅宿業 豆腐屋貞兵衛

室木 旅宿業



小瀬 松原へ 二里十一丁 橋屋若衛門 小松屋利助

旅宿業 暗峠

旅宿業 郡屋五郎兵衛 糸屋長右衛門 油屋市兵衛

豊浦 松屋庄七 松川屋寅吉

旅宿業 松原 大坂へ 二里九二丁

吉屋信右衛門 四條屋喜兵衛

旅宿業 河内屋喜兵衛 兵庫屋兵衛

旅宿業

旅宿業

二軒茶屋
軒屋由兵衛
鶴屋秀次郎

熊野街道

山田追分 田丸へ 一里十三丁
相鹿瀬 栗生へ 三三三丁
野後 大内山へ 三三三丁
長島 船津へ 四里十九丁
尾鷲 二木島へ 六里十二丁
木ノ本 阿田和へ 三三三丁
阿田和 二木嶋 船津 大内山 栗生 田丸
和歌山縣界へ 二里九丁

午前八時發

賃金 上等七十錢 中等五十錢

午前八時發

賃金 上等七十錢 中等五十錢 下等四十錢

從神社至尾州熱田

神宮記事

皇太神宮

別宮 九宮 末社 十五社

豐受神宮

別宮 四宮 末社 八社

官幣大社

官幣小社 二箇所

官幣中社

別格官幣社 九箇所

國幣中社

府縣社 三箇所

國幣小社

郷社 三箇所

村社 三社 府距離 五万四千四百五箇所

東京府 百三十三丁二十間

京都府 三十八里七丁二十七間

大阪府 五十一里八丁四十六間

三重縣 十一里三十三丁五十七間

皇太神宮 無仁天皇即位廿六年丁巳十月鎮座當改丁巳秋九月甲子鎮座紀元六百五十七年

豐受大神宮 雄略天皇即位廿二年戊午七月鎮座當改戊午秋九月望鎮座紀元千〇六十六年

年中祭日總計

大祭	二十七	中祭	十
大祓	八	遙拜	二

明治三年三月十二日 明治 年 月 日
 同 五年五月廿六日

御參拜
 御代拜
 御使參向

明治十一年十月廿六日
 新嘗祭 二月四日 新嘗祭 十二月廿三日
 神嘗祭 十月十七日

文庫 四所

藏書
 内國書
 外國書

馬本 二千五百十二部 五千八百十四冊
 板本 二千五百十六部 一万五千八百冊
 寫本 四十部 八百八十八冊
 板本 五百五十九部 五千九百七十三冊

部數通計五千三百五十七部
 卷數通計二萬四千八百七冊

職員表

祭主	一員	宮司	一員	禰宜	七員	主典	二十員	宮掌	三十員	御用係	一員
無官賃	十六員	樂員	常雇在	給仕	小者						
總計人員	三十人		三人								

旅中心得

一旅行所持つべき品も、樂、飯行李、風呂敷、水呑、櫛、油、女ふいば、必ず入用糸類、針、小刀、剪刀、墨壺、摺附木を用意を怠らざり。且つ長旅の磁石、雨具、提灯、蠟燭を携へざれば夜中雨降る杯、難儀なることあり。

一襦袢、積鼻禪もかけえんを持つべし。
 一道中、みをおつらはぬやう、日々用心を盡し、尚又食物のぎんみ第一なり。

一大酒慎むべし、夜中に帯をぬねるべからず、一道を歩むるに二三日の間、静み歩み度々、休息をばへ、足踏み固らば思の外、掛取り、又泊る時、日の内、宿を取るべし、第一に、其宿の東西南北を能く心得て家の勝手

と知り兩便所又いうら口其邊の勝手も覺え置き萬一近火又ハ非常の事起りし時の逃道の心得なり

一人力車や雇ふにも宿屋へ頼むべし自分にて引合と經ハ途中にて何事起るも計られず用心を盡し但し先の車引はもつたるなり

又女を連れて旅する時は諸事ハ注意すべし人力車其外休息するときは先へやらげ付添なり間違等出來ることあり

一宿屋を出立するときは氣を静めて物を忘るぬやうにせよ旅籠料を直切べからず取扱廉未あればなり

一近道を案内する人ありと決て行くべし難澁することあり

一道中ハ種々の人往來すれば安らみ人をおどし又喧嘩口論ある處へ立寄るべからば災難を受けてひやぶる事あり心得べし

一遠路をあゆみ足痛みたる時と宿へ着き風呂へ入て後塩を口みてかみ足の裏を塗りて火をふるべし又足は豆を踏出したる時を

ウソンの粉を水でぬるべし烟草の吹からぬをつくい小押交附て火をあぶるも妙あり

一夏の旅ハ笠の下へ桃の葉を入てかむれば暑氣を受けない事妙あり又足のうら熱痛むにも蓼の葉をすきて其汁をぬりてよ

一夏水飲時ハ藥を用いて吞めば何れも

一船ハ酔ざる法ハ硫黄を紙に包み懷中に入れ酔ふことなし又梅干は含むもよし乗船前ハ醋氣のものを食はぬやうにせよ

一駕籠ハ酔たることハ熱湯ハ生姜の汁をいれ汁を入れて飲むべし冷水ハ吞むべし

一棘蓼を乾床の下へ敷けば蚤を避るなり

一龍腦麝香樟腦の類都て香氣の高きものを懷中すれば毒虫を避る蝮小蟻たる時白柿をかみて塗付なす

一そげぬきの法は甘草を噛みてつくべし深く入たるときは數度つくべし自然とぬくるは妙なり

一足の指と次の指との間甲につけてくばき處わらどくひあどはると久く愈ぬとの那り旅中ふては随分疵の付ぬやうにすべし

一草臥て足痛むとたい焼酒を膝より足のうらやめて吹きつくべし

一魚骨咽ふたたるときは蜜柑のうらやきか呑むべし

一湯氣ふ當りたるときは其面へ冷水をふまかかす

一衄血療法は大根の志ぼり汁を鼻の中へ滴り入る燈心草を鼻の孔の中へ詰めふさいでよ

一切疵つき疵りろくの血を止るに何草もても其處は有合たる草三品を塩小てもみ疵口に付きば立どろる血止りい由る

はと妙なり但し塩を加へざるもよし凡たりきば血多く出るをいひもみやりて燈心を其疵口の大小程ふかためてかとおし押し付るの上を木綿よそを置き置くる血

自づと止む

一蝮蛇をかまれば時澁柿をつきて汁を取りぬるべし若ふきとれたるをまきみ醋を煮ぬる又胡瓜をすりて付なす妙治也

又創口をわりひらき十字形をふし指さきを以て其血をほり出し醋を洗ひ次は發泡膏を貼し其毒液をのらばなす

又其處をさして吸玉なうけ血を取もよし
 一諸物目み入る沙ちりの目み入るたるは面を
 温水の内は浸しれを目を開き面を度々
 振ふべし砂ちりぬづら出づ
 一途中小て地震に遇をいづのふもして平地
 不出る心がけらるべし平面の地はさけぬなり
 一過て火を失する時々心徐小水を注ぐ云ふ
 辻あなれど或い衣類具延を水浸し火
 松失したる所は覆ふべし又藁蓆を同く
 水浸し火の飛ざるやう徐に敲き消をも
 可なり若火の氣大ある時襖戸の類を持
 ち出し取敢上より引覆ふべし
 一過てランプが倒れか又い落を時を決し水
 を用おぐす有合衣類乃至延の類を以て
 徐ふ上より覆ひ探み消さべし但し此火は
 免の急なれを各自成るべく平生小
 注意さべし

晴雨考

一船小て火を失する時衣類又蒲團の類
 を水漬引揚げ水の滴るまを火を覆ふべし
 一雨降らんとする時山ちのく見へ晴天は
 は遠くみえるなり
 一草葉ふ多くの露ある時快晴の徴候あり
 露無く風も無き時必ず雨降るふと知るべし
 一晚霞ある時翌日晴天の徴候なり
 一朝鳥鳴る雨夕鳥鳴る雨をとりさるなり
 一夕虹は晴朝虹は雨の兆あり
 一虹の色夕赤く朝灰色あるは晴天をいふ
 ふた色朝夕變りてたれば雨降るなり
 一鳴もの音惡しきとれ雨ふる験なり又
 腫物のかゆれは雨ふる志なりなり
 一灯のきた光うごきとらるは風雨なり
 一雲西方より遙ふ頭上を蔓延る朝霞の
 する時風起るか雨降るか若くは風雨共ふ

来るべしと知るべし

一雲の全量ヲ測るも零より千に分ち全天の半ヲ覆ふ之を五と一全天皆陰を之を十と定むるの法を以てすふなり

一雨天中その雲色海面の如く蒼蒼たる

時益多く降るなり若し又雨天中雲

色濃き藍色をば時驟雨に變るもなり

一雲の厚きたふびきて頗る速く蔓延する時ハ

大雨の徵候なり又夏季ハ又雷電の徵候なり

一雲の形容羊色の如くして其中央密に其端

疎ある時ハ雨雪雹の中何れも降るべき

徵候と知るべし

一空中ハ雲高くその形容恰も髮毛を並べた

る如く層薄くして色白くたふびく時ハ風の

出る徵候なり又雨降るべしとあらん

一白雲高く天を蓋ひ其下ハ又黒雲のある

時ハ必し雨降る徵候なり又その雨多し

永く續くもはなり

一雲の二道ハ分きて走る時常ハ雨降る徵候

なり又夏季ハ又雷雨の徵候と知るべし

一空中ハ霧氣多く日光朦朧して大湯ハ

唯白き圓体の如く見え又夜中ハ月色

朦朧して月の周圍ハ暈ある時ハ必し

雨降るべしと知るべし

一月色あまなりるとき時ハ雨降る徵候なり

其赤きとれた風吹くことと知るべし但し

快晴なり月色常ハ異らぬ時ハ明日晴天

ありべし

一日没ハ天紅色を現はし好天氣なり又天

色殆ど緑なり薄弱なる風及雨あり

一日没の時雲銅の如き色ヲ帯ぶる風あり

一日没の時雲赤色ありて黒みある時ハ雨あり

一晨天の紅色を現はし大風雨又恐く雨

一 晨天の霞色を帯ぶるは好天氣あり然れども雲氣高く抹まれれば風を添ふべし又雲色低く抹すれは麗晴あり
 一 靑空ありて明朗ある空は好天氣なり又鬱氣ある空を風なり
 一 日没の時天黄金色或作は時を風あり
 一 日没の時雲薄黄色又銅色をあはれんは風及雨の徴候と知るべし
 一 黒色の小塊魚鱗の如く連続するは雨を報するあり
 一 鬱黒なる浮雲數塊連りて横走し雲尾短きもの雨及び風を報す
 一 低雲あり之と方向を違へて諸天体の前を經過る高雲は其方向に風の變あるを表するなり

一 瀧車の一哩ハ十四町余小當り乗車賃は大抵下等一哩ハ五錢の割合と知るべし
 一 満四歳までの小児ハ無賃四歳より十二歳までの半額より厘以下の端錢ハ切り上げて壹錢となして拂ふが定例なり荷物運賃を拂ふも亦同し
 一 手荷物ハ下等乗客一人ハ三十斤までハ無賃にて運送も多かり停車場内にお荷物扱所へ往きて之を預け預りの証を受取り置くべし此時荷物の目方をあけて三十斤以上かき定め賃金を拂ふべし先方の停車場へ下りて時此預り証を手荷物扱所へ出して前の荷物を受取るなり
 一 三十斤未満の手荷物ハ高張らぬもの預くる不及を以自ら携ふべし
 一 手荷物ハ我が手廻りの用品に限ることにて商品の類ハ賃金を拂ふべき筈なり

一人して手荷物を多く持つときは下等小乗
 るべきを中等小乗の六十斤の物を持ち得
 る故下等小乗を三十斤以上の賃金を拂
 ふより便利して割合なき事もおて此外も
 箇様の便益あるべし工夫すべきよし
 一 中等二人して六十斤以上上等百斤までの
 手荷物を無賃にて持ち得るかや
 一 手荷物ふは父ら自身自身の宿所姓名を認め
 たる札を付けおさへし

一 何れの停車場も雑聞を故懐中物手荷物
 等十分注意せよとバ陶摸を奪う患あり
 一切符ハ大槩發車時間の十分前小賣出を故
 狼狽ぬやう手早く買取るべし賃金を拂ふ
 小成りけ釣銭を取らぬやう始めより勘定
 ねとへし混雜の中よる間違を生し易き
 ものなりや
 一 切符ハ其時通行の証なきハ其日限りのもの

ふて今日の切符ハ翌日の用を為さば又途中
 まで一たび下車し復い乗る時改めて其停
 車場より先き切符を買ふの損あとも停
 車場を取違て下りぬやう注意をせし
 一 切符を買ひしハ失ぬ様帽子の裏又革
 盤煙草入等小確と入置置く勿論かん共
 成し手早く出し得るやう所持をせし
 一 瀟車小乗るとき急ぎ物を取るとき又ハ
 車中の窓より頭を出し帽子を飛ぬ用心を
 せし

一 乗車を前小よく心付けて大小便を足し置
 ぐべし途中停車場にて車を停むることので
 とも僅々三分五分より時間をなまむ下る
 違かろくして難渋なきことあて小児を携へ
 たる人ハ猶更用心をせし

一 鉄道の里数長きとたハ自然退屈して眠を
 催さることある車中といへども陶摸の患いあ

この油断をばくし
 一 瀟車発着時間表は何きの停車場にも掲げ
 おととも旅行者ハ必ら此表を所持し常
 時間不注意をばくし然らばこの無益なる時
 を費やけのなまじ急ぐべしよき車走
 らせて余計の賃金を拂ふの損あり
 一 停車場構内不定する徽章の法被を着
 る車夫の場所なき其車に乗るべし土地
 の勝手知らざる者ハ他の車に乗るべし不当の
 賃金を貪らば又ハ曖昧の旅人宿へ引込む
 等の患あるより少し賃金高くとも構内の
 車に乗るべし
 一 鉄道規則ハ乗客心得もおとハ知て置くべ
 し又時間を向合せ發車の順序など問ひ度
 き時ハ構内小居る巡查問ふべし萬事親
 切小教へ呉るべし

版權登録

明治二十二年十一月廿二日印刷
 全二十二年十一月廿三日出版

定價金二十錢

版權所有

大冨市東區北濱四丁目百七番屋敷
 發行兼印刷者 岸 本 榮 七
 三重縣志摩國桑名郡馬方村大字橋方百全四番邸
 編纂者 大 矢 奴 居 大 本
 大冨市東區備後町通四丁目
 發兌所 吉 岡 平 助 吉 岡
 三重縣伊勢國津市地頭領町
 大賣捌所 豊住 謹 次 郎 豊住
 全縣全 國四日市港南町
 伊藤 善 太 郎 伊藤

伊勢國山田八日市場町	全 大橋通
石 九 弘 人	全 米屋 甚右衛門
全 山田一志町	全 大和屋 與兵衛
加 藤 長 平	全 六 軒
全 外宮前	全 布袋屋 半四郎
取 北村屋 甚藏	全 東 屋 虎 吉
全 角屋 和惣治	全 津市大門町
全 古市町	全 河島 九右衛門
油屋 清榮門	全 所京口町
全 所	全 松田 鉦 三 郎
全 宇治橋畔	全 所西町
岡田屋 助市	全 柴田 善右衛門
全 明星駅	全 所東町
三田屋 三郎兵衛	全 所 若狭屋 六右衛門
全 松阪日野町	全 所 大野屋 吉兵衛
次 中西 嘉 助	

全 所 松阪屋市兵衛
 全 四日市南町
 全 岩田與兵衛
 全 若井嵩山堂
 全 濱田屋傳六
 全 井筒屋清七
 全 來名本町
 全 有文堂
 全 所魚之棚
 全 森傳四郎
 全 所殿町
 全 羽柴茂三郎
 全 所波戸場町
 全 錢谷亦右衛門
 全 京屋小兵衛
 全 龜山
 全 藤屋久右工門
 全 關
 全 鶴屋吉兵衛
 全 會津屋安五郎
 伊賀名張
 全 芳澤清三
 全 小竹屋彦兵衛
 全 町田屋武兵衛
 全 上野農八町
 全 安屋勝次郎

賣

捌

所

全 所中町
 全 柴高保造
 全 松屋半兵衛
 大和奈良
 全 阪田一郎
 全 豐住支店
 全 小刀屋善助
 全 魚屋佐兵衛
 京都寺町三条
 全 清水幾之助
 全 所東工入
 大津中京町
 島林專次郎

泉筆

一名器械毛筆
 一等筆銀製大形定價三拾圓郵稅貳圓
 全 小形眞書定價貳拾圓郵稅貳圓

本邦人の古來の筆を用ウルに別レ其文字モ亦毛筆ニ非サレバ不便ナリ而シテ至急ノ場合又ハ旅行等ノ時至急ヲ用ウルニ便ナラサル時アルナリ此毛筆ハ筆管ノ中ニ墨汁ヲ蓄ヘ置キ螺旋ヲ以テ其吐出ヲ加減シ得ベキ構造ナレバ用ニ臨ンテ現筆ヲ要セス文字亦速ニ毎ニ墨ヲ付ルノ煩勞ナキヲ以テ傍聽筆記帳中ハ固ヨリ平素文字ヲ認ムルニモ之ヲ用レバ便且利ナルハ長クテ實驗シテ証スル處ナリ現今發明品ト稱シテ兎ニ等シキ物ヲ發賣スルモノアリ又便宜ナルモノ有ルモ製造意匠ヲ及サレニ忌ミ毀損廢棄スルノ弊アレバ此泉筆ニ於テハ斯ノ如キ難ナクシテ持久ノ益アルト亦保証スル處ナレバ御試用アラシムルヲ但一販賣モ御望ノ方は御來談被下度候
 大政心齋橋通備後町前書林
 大政元賣所 吉岡平助 敬白

